Gura ライブラリリファレンス

Updated: December 15, 2013

Copyright © 2011-2013 ypsitau (<u>ypsitau@nifty.com</u>)

Official site: http://www.gura-lang.org/

目次

1	~ m	リリファ	シンスについて	16
1. 2.			変数	
2 . 3.	-] <u>*</u>	
	3.1.			
	3.2.		構文	
	3.2.		Gura における制御構文	
	3.2.		関数内のフロー制御	
	3.2.		繰り返し	
	3.2.		繰り返し中のフロー制御	
	3.2.	5.	条件分岐	20
	3.2.	6.	例外処理	21
	3.2.	7.	switch 文	21
	3.3.	デー	-夕変換	22
	3.4.	クラン	ス操作	22
	3.5.	変数	෭スコープ操作	23
	3.6.	イテ	レータ生成	23
	3.7.	フォ	ーマット変換	24
	3.8.	ストリ	Jーム処理	24
	3.9.	モジ	ュール	25
	3.10.	ラ	[*] ータ型処理	25
	3.11.	演	〔算•統計	26
	3.12.	ス	クリプト評価	26
	3.13.	刮	数	26
	3.14.	そ	の他	27
4.	プリ	ミティ	ブクラス	28
	4.1.	nil	クラス	28
	4.1.	1.	概要	28
	4.1.	2.	インスタンスの生成	28
	4.1.	3.	スクリプト内での扱い	28
	4.2.	boo	lean クラス	28
	4.2.	1.	概要	28
	4.2.	2.	インスタンスの生成	28
	4.2.	3.	真偽の扱い	28
	4.3.	com	plex クラス	28
	4.3.	1.	概要	28
	4.3.	2.	インスタンスの生成	28

4.3.3.	インスタンスプロパティ	29
4.4. fra	action クラス	29
4.4.1.	概要	29
4.4.2.	インスタンスの生成	29
4.4.3.	インスタンスプロパティ	29
4.4.4.	インスタンスメソッド	29
4.5. nur	nber クラス	29
4.5.1.	概要	29
4.5.2.	インスタンスプロパティ	29
4.6. st	ring クラス	30
4.6.1.	概要	30
4.6.2.	インスタンスの生成	30
4.6.3.	インスタンスメソッド	30
4.7. syr	nbol クラス	33
4.7.1.	概要	33
4.7.2.	インスタンスの生成	33
5. 組込みク	7ラス	34
5.1. obj	ject クラス	34
5.1.1.	概要	34
5.1.2.	インスタンスの生成	34
5.2. arg	gs クラス	34
5.2.1.	概要	34
5.2.2.	インスタンスの参照	34
5.2.3.	インスタンスプロパティ	34
5.2.4.	インスタンスメソッド	34
5.3. aud	dioクラス	34
5.3.1.	概要	34
5.4. bir	nary クラス	34
5.4.1.	概要	34
5.4.2.	インスタンスの生成	35
5.4.3.	クラスメソッド	35
5.4.4.	インスタンスメソッド	36
5.5. cod	dec クラス	38
5.5.1.	概要	38
5.5.2.	インスタンスの生成	38
5.5.3.	クラスプロパティ	38
5.5.4.	クラスメソッド	38
5.5.5.	インスタンスメソッド	38
5.6. col	lor クラス	39

5.6.1.	概要	39
5.6.2.	インスタンスの生成	39
5.6.3.	Web 標準カラー名	39
5.6.4.	クラスプロパティ	39
5.6.5.	インスタンスプロパティ	40
5.6.6.	インスタンスメソッド	40
5.6.7.	キャスト	40
5.7. da	tetime クラス	40
5.7.1.	概要	40
5.7.2.	インスタンスの生成	41
5.7.3.	クラスプロパティ	41
5.7.4.	インスタンスプロパティ	41
5.7.5.	クラスメソッド	41
5.7.6.	インスタンスメソッド	42
5.8. de	claration クラス	43
5.8.1.	概要	43
5.8.2.	インスタンスの参照	43
5.8.3.	インスタンスプロパティ	43
5.9. di	.ct クラス	43
5.9.1.	概要	43
5.9.2.	インスタンスの生成	43
5.9.3.	インスタンスメソッド	44
5.10.	directory クラス	46
5.10.1.	概要	46
5.10.2.	インスタンスの生成	46
5.11.	environment クラス	46
5.11.1.	概要	46
5.11.2.	インスタンスの生成	46
5.11.3.	インスタンスメソッド	46
5.12.	error クラス	46
5.12.1.	概要	46
5.12.2.	インスタンスの生成	46
5.12.3.	クラスプロパティ	46
5.12.4.	インスタンスプロパティ	47
5.13. e	expr クラス	48
5.13.1.	- 概要	48
5.13.2.	インスタンスの生成	48
5.13.3.	Expr 要素と判定メソッド	48
5.13.4.	- インスタンスプロパティ	48

5.13.5.	インスタンスメソッド	49
5.13.6.	式を構成する要素	50
5.14.	function クラス	51
5.14.1.	概要	51
5.14.2.	インスタンスの生成	51
5.14.3.	インスタンスプロパティ	51
5.14.4.	インスタンスメソッド	51
5.15.	help クラス	52
5.15.1.	概要	52
5.15.2.	インスタンスプロパティ	52
5.16.	image クラス	52
5.16.1.	概要	52
5.16.2.	インスタンスの生成	52
5.16.3.	インスタンスプロパティ	53
5.16.4.	. インスタンスメソッド	53
5.17.	iterator クラス	55
5.17.1.	概要	55
5.17.2.	. インスタンスの生成	56
5.17.3.	. インスタンスメソッド	56
5.18.	list クラス	57
5.18.1.	概要	57
5.18.2.	. インスタンスの生成	57
5.18.3.	. インスタンスメソッド	57
5.19.	matrix クラス	63
5.19.1.	概要	63
5.19.2.	. インスタンスの生成	64
5.19.3.	インデクスによる要素操作	64
5.19.4.	クラスメソッド	64
5.19.5.	インスタンスメソッド	65
5.20.	operator クラス	66
5.20.1.	概要	66
5.20.2.	. インスタンスの生成	66
5.20.3.	インスタンスメソッド	66
5.21.	palette クラス	67
5.21.1.	- . 概要	67
5.21.2.	インスタンスの生成	
	インスタンスメソッド	
	pointer クラス	
	- - 概要	

5.22.2. インスタンスの生成	68
5.22.3. インスタンスメソッド	68
5.23. semaphore クラス	68
5.23.1. 概要	68
5.23.2. インスタンスの生成	69
5.23.3. インスタンスメソッド	69
5.24. stream クラス	69
5.24.1. 概要	69
5.24.2. インスタンスの生成	69
5.24.3. インスタンスメソッド	69
5.24.4. インスタンスプロパティ	71
5.25. template クラス	72
5.25.1. 概要	72
5.25.2. インスタンスの生成	72
5.25.3. インスタンスメソッド	72
5.26. timedelta クラス	72
5.26.1. 概要	72
5.26.2. インスタンスの生成	72
5.26.3. インスタンスプロパティ	73
5.27 . uri クラス	73
5.27.1. 概要	73
5.27.2. インスタンスの生成	73
6. argopt モジュール	74
6.1. 概要	74
6.2. argopt.Parserクラス	74
6.2.1. インスタンスの生成	74
6.2.2. インスタンスメソッド	74
7. bmp モジュール	75
7.1. 概要	75
7.2. ストリーム処理	75
7.3. image クラスの拡張	75
7.3.1. インスタンスメソッド	75
8. bzip2 モジュール	76
8.1. 概要	76
8.2. モジュール関数	76
8.3. streamクラスの拡張	76
8.3.1. インスタンスメソッド	76
9. cairo モジュール	77
10. conio モジュール	78

10.1.	概要	78
10.2.	モジュール関数	78
11. csv	モジュール	79
11.1.	概要	79
11.2.	モジュール関数	79
11.3.	csv.writer クラス	79
11.3.1.	インスタンスプロパティ	79
11.3.2.	インスタンスメソッド	79
11.4.	stream クラスの拡張	79
11.4.1.	インスタンスメソッド	79
12. cur	1 モジュール	80
12.1.	概要	80
12.2.	パス名の拡張	80
12.3.	モジュール関数	80
12.4.	curl.easy_handle / j7 X	80
12.4.1.	インスタンスの生成	80
12.4.2.	インスタンスメソッド	80
13. fre	etype モジュール	82
13.1.	概要	82
13.2.	関数	82
13.3.	freetype.font /j=Z	82
13.3.1.	概要	82
13.3.2.	インスタンスの生成	82
13.3.3.	インスタンスメソッド	82
13.3.4.	インスタンスプロパティ	82
13.4.	freetype.Face クラス	83
13.4.1.	インスタンスの生成	83
13.4.2.	インスタンスプロパティ	83
13.4.3.	インスタンスメソッド	84
13.5.	freetype.GlyphSlot クラス	84
13.5.1.	インスタンスプロパティ	84
13.5.2.	インスタンスメソッド	85
13.6.	freetype.Outline クラス	85
13.7.	freetype.Glyph クラス	85
13.8.	freetype.Matrix クラス	85
13.8.1.		
13.8.2.	インスタンスメソッド	
13.9.	freetype.Vector クラス	
13.9.1.	 インスタンスの生成	

13.10.	image クラスの拡張	86
13.10.	1. インスタンスメソッド	86
14. fs	モジュール	87
14.1.	概要	87
14.2.	ストリームのオープン	87
14.3.	パスのサーチ	87
14.4.	モジュール関数	87
14.5.	fs.stat クラス	88
14.5.1	. インスタンスプロパティ	88
15. gif	モジュール	90
15.1.	概要	90
15.2.	ストリームの読み書き	90
15.3.	gif.content クラス	90
15.3.1	概要	90
15.3.2	. GIF Data Stream の構造	90
15.3.3	制限事項	91
15.3.4	. インスタンスの生成	91
15.3.5	. インスタンスメソッド	91
15.3.6	. インスタンスプロパティ	92
15.3.7	. インスタンスプロパティの詳細	92
15.4.	image クラスの拡張	94
15.4.1	. インスタンスメソッド	94
15.4.2	. インスタンスプロパティ	94
15.4.3	. インスタンスプロパティの詳細	94
15.4.4	. パレットの扱い	95
16. glu	1 モジュール	97
17. gui	cbuild モジュール	98
17.1.	概要	98
17.2.	モジュール関数	98
18. gzi	p モジュール	99
18.1.	概要	99
18.2.	モジュール変数	99
18.3.	モジュール関数	99
18.4.	stream クラスの拡張	99
18.4.1	. インスタンスメソッド	99
19. has	sh モジュール	100
19.1.	概要	100
19.2.	モジュール関数	100
20. htt	rp モジュール	101

	20.1.	概要	101
	20.2.	パス名の拡張	101
	20.3.	モジュール変数	101
	20.4.	モジュール関数	101
	20.5.	http.server /jz	102
	20.5.1.	インスタンスの生成	102
	20.5.2.	インスタンスプロパティ	102
	20.5.3.	インスタンスメソッド	102
	20.5.4.	サンプルプログラム	102
	20.6.	http.client/jpz	102
	20.6.1.	インスタンスの生成	102
	20.6.2.	インスタンスメソッド	103
	20.6.3.	リクエスト発行インスタンスメソッド	103
	20.6.4.	サンプルプログラム	104
	20.7.	http.stat クラス	104
	20.7.1.	概要	104
	20.7.2.	メッセージヘッダのフィールド定義	104
	20.7.3.	インスタンスプロパティ	104
	20.7.4.	インスタンスメソッド	104
	20.8.	http.request クラス	104
	20.8.1.	概要	104
	20.8.2.	メッセージヘッダのフィールド定義	105
	20.8.3.	インスタンスプロパティ	105
	20.8.4.	インスタンスメソッド	105
	20.9.	http.sessionクラス	106
	20.9.1.	概要	106
	20.9.2.	インスタンスプロパティ	106
		http.response クラス	
	20.10.1		107
	20.10.2	2. メッセージヘッダのフィールド定義	107
	20.10.3		
	20.10.4		
21	. jpe	.g モジュール	109
	21.1.	概要	
		ストリームの読み書き	
	21.3.	jpeq.exif / jp	
	21.3.1.		
		インスタンスの生成	
		インスタンスプロパティ	
			100

21.3.4.	インスタンスメソッド	110
21.4.	jpeg.ifd/jjz	110
21.4.1.	概要	110
21.4.2.	インスタンスの生成	110
21.4.3.	インスタンスプロパティ	110
21.4.4.	インデクスアクセス	114
21.4.5.	インスタンスメソッド	114
21.5.	jpeg.tag/jpz	114
21.5.1.	概要	114
21.5.2.	インスタンスの生成	114
21.5.3.	インスタンスプロパティ	114
21.6.	image クラスの拡張	115
21.6.1.	インスタンスメソッド	115
22. mar	kdown モジュール	116
22.1.	概要	116
22.2.	モジュール関数	116
22.3.	markdown.document クラス	116
22.3.1.	インスタンスの生成	116
22.3.2.	インスタンスプロパティ	116
22.3.3.	インスタンスメソッド	116
22.4.	markdown.item 257.	116
22.4.1.	アイテムタイプ	116
22.4.2.	インスタンスプロパティ	117
22.4.3.	インスタンスメソッド	117
23. mat	h モジュール	118
23.1.	概要	118
23.2.	モジュール関数	118
24. mid	i モジュール	121
24.1.	概要	121
24.2.	サンプル	121
24.2.1.	MIDI ファイルを読み込んで演奏	121
24.2.2.	MML を演奏	121
24.2.3.	MML から MIDI ファイルを生成	121
24.3.	モジュールプロパティ	121
	mml.event クラス	
24.4.1.	インスタンスの生成	121
24.4.2.	インスタンスプロパティ	121
24.5.	mml.track クラス	122
24.5.1.	インスタンスの生成	122

24.5.2.	. インスタンスプロパティ	122
24.5.3.	. インスタンスメソッド	122
24.6.	mml.sequence クラス	124
24.6.1.	. インスタンスの生成	124
24.6.2.	. インスタンスプロパティ	124
24.6.3.	. インスタンスメソッド	124
24.7.	mml.portinfo/jjz	125
24.7.1.	. インスタンスの生成	125
24.7.2.	. インスタンスプロパティ	125
24.7.3.	. インスタンスメソッド	125
24.8.	mml.port クラス	125
24.8.1.	. インスタンスの生成	125
24.8.2.	. インスタンスメソッド	125
24.9.	mml.player クラス	126
24.9.1.	. インスタンスの生成	126
24.9.2.	. インスタンスプロパティ	126
24.9.3.	. インスタンスメソッド	126
24.10.	mml.controller クラス	126
24.10.	1. インスタンスの生成	126
24.10.2	2. クラスプロパティ	126
24.10.	3. インスタンスプロパティ	126
24.10.4	4. インスタンスメソッド	126
24.11.	mml.program クラス	126
24.11.	1. インスタンスの生成	126
24.11.	2. クラスプロパティ	126
24.11.	3. インスタンスプロパティ	127
24.11.4	4. インスタンスメソッド	127
24.12.	mml.soundfont クラス	127
24.12.	1. インスタンスの生成	127
24.12.	2. インスタンスプロパティ	127
24.12.	3. インスタンスメソッド	127
24.13.	mml.synthesizer クラス	127
24.13.	1. インスタンスの生成	127
24.13.	2. インスタンスメソッド	127
24.14.	MML 文法	127
25. mod	lbuild モジュール	131
25.1.	概要	131
25.2.	modbuild.Builder クラス	131
25.3.	インスタンスプロパティ	131

5.4.	インスタンスメソッド	131
mod	gen モジュール	132
6.1.	概要	132
6.2.	使い方	132
msi	co モジュール	133
7.1.	概要	133
7.2.	ストリームの読み書き	133
7.3.	msico.content /j=z	133
27.3.1.	概要	133
27.3.2.	インスタンスの生成	133
27.3.3.	インスタンスメソッド	133
7.4.	image クラスの拡張	134
27.4.1.	インスタンスメソッド	134
msw	in モジュール	135
8.1.	概要	135
8.2.	mswin.ole クラス	135
28.2.1.	インスタンスの生成	135
8.3.	mswin.regkey クラス	135
28.3.1.	概要	135
28.3.2.	定義済みインスタンス	135
28.3.3.	インスタンスメソッド	135
8.4.	COM について	137
28.4.1.	COM サーバへの接続	137
28.4.2.	プロパティの取得	137
28.4.3.	プロパティの設定	138
28.4.4.	メソッドの実行	138
28.4.5.	イテレータの生成	138
ope	ngl モジュール	140
os ³	- モジュール	141
0.2.	モジュール変数	141
_		
	mod 6.1. 6.2. msi 7.1. 7.2. 7.3. 27.3.1. 27.3.2. 27.3.3. 7.4. 27.4.1. msw 8.1. 8.2. 28.2.1. 8.3. 28.3.1. 28.4.2. 28.4.3. 28.4.5. ope os 0.1. 0.2. 0.3. pat 1.1. 1.2. png 2.1. 2.2.	6.1. 極要 6.2. 使い方 msicoモジュール 7.1. 板要 7.2. ストリームの読み書き 7.3. msico.content クラス 27.3.1. 板要 27.3.2. インスタンスの生成 27.3.3. インスタンスがッド 7.4. image クラスの拡張 27.4.1. インスタンスがッド mswin モジュール 8.1. 板要 8.2. mswin.ole グラス 28.2.1. インスタンスの生成 8.3. mswin.regkey グラス 28.3.1. 板要 28.3.1. 板要 28.3.2. 定義済みインスタンス 28.3.3. インスタンスがッド 28.4.1. COM ナーバーの接続 28.4.2. プロパティの取律 28.4.3. プロパティの歌定 28.4.4. メソッドの実行 28.4.5. イテレータの生成 openg1 モジュール os モジュール os モジュール os モジュール ol.1. 板要 0.2. モジュール関数 path モジュール 1.1. 板要 1.2. モジュール関数 ppg モジュール 1.1. 板要 1.2. モジュール関数 ppg モジュール 1.1. 板要 1.2. モジュール Dig デンュール Dig デンター Dig デンター Dig デンュール Dig デンター Dig デンスティー Dig

32.3.1. インスタンスメソッド	
33. ppm モジュール	147
33.1. 概要	147
33.2. ストリームの読み書き	147
33.3. image クラスの拡張	147
33.3.1. インスタンスメソッド	147
34. re モジュール	148
34.1. 概要	148
34.2. 正規表現パターン記述について	148
34.3. モジュール関数	148
34.4. re.match クラス	149
34.4.1. インスタンスの生成	149
34.4.2. マッチパターンの取得	149
34.4.3. インスタンスプロパティ	
34.4.4. インスタンスメソッド	
34.5. re.pattern クラス	
34.5.1. インスタンスの生成	
34.5.2. インスタンスメソッド	
34.6. string クラスの拡張	151
34.6.1. インスタンスメソッド	151
34.7. list/iterator クラスの拡張	
34.7.1. インスタンスメソッド	
35. sed モジュール	
35.1. 概要	
35.2. モジュール関数	
36. sdl モジュール	
37. sqlite3モジュール	
37.1. 概要	155
37.2. データオブジェクトの対応	155
37.3. sqlite3.dbクラス	
37.3.1. インスタンスの生成	
37.3.2. インスタンスメソッド	
38. sys モジュール	
38.1. 概要	
38.2. モジュール関数	
38.3. モジュール変数	156
39. tar モジュール	157
39.1. 概要	157
39.2. パス名の拡張	

39.3.	モジュール変数	157
39.4.	tar.reader クラス	158
39.4.1.	インスタンスの生成	158
39.4.2.	インスタンスメソッド	158
39.5.	tar.writer/jpz	158
39.5.1.	インスタンスの生成	158
39.5.2.	インスタンスメソッド	159
39.6.	tar.stat クラス	159
39.6.1.	インスタンスプロパティ	159
40. tcl	モジュール	160
41. tk	モジュール	161
42. tok	enizer モジュール	162
43. uni	ts モジュール	163
44. uui	d モジュール	164
44.1.	概要	164
44.2.	モジュール関数	164
45. wx ³	モジュール	165
46. xml	モジュール	166
46.1.	概要	166
46.2.	モジュール関数	166
46.3.	xml.parser クラス	166
46.3.1.	使用例	166
46.3.2.	インスタンスの生成	166
46.3.3.	オーバーライドメソッド	166
46.3.4.	インスタンスメソッド	168
46.4.	xml.attribute クラス	168
46.4.1.	インスタンスプロパティ	168
46.5.	xml.element /j=Z	168
46.5.1.	インスタンスの生成	168
46.5.2.	インスタンスプロパティ	168
46.5.3.	インスタンスメソッド	168
46.5.4.	オペレータ	169
46.6.	xml.document クラス	169
46.6.1.	インスタンスの生成	169
46.6.2.	インスタンスプロパティ	169
	インスタンスメソッド	
46.7.	stream クラスの拡張	169
46.7.1.	インスタンスメソッド	
	1モジュール	

47.1.	概要	. 170
47.2.	ストリームの書きこみ	. 170
47.3.	image クラスの拡張	. 170
47.3.1.	インスタンスメソッド	. 170
48. yam	1 モジュール	. 171
48.1.	概要	. 171
48.2.	データオブジェクトの対応	. 171
48.3.	モジュール関数	. 171
48.4.	stream クラスの拡張	. 171
48.4.1.	インスタンスメソッド	. 171
49. zip	モジュール	. 172
49.1.	概要	. 172
49.2.	パス名の拡張	. 172
49.3.	zip.reader クラス	. 172
49.3.1.	インスタンスの生成	. 172
49.3.2.	インスタンスメソッド	. 172
49.4.	zip.writer クラス	. 172
49.4.1.	インスタンスの生成	. 172
49.4.2.	インスタンスメソッド	. 173
	zip.stat クラス	
	- インスタンスプロパティ	

1. このリファレンスについて

本リファレンスは Gura の本体や標準添付のモジュールで定義されている関数やクラスの仕様について説明します。 Gura 言語そのものの仕様などについては「Gura 言語マニュアル」を参照してください。

また、仕様の大きなモジュールについては、以下のように独立したリファレンスが用意されています。

- Gura モジュールリファレンス cairo
- Gura モジュールリファレンス opengl
- Gura モジュールリファレンス sdl
- Gura モジュールリファレンス tk
- Gura モジュールリファレンス wx

2. 定義済み変数

変数	内容	
*	iterator クラスのインスタンス 0 に相当する値が定義されています。	
-	nil クラスの nil 値が定義されています。	
@rem	nil クラスの nil 値が定義されています。	
name	現在実行しているスクリプトがメインのスクリプトファイルである場合、文字列	
	"main" が入ります。スクリプトがモジュール内である場合はそのモジュール名	
	が入ります。	
false	booleanクラスの偽値が定義されています。	
nil	nil クラスの nil 値が定義されています。	
root	トップレベルスコープの environment インスタンスを返します。	
	モジュール内からトップレベルスコープに変数や関数を追加するときに参照します。	
true	booleanクラスの真値が定義されています。	

3. 組込み関数

3.1. テキスト表示

print(value*):map:void

引数 value の値を文字列に変換した結果を連結して標準出力に出力します。

println(value*):map:void

引数 value の値を文字列に変換した結果を連結して標準出力に出力し、最後に改行します。

printf(format:string, values*):map:void

文字列 format 中のフォーマッタ指定に基づいてリストの内容を文字列に変換します。書式の形式は %[flags][width][.precision]specifier のようになります。

[specifier] には以下のうちのひとつを指定します。

specifier	説明		
d, i	10 進符号つき整数		
u	10 進符符号なし整数		
b	2 進数整数値		
0	8 進符号なし整数		
х, Х	16 進符号なし整数		
е, Е	指数形式浮動小数点数 (E は大文字で出力)		
f, F	小数形式浮動小数点数 (F は大文字で出力)		
g, G	eまたはf形式の適した方 (G は大文字で出力)		
S	文字列		
С	文字		

[flags] には以下のうちのひとつを指定します。

flags	説明		
+	プラス数値のとき、先頭に + 記号をつけます		
-	左詰めで文字列を配置します		
(空白)	プラス数値のとき、先頭に空白文字をつけます		
#	2 進、8 進、16 進整数の変換結果に対しそれぞれ "0b", "0", "0x" を先頭につけます		
0	桁数の満たない部分を 0 で埋めます		

[width] には最小の文字幅を 10 進数値で指定します。文字列に変換した結果の長さがこの数値に満たないとき、残りの幅を空白文字(文字コード 32)で埋めます。長さがこの数値以上の場合は何もしません。[width] の位置に数値ではなくアスタリスク "*" を指定すると、最小の文字幅を指定する数値を引数から取得します。

[precision] は **specifier** によって意味が異なります。浮動小数点数に対しては、小数点以下の表示桁数の指定になります。

3.2. 制御構文

3.2.1. Gura における制御構文

Gura は言語仕様の中に制御構文というものを持っていません。繰り返しや条件分岐などはすべて関数呼び 出しで実現しています。これら関数の名前や引数などを既存言語の制御構文と似せているので、動作内容が類 推しやすくなっています。

3.2.2. 関数内のフロー制御

return (value?):symbol func

関数の処理を中断し、呼び出し元のフローに戻ります。引数として value を渡すと、中断した関数の評価値をその値に設定します。省略すると、評価値は nil になります。

この関数は、アトリビュート:symbol_funcが指定されています。つまり、引数が必要ない場合は引数リストの括弧を省略して呼び出すことができます。

3.2.3. 繰り返し

repeat (n?:number) {block}

引数で指定した回数だけ block の処理を繰り返します。引数は省略可能で、省略した場合無限ループになります。

ブロックパラメータの形式は |idx:number| で、idxに0から始まるループの回数が入ります。

スクリプト	実行結果
repeat (10) { i printf(' %d', i)}	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
<pre>repeat { println('hello world') }</pre>	hello world hello world hello world :

while (`cond) {block}

引数で指定した式が条件を満たす間だけ block の処理を繰り返します。

for (`expr+) {block}

一つ以上のイテレータ代入式を引数にとり、イテレータが終了するまで block の処理を繰り返します。イテレータ代入式の形式は以下のようになります。

symbol in iterator

[symbol1, symgol2 ..] in iterator

最初の形式では、イテレータの要素が symbol で表される変数に代入されます。もし要素がリストであれば、symbol に代入される値はそのリストそのものになります。二番目の形式では、イテレータの要素がリストであればリストの要素ごとに対応する位置にあるシンボルの変数に値を代入します。要素がリストでない場合、全てのシンボルの変数に同じ値が代入されます。

イテレータ代入式が二つ以上指定された場合、一回のループで引数中のイテレータを一つずつ評価していきます。こうして、いずれかのイテレータが終了するまで処理が繰り返されます。 つまり、イテレータの要素数が異なるときは、ループの回数は一番短いイテレータの要素数にあわせられます。

cross (`expr+) {block}

一つ以上のイテレータ代入式を引数にとり、イテレータが終了するまで block の処理を繰り返します。イテレータ代入式が一つのとき、処理内容は for 関数に一つの引数を渡したときと同じです。二つのイテレータ代入式を指定すると多重ループになり、一つ目のイテレータが外側、二つ目のイテレータが内側のループを構成します。イテレータ代入式を複数指定することも可能で、n 個の代入式を指定するとn重の多重ループになります。

ブロックパラメータの形式は |idx:number, i0:number, i1:number, ... で、idxに0から始まる全体のループの回数、i0, i1 .. に各イテレータの現在のインデクス値が入ります。

スクリプト	実行結果
<pre>cross (x in 01, y in 02) { printf('[%d,%d]', x, y) }</pre>	[0,0][0,1][0,2][1,0][1,1][1,2]

3.2.4. 繰り返し中のフロー制御

break(value?):symbol func

繰り返し関数の処理を中断します。引数として value を渡すと、中断した繰り返し関数の戻り値をその値に設定します。省略すると、繰り返し関数の戻り値は nil になります。

この関数は、アトリビュート:symbol_funcが指定されています。つまり、引数が必要ない場合は引数リストの括弧を省略して呼び出すことができます。

continue(value?):symbol func

繰り返し処理の続きをスキップして先頭に戻ります。引数として value を渡すと、ループのその回の評価値をその値に設定します。省略すると、その回の評価値は nil になります。

この関数は、アトリビュート:symbol_funcが指定されています。つまり、引数が必要ない場合は引数リストの括弧を省略して呼び出すことができます。

3.2.5. 条件分岐

if (`cond):leader {block}

条件 cond が true のとき、block の内容を実行します。 false のとき、このあとに elsif または else 関数が連結されていると、それらを評価します。

elsif (`cond):leader:trailer {block}

if または elsif 関数の後に連結して使用します。条件 cond が true のとき、block の内容を実行します。 false のとき、このあとに elsif または else 関数が連結されていると、それらを評価します。

else():trailer {block}

if または elsif 関数の後に連結して使用します。無条件で block の内容を実行します。

条件分岐のスクリプト例を以下に示します。

スクリプト
if $(x == 0)$ {

```
println('x value is zero')
} elsif (x == 1) {
   println('x value is one')
} else {
   println('other case')
}
```

3.2.6. 例外処理

try():leader {block}

block を実行し、その間に例外が発生すると、後に連結された catch 関数を実行します。

catch(errors*:error):leader:trailer {block}

try または catch 関数の後に連結して使用します。

発生した例外が引数 errors のいずれかに合致する場合 block を実行し、ブロックパラメータを | error:error | という形式で渡します。errorは検出したエラーに対応するerror型のインスタンスです。

例外が引数に合致しない場合、後に連結された exept 関数を実行します。引数 errors を指定しない と、すべての例外に合致します。

raise(error:error, msg:string => 'error', value?)

例外を発生します。引数 error にエラーインスタンス、msg にエラーメッセージを指定します。引数 value にはエラーの追加情報を指定します。

例外処理のスクリプト例を以下に示します。

```
try {
    // some jobs
} catch (error.ValueError) {|e|
    println('ValueError captured: ', e.text)
} catch (error.IOError) {|e|
    println('IOError captured: ', e.text)
} catch {|e|
    println('other error captured: ', e.text)
}
```

3.2.7. switch 文

switch() {block}

switch 文を構成します。block 中は case または default 関数の呼び出しを記述します。

case(`cond) {block}

条件 cond が true のとき、block の内容を実行し、switch 関数を抜けます。false のとき、switch の次に記述されている case や default 関数の呼び出しに移ります。

default() {block}

無条件に block の内容を実行し、switch 関数を抜けます。

3.3. データ変換

chr(num:number):map

UTF-8 文字コードを文字列に変換します。

ord(str:string):map

文字列の先頭の文字に対応するUTF-8 文字コードを返します。

int(value):map

数値を整数に変換した結果を返します。value が文字列のとき、これを数値に変換した結果を整数にし て返します。

tonumber(value):map:[nil,zero,raise,strict]

文字列を number 型に変換した結果を返します。デフォルトでは、文字列の初めの部分が数値とみなせれば変換が成功します。アトリビュート:strict をつけると、文字列中に数値以外の文字が含まれていたとき変換に失敗するようになります。

変換に失敗したときのふるまいを以下のアトリビュートで指定することができます。

:nil nil 値を返します (デフォルト)。

:zero 数値 0 を返します。

:raise ValueError 例外を発生します。

tostring(value):map

任意の値を文字列に変換した結果を返します。

tosymbol(str:string):map

文字列をシンボルに変換した結果を返します。

hex(num:number, digits?:number):map:[upper]

数値を 16 進文字列に変換した結果を返します。digits に最少の桁数を指定します。変換した結果の 桁が digits にみたない場合、先頭を 0 で埋めます。アルファベットは小文字になりますが、アトリビュート:upper を指定すると大文字になります。

3.4. クラス操作

class(superclass?:function) {block?}

クラスを生成します。詳細は「Gura 言語マニュアル」を参照ください。

struct(`args+):[loose] {block?}

構造体のコンストラクタ関数を生成します。詳細は「Gura 言語マニュアル」を参照ください。

classref(type+:expr):map {block?}

指定の型のクラスへの参照を返します。

super(obj):map {block?}

スーパークラスのメソッドや変数を参照するオブジェクトを返します。

3.5. 変数スコープ操作

extern(`syms+)

関数の内部で使用します。指定したシンボルを、関数の外部で宣言されている変数に対する参照に設定 します。指定のシンボルが外部スコープでみつからない場合、エラーになります。

local(`syms+)

関数以外のブロックの内部で使用します。引数に指定したシンボルを、ブロックの内部のスコープに対する参照に設定します。

scope(target?) {block}

ローカルスコープを作成して block の内容を評価し、block で最後に評価された値を戻り値として返します。 引数 target にモジュールまたは environment インスタンスを指定すると、それらのスコープ内で block の内容を評価します。

locals(module?:module)

現在のスコープにアクセスするenvironment型データを返します。引数moduleを指定すると、そのモジュールにアクセスするenvironment型データを返します。

outers()

現在のスコープのひとつ外のスコープにアクセスする environment 型データを返します。

undef(`value+):[raise]

引数 value で指定されているシンボルを未定義にします。未定義のシンボルに対してこの関数を実行すると、単に無視されます。未定義のシンボルを指定したときにエラーを起こさせるには、アトリビュート:raise を指定します。

3.6. イテレータ生成

fill(n:number, value?) {block?}

引数 n で指定した数だけ同じ値 value を返すイテレータを生成します。 引数 value を省略すると nil 値になります。

block をつけると、要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |value, idx:number| で、value に関数に渡した value の値、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

interval (a:number, b:number, samples:number):map:[open,open_l,open_r] {block?} 条件 $a \le x \le b$ を満たす x の数列を引数 samples で指定した数だけ等間隔で生成するイテレータを返します。アトリビュートを指定することで、条件を以下のように変えることができます。

:open 1 $a < x \le b$

:open r $a \le x < b$

:open a < x < b (アトリビュートに :open 1:open r と指定したのと同じです)

block をつけると、要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |num:number,

idx:number | で、num に生成した数値、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

range(num:number, num end?:number, step?:number):map {block?}

引数 num のみを指定すると、0 から num-1 までの整数を生成するイテレータを返します。引数 num と num_endを指定すると、numから num_end-1 までの整数を生成するイテレータを返します。引数 step で数値の間隔を指定します。省略すると間隔が 1 になります。

block をつけると、要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |num:number,idx:number|で、numに生成した数値、idxに0から始まるインデクス番号が入ります。

iterator(value+) {block?}

引数に指定したデータからイテレータを生成し、それを結合したイテレータを返します。

block をつけると、要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |value, idx:number| で、value に要素の値、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

3.7. フォーマット変換

format(format:string, values*):map

printf 関数のフォーマットでデータを文字列に変換します。フォーマット中に記述する指定子については printf の説明をご覧ください。

zipv(values+) {block?}

引数 values で指定した値をまとめたリストを生成します。values がすべてスカラーの場合、ひとつのリストを返します。values の中にリストまたはイテレータが含まれる場合、その要素ごとにリストに変換します。このとき、リストまたはイテレータが2つ以上含まれていると、そのうち最も要素数が少ない数だけリストに変換します。

3.8. ストリーム処理

copy(src:stream:r, dst:stream:w, bytesunit:number => 65536):map:void {block?} 入力用ストリーム src から出力用ストリーム dst にデータをコピーします。コピー処理はデフォルトで 65536 バイト単位で行われますが、引数 bytesunit でこれを変更することができます。

block を指定すると、コピー単位ごとにブロックパラメータを|buff:binary| という形式でブロックに 渡して評価します。buff は入力用ストリームから入力したデータが入り、評価結果が binary 型の値で あればそれを出力用ストリームに出力します。それ以外の型の場合はもとのデータを出力します。

readlines(stream?:stream:r):[chop] {block?}

入力用ストリーム stream からテキストを読み込み、行ごとに分割した文字列を返すイテレータを生成します。デフォルトでは、改行記号まで含めた文字列を返しますが、アトリビュート: chop をつけると、改行記号を削除します。

引数 stream を省略すると、標準入力からテキストを読み込みます。

block をつけると、行ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |line:string, idx:number|で、lineに行ごとの文字列、idxに0から始まるインデクス番号が入ります。

3.9. モジュール

import(`module, `alias?):[overwrite,binary] {block?} モジュールをインポートします。詳細は「Gura 言語マニュアル」を参照ください。

module() {block}

生成したローカルモジュールの中で block の内容を評価した後、そのモジュールへの参照を返します。

3.10. データ型処理

isdefined(`symbol)

引数 symbol が定義済みのシンボルの場合に true、未定義のときに false を返します。

isinstance(value, type+:expr):map

引数 value が type で表わされる型か、その派生クラスのデータのとき true を返します。

istype(value, type+:expr):map

引数 value が type で表わされる型のデータのとき、true を返します。組み込みオブジェクトの型をチェックするために、以下のコンビニエンス関数が用意されています。

関数	等価な呼び出し
isbinary(value)	istype(value, `binary)
isboolean(value)	istype(value, `boolean)
isclass(value)	istype(value, `class)
iscomplex(value)	istype(value, `complex)
isdatetime(value)	istype(value, `datetime)
isdict(value)	istype(value, `dict)
isenvironment(value)	istype(value, `environment)
iserror(value)	istype(value, `error)
isexpr(value)	istype(value, `expr)
isfunction(value)	istype(value, `function)
isiterator(value)	istype(value, `iterator)
islist(value)	istype(value, `list)
ismatrix(value)	istype(value, `matrix)
ismodule(value)	istype(value, `module)
isnumber(value)	istype(value, `number)
issemaphore(value)	istype(value, `semaphore)
isstring(value)	istype(value, `string)
issymbol(value)	istype(value, `symbol)
istimedelta(value)	istype(value, `timedelta)
isuri(value)	istype(value, `uri)

typename(`value)

引数 value が未定義のシンボルの場合、"undefined" を返します。それ以外の場合、value を評価し、その結果のデータ型を文字列で返します。

undef(`symbol+):[raise]

シンボルを未定義に設定します。アトリビュート:raise を指定すると、シンボルがすでに未定義のときはエラーになります。

3.11. 演算•統計

choose(index:number, values+):map

引数 values に 1 つ以上の値を列挙したとき、引数 index で指定した位置にある values の値を返します。例えば、choose (2, 'one', 'two', 'three') は 'three' を返します。

cond(flag:boolean, value1, value2):map

引数 flag が true のとき value1、false のとき value2 の値を返します。

max(values+):map

引数 values に列挙した値のうち、最大の値を返します。

min(values+):map

引数 values に列挙した値のうち、最少の値を返します。

mod(n, m):map

引数nをmで割った余りを返します。

3.12. スクリプト評価

eval(expr:expr):map

引数 expr の内容を現在の環境で評価し、その結果を返します。

3.13. 乱数

randseed(seed:number)

乱数のシードを設定します。

rand(range?:number)

引数を指定しない場合、0 以上 1 未満の範囲で乱数を発生します。引数 range を指定すると、0 から (range-1) までの整数を返します。 range が整数でない場合、整数に丸められます。

rands(range?:number, num?:number) {block?}

引数 num で指定した数だけ乱数を発生するイテレータを返します。引数 range を指定しない場合、0 以上 1 未満の範囲で乱数を発生します。引数 range を指定すると、0 から (range-1) までの整数を返します。 range が整数でない場合、整数に丸められます。

block をつけると、ひとつの乱数ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |num:number| idx:|num:number| で、|num:number| の |num:number| で、|num:number| の |num:number| で、|num:number| の |num:number| の |num:number

ます。

3.14. その他

dir(obj?):[noesc]

引数 obj に属している関数や変数のシンボルをリストで返します。obj の種類によってシンボルの内容は以下のようになります。

obj の種類	シンボルの内容
モジュール	モジュール内の関数、変数
クラス (コンストラクタ関数)	メソッド、プロパティ
オブジェクト	メソッド、プロパティ

アトリビュート: noesc をつけると、obj の種類がクラスの場合、派生元のメソッドおよびプロパティは除外します。

help(func:function):map:void

関数 func のヘルプを標準出力に表示します。

4. プリミティブクラス

4.1. nil クラス

4.1.1. 概要

無効値を表すクラスです。

4.1.2. インスタンスの生成

グローバル変数として、nil という名前のインスタンスが定義されています。

4.1.3. スクリプト内での扱い

スクリプト内において、nil は無効値として扱われます。

4.2. boolean クラス

4.2.1. 概要

ブール型を扱うクラスです。

4.2.2. インスタンスの生成

グローバル変数として true と false という名前のインスタンスが定義されており、それぞれが真と偽を表します。

4.2.3. 真偽の扱い

false とnil が偽、その他の値はすべて真として扱われます。

4.3. complex クラス

4.3.1. 概要

複素数を扱うクラスです。

4.3.2. インスタンスの生成

リテラル j をコード中に記述すると、complex インスタンスが生成されます。また、コンストラクタ関数 complex を使って生成することもできます。

complex(real:number, imag?:number):map {block?}

引数 real および imag にそれぞれ実数部と虚数部を指定し、complex インスタンスを生成します。引数 imag を省略すると、虚数部が 0 になります。

complex.polar(abs:number, arg:number):map:[deg] {block?}

引数 abs に絶対値、arg 偏角をラジアン値で指定し、complex インスタンスを生成します。アトリビュート:deg をつけると、arg を degree 値で指定することができます。

4.3.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
abs	number	R	複素数の絶対値を返します。
arg	number	R	複素数の偏角をラジアン値で返します。アトリビュート:deg をつける
			と、degree 値で返します。
imag	number	R	複素数の虚数成分を返します。
norm	number	R	複素数のノルム値を返します。
real	number	R	複素数の実数成分を返します。

4.4. fraction 0.7

4.4.1. 概要

分数を扱うクラスです。

4.4.2. インスタンスの生成

コンストラクタ関数 fraction を使ってインスタンスを生成します。

fraction(numer:number, denom?:number):map {block?}

引数 numer および denom にそれぞれ分子と分母を指定して fraction インスタンスを生成します。引数 denom を省略すると分母が 1 になります。

4.4.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
denom	number	R	分母を返します。
numer	number	R	分子を返します。

4.4.4. インスタンスメソッド

fraction#reduce()

分子と分母を通分した結果を返します。

4.5. number クラス

4.5.1. 概要

数を扱うクラスです。内部は64ビット浮動小数点数値で表現されます。

4.5.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
abs	number	R	絶対値を返します。
arg	number	R	常に 0 を返します。

imag	number	R	常に0を返します。
norm	number	R	二乗した数値を返します。
real	number	R	自分自身を返します。

4.6. string クラス

4.6.1. 概要

文字列を扱うクラスです。

4.6.2. インスタンスの生成

● コード中に文字列リテラルを記述すると、string インスタンスの生成になります。

4.6.3. インスタンスメソッド

string#align(len:number, padding:string => ' '):map:[center,left,right]

文字列の長さを引数 len で指定した文字数でそろえます。もとの文字列が指定の長さに満たない場合は、引数 padding で指定した文字で埋めます。このとき、文字列の位置をアトリビュートで指示することができ、:center で中央、:left で左詰め、:right で右詰めになります。文字列の長さが len 以上である場合はもとの文字列を返します。

string#binary()

文字列の内容を binary 型に変換した結果を返します。

string#capitalize()

先頭の文字がアルファベットの小文字のとき、これらを大文字に変換した結果を返します。

string#chop(suffix:*string):[icase,eol]

何も引数やアトリビュートをつけずに実行すると、文字列中の最後の一文字を取り除いた結果を返します。 アトリビュート: eo1 をつけると、最後が改行記号のときのみ取り除きます。コードが CR-LF という連なりになっている場合は、これら 2 文字をとりのぞきます。

引数に文字列を指定すると、これらの文字列が最後にあらわれたときのみとりのぞきます。この文字列は複数指定することができます。アトリビュート:icase が指定されると、大文字と小文字を区別しません。また、アトリビュート:eol とともに実行した場合は、まず改行コードがあればそれをとりのぞき、その後指定文字列の除去を行います。

string#decodeuri()

URI 書式で処理ができるようにした文字列から通常の文字列にして返します。

string#each():map:[utf8,utf32] {block?}

文字列中の文字をとりだし、文字コードを数値として返すイテレータを生成します。アトリビュート: utf8 をつけると、UTF-8 コード、: utf32 をつけると、UTF-32 コードの数値を返します。

string#eachline(nlines?:number):[chop] {block?}

文字列を一行ずつ切り出して返すイテレータを生成します。引数 nlines を指定すると、切り出す行数を その行数までに限定します。デフォルトでは、一行の文字列中に改行コードを含みますが、アトリビュート: chop をつけると改行コードをとりのぞきます。

string#encode(codec:codec)

文字列を指定のコーデックで変換した結果を binary 型として返します。

string#encodeuri()

URI 書式で処理ができるようにした文字列を返します。

string#endswith(suffix:string, endpos?:number):map:[rest,icase]

文字列が suffix で終了している場合は true、それ以外は false を返します。アトリビュート: icase をつけると、大文字と小文字を区別しません。

アトリビュート: rest をつけると、文字列が suffix で終了している場合、それよりも前の文字列を返します。 それ以外は nil を返します。

string#escapehtml():[quote]

HTML 書式で処理ができるよう、"&"、"<" および ">" をそれぞれ "&"、"<" および">" に変換します。アトリビュート: quote をつけると、さらにダブルクオーテーション """ を """ に変換します。

string#find(sub:string, pos:number => 0):map:[rev,icase]

文字列 sub が見つかった文字位置を返します。見つからない場合は nil を返します。引数 pos を指定すると、その位置から文字列を探します。アトリビュート: rev をつけると、後尾から文字列を探します。アトリビュート: icase をつけると、大文字と小文字の区別をつけません。

string#fold(len:number, step?:number):[neat] {block?}

文字列を len 文字ずつ分けた結果を要素に持つイテレータを返します。 step を指定すると、 step 文字間隔で分けます。アトリビュート: neat をつけると、最後に切り分けた文字列が len 文字に満たない場合はそれを結果に含めません。

string#format(values*):map

文字列に記述された printf のフォーマットに従って引数 values の値を埋め込んだ文字列を返します。

string#isempty()

文字列が空のとき true、それ以外は false を返します。

string#left(len?:number):map

左から指定文字数だけ取り出した文字列を返します。

string#len()

文字列中の文字数 を返します。バイト数でないことに注意してください。

string#lower()

アルファベットを小文字に変換した結果を返します。

string#mid(pos:number => 0, len?:number):map

引数 pos の位置から長さ len 文字数だけ取り出した文字列を返します。

string#parse() {block?}

文字列の内容をスクリプトとみなして解析し、expr 型で結果を返します。

string#print(stream?:stream:w):void

文字列を引数 stream で指定したストリームに出力します。 stream を省略した場合は標準出力に出力します。

string#println(stream?:stream:w):void

文字列を引数 stream で指定したストリームに出力し、最後に改行を出力します。stream を省略した場合は標準出力に出力します。

string#reader() {block?}

文字列内の文字コードを1バイトずつとりだすストリームを返します。文字コードはUTF-8です。

string#replace(sub:string, replace:string, count?:number):map:[icase]

引数 sub で指定した文字列を replace に置き換えます。引数 count を指定すると、置き換える回数を限定します。アトリビュート:icase をつけると大文字と小文字を区別しません。

string#right(len?:number):map

右から指定文字数だけ取り出した文字列を返します。

string#split(sep?:string, count?:number):[icase] {block?}

引数 sep を境界にして文字列を切り分けた結果を返すイテレータを生成します。引数 count を指定すると、切り分ける数を限定します。アトリビュート: icase をつけると大文字と小文字を区別しません。

string#startswith(prefix:string, pos:number => 0):map:[rest,icase]

文字列が prefix で始まっている場合は true、それ以外は false を返します。アトリビュート: icase を つけると、大文字と小文字を区別しません。

アトリビュート: rest をつけると、文字列が suffix で始まっている場合、それよりも後の文字列を返します。 それ以外は nil を返します。

string#strip():[both,left,right]

文字列の左右にある空白や改行要素をとりのぞいた結果を返します。

アトリビュート: left をつけると、左側のみの空白・改行要素をとりのぞきます。アトリビュート: right をつけると、右側のみとりのぞきます。アトリビュート: both は両側の空白・改行要素をとりのぞき、これがデフォルトの動作になります。

string#template():[lasteol,noindent] {block?}

文字列中に記述されたスクリプトを評価し、template インスタンスを生成します。

スクリプトの評価結果で、最後に現れた改行コードはとりのぞかれます。アトリビュート: lasteol をつけると、この改行コードをとりのぞかずに出力に含めます。

スクリプトの出力結果が複数行にわたるとき、スクリプトの開始を表す "\${" の行の先頭にある空白文字 が各行に追加されます。アトリビュート:noindent をつけると、このインデンテーション機能を無効にします。

string#unescapehtml()

HTML 書式で処理ができるようにした文字列から通常の文字列にして返します。

string#upper()

アルファベットを大文字に変換した結果を返します。

string#zentohan()

文字列中の「全角文字」を、対応する ASCII 文字に変換した結果を返します。

4.7. symbol クラス

4.7.1. 概要

シンボル値を扱うクラスです。

4.7.2. インスタンスの生成

単一のシンボルトークンにバッククオート、をつけると symbol インスタンスになります。

5. 組込みクラス

5.1. object **クラス**

5.1.1. 概要

すべてのオブジェクトの基本クラスになるクラスです。

5.1.2. インスタンスの生成

object()

object 型インスタンスを生成します。

5.2. args クラス

5.2.1. 概要

関数に渡された引数情報を扱うクラスです。

5.2.2. インスタンスの参照

関数本体で args という名前の変数で内容を参照することができます。

5.2.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
values	any	R	引数に渡された値をリストにして返します

5.2.4. インスタンスメソッド

args#isset(symbol:symbol)

関数呼び出しで指定のシンボルのアトリビュートが指定されているか調べます。指定されていると true を返します。

args#quit_trailer():void

トレーラ関数が指定されていても、それを実行しないよう指示します。

5.3. audio **クラス**

5.3.1. 概要

オーディオデータを扱うクラスです。

5.4. binary **クラス**

5.4.1. 概要

binary クラスは、バイナリデータを保持してするインスタンスを生成するクラスです。string クラスとよく似ていますが、string クラスのインスタンスで保持されるデータが UTF-8 エンコーディングされた文字データに限

られ、操作も文字単位であることに対し、binary クラスは任意のバイナリデータを扱え、処理単位も 8bit 幅の データになります。

また、stringクラスはインスタンスの内容を更新することができませんが、binaryクラスのインスタンスはデータを追加したり既存のデータを書き換えることができます。この特徴により、binary クラスのインスタンスをstreamに変換して、ストリームデータの出力先として扱うことができます。

5.4.2. インスタンスの生成

コンストラクタ関数 binary を使ってインスタンスを生成します。

binary(buff*)

複数のデータを結合した結果を binary 型として返します。引数 buff には string 型または binary 型のデータを 0 個以上指定します。データを指定しない場合は、空の binary 型データを生成します。これは、バイナリリテラルで b'' と指定したのと同じです。 string 型は UTF-8 エンコードの内部表現をそのままバイナリ列として結合します。

5.4.3. **クラスメソッド**

binary.pack(format:string, values*):map

引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、values の内容を埋め込んだバイナリデータを binary 型として返します。format 中には、データの個数を表す数値に続いて以下の指定子を記述します。

指定子	説明
Х	データを埋め込まず、アドレスを指定のバイト数分だけ進めます。
С	string 型データをとり、文字列の最初の 1 バイトをバイナリ列に挿入します。
b	number 型データをとり、符号付きバイト数値としてバイナリ列に挿入します。
В	number 型データをとり、符号無しバイト数値としてバイナリ列に挿入します。
h	number 型データをとり、符号付き2バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
Н	number 型データをとり、符号無し2バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
i	number 型データをとり、符号付き 4 バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
I	number 型データをとり、符号無し4バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
1	number 型データをとり、符号付き 4 バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
L	number 型データをとり、符号無し4バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
q	number 型データをとり、符号付き8バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
Q	number 型データをとり、符号無し8バイト数値としてバイナリ列に挿入します。
f	number 型データをとり、float 数値 (4 バイト) としてバイナリ列に挿入します。
d	number 型データをとり、double 数値 (8 バイト) としてバイナリ列に挿入します。
s	string 型データをとり、指定の文字エンコードに変換してバイナリ列に挿入します。文
	字エンコード名は、format 中にブレース記号 "{" および "}" で囲んで指定します。こ
	の指定子の場合、先行する個数を表す数値は、変換した結果からバイナリ列に挿入する

バイト数になります。

2 バイト、4 バイト、8 バイト数値のバイトオーダーは以下の指定子で変更できます。

指定子	説明
@	以降の数値フォーマットをシステム依存のエンディアンに設定します。
=	以降の数値フォーマットをシステム依存のエンディアンに設定します。
<	以降の数値フォーマットをリトルエンディアンに設定します。
>	以降の数値フォーマットをビッグエンディアンに設定します。
!	以降の数値フォーマットをビッグエンディアンに設定します。

データの個数として数値の代わりにアスタリスク記号 "*" を指定すると、引数列 values から数値データ をとりだし、それをデータの個数とします。

5.4.4. インスタンスメソッド

binary#add(buff+:binary):map:reduce

binary インスタンスに他の binary を追加します。

binary#decode(codec:codec)

binary の内容を codec で指定した文字コーデックを使ってデコードし、結果を string 型で返します。

binary#dump():void:[upper]

binary の内容を標準出力にダンプ表示します。アルファベットは小文字で表示されますが、アトリビュート:upper をつけると大文字になります。

binary#each() {block?}

binaryの内容を1バイトずつとりだし、number型で返すイテレータを生成します。

block をつけると、1 バイトとりだすごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |num:number, idx:number| で、|num idx:number| で、 $|\text{num idx:numb$

binary#encodeuri()

URI 書式で処理ができるようにした文字列を返します。

binary#len()

バイト数を返します。

binary#pointer(offset:number => 0)

t.b.d.

binary#reader() {block?}

読み込み用ストリームに変換した結果を返します。

binary#store(offset:number, buff+:binary):map:reduce

binary インスタンスの、指定の位置に他の binary の内容を格納します。引数 offset はバイト単位で 指定します。現在のサイズを超えたところに格納位置を指定すると、そこまでの範囲を 0 で埋めます。

binary#unpack(format:string, values*:number):[nil]

引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、バイナリデータから数値や文字列を抽出し、その結果をリストで返します。指定した位置がバイナリデータの範囲外になるとエラーになりますが、アトリビュート:nilをつけると範囲外ではnilを返すようになります。

format 中には、データの個数を表す数値に続いて以下の指定子を記述します。

指定子	説明
Х	抽出はせず、アドレスを指定のバイト数分だけ進めます。
С	1 バイトを抽出し、それを文字コードとした string 型データを返します。
b	1 バイトを抽出し、それを符号付きバイト数値とした number 型データを返します。
В	1 バイトを抽出し、それを符号無しバイト数値とした number 型データを返します。
h	2 バイトを抽出し、それを符号付き2 バイト数値とした number 型データを返します。
Н	2 バイトを抽出し、それを符号無し2 バイト数値とした number 型データを返します。
i	4 バイトを抽出し、それを符号付き 4 バイト数値とした number 型データを返します。
I	4 バイトを抽出し、それを符号無し4 バイト数値とした number 型データを返します。
1	4 バイトを抽出し、それを符号付き 4 バイト数値とした number 型データを返します。
L	4 バイトを抽出し、それを符号無し 4 バイト数値とした number 型データを返します。
q	8 バイトを抽出し、それを符号付き 8 バイト数値とした number 型データを返します。
Q	8 バイトを抽出し、それを符号無し8 バイト数値とした number 型データを返します。
f	4 バイトを抽出し、それを float 数値とした number 型データを返します。
d	8 バイトを抽出し、それを double 数値とした number 型データを返します。
s	指定の文字エンコードで文字列に変換した結果を string 型データで返します。文字エ
	ンコード名は、format 中にブレース記号 "{" および "}" で囲んで指定します。この指
	定子の場合、先行する個数を表す数値は、変換した結果からバイナリ列から抽出するバ
	イト数になります。

2 バイト、4 バイト、8 バイト数値のバイトオーダーは以下の指定子で変更できます。

指定子	説明
@	以降の数値フォーマットをシステム依存のエンディアンに設定します。
=	以降の数値フォーマットをシステム依存のエンディアンに設定します。
<	以降の数値フォーマットをリトルエンディアンに設定します。
>	以降の数値フォーマットをビッグエンディアンに設定します。
!	以降の数値フォーマットをビッグエンディアンに設定します。

データの個数として数値の代わりにアスタリスク記号 "*" を指定すると、引数列 values から数値データをとりだし、それをデータの個数とします。

binary#unpacks(format:string, values*:number) {block?}

引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、バイナリデータから数値や文字列を抽出するイテレータ を返します。引数 format の内容は binary#unpack と同じです。

block をつけると、データを抽出するごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |elems[], idx:number| で、elemsに抽出結果、idxに0から始まるインデクス番号が入ります。

binary#writer() {block?}

書き込み用ストリームに変換した結果を返します。初期のオフセットは binary の終端に設定され、書きこんだデータは追記されていきます。

5.5. codec クラス

5.5.1. 概要

Gura の文字列の内部コードである UTF-8 と他のエンコーディングとで文字コードを変換するクラスです。

5.5.2. インスタンスの生成

コンストラクタ関数 codec を使ってインスタンスを生成します。

codec(encoding:string, process eol:boolean => false)

指定したエンコーディング名に対応する codec 型インスタンスを返します。引数 encoding にエンコーディング名を指定します。対応する codec がない場合はエラーになります。process_eol は行末コードの変換の有無を表し、true を指定すると CR-LFコードとLFコードの変換を行います。false の場合はこの変換を行いません。

5.5.3. クラスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
bom_utf8	binary	R	UTF8 Ø BOM (Byte Order Mark)
bom_utf16be	binary	R	UTF16BE ∅ BOM
bom_utf16le	binary	R	UTF16LE ∅ BOM
bom_utf32be	binary	R	UTF32BE ∅ BOM
bom_utf32le	binary	R	UTF32LE ∅ BOM

5.5.4. クラスメソッド

codec.dir()

利用可能な文字コーデックの名前の一覧をリストで返します。

5.5.5. インスタンスメソッド

codec#decode(buff:binary):map

引数 buff の内容をデコードした結果を string 型で返します。

codec#encode(string:string):map

引数 string の内容をエンコードした結果を binary 型で返します。

5.6. color クラス

5.6.1. 概要

赤・緑・青およびアルファ値から成る色データを表現するクラスです。

5.6.2. インスタンスの生成

color(name, alpha?:number):map

指定した名前に対応する color インスタンスを生成します。引数 name に、string 型または symbol 型で色の名前を指定します。色の名前は Web 標準カラー名および X11 色名称の中のひとつを選択します。引数 alpha にはアルファ値を 0 から 255 の間の数値で指定します。

color(red:number, green:number, blue:number, alpha?:number):map

指定した RGB 値を持つ color インスタンスを生成します。引数 red、green および blue に 0 から 255 の間の数値で RGB 値を指定します。引数 alpha にはアルファ値を 0 から 255 の間の数値で指定します。

5.6.3. Web 標準カラー名

Web 標準カラー名と RGB 値を以下にまとめます。

名前	RGB 値
black	0, 0, 0
maroon	128, 0, 0
green	0, 128, 0
olive	128, 128, 0
navy	0, 0, 128
purple	128, 0, 128
teal	0, 128, 128
gray	128, 128, 128

名前	RGB 値
silver	192, 192, 192
red	255, 0, 0
lime	0, 255, 0
yellow	255, 255, 0
blue	0, 0, 255
fuchsia	255, 0, 255
aqua	0, 255, 255
white	255, 255, 255

5.6.4. クラスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
names	string	R	カラー名の一覧が格納されています
Black	color	R	色要素 #000000 を持った color インスタンスです
Maroon	color	R	色要素 #800000 を持った color インスタンスです
Green	color	R	色要素 #008000 を持った color インスタンスです
Olive	color	R	色要素 #808000 を持った color インスタンスです
Navy	color	R	色要素 #000080 を持った color インスタンスです
Purple	color	R	色要素 #800080 を持った color インスタンスです

Teal	color	R	色要素 #008080 を持った color インスタンスです
Gray	color	R	色要素 #808080 を持った color インスタンスです
Silver	color	R	色要素 #c0c0c0 を持った color インスタンスです
Red	color	R	色要素 #ff0000 を持った color インスタンスです
Lime	color	R	色要素 #00ff00 を持った color インスタンスです
Yellow	color	R	色要素 #ffff00 を持った color インスタンスです
Blue	color	R	色要素 #0000ff を持った color インスタンスです
Fuchsia	color	R	色要素 #ff00ffを持った color インスタンスです
Aqua	color	R	色要素 #00ffff を持った color インスタンスです
White	color	R	色要素 #ffffff を持った color インスタンスです

5.6.5. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
red	number	R/W	赤要素を 0 から 255 までの数値で表します
green	number	R/W	緑要素を 0 から 255 までの数値で表します
blue	number	R/W	青要素を 0 から 255 までの数値で表します
alpha	number	R/W	アルファ要素を 0 から 255 までの数値で表します
gray	number	R	グレー値を取得します。この値は、赤要素 R 、緑要素 G および青要素 B
			の値をもとに以下の演算式で算出したものです。
			0.299 * R + 0.587 * G + 0.114 * B

5.6.6. インスタンスメソッド

color#html()

色データを HTML で使われる "#rrggbb" の形式にした文字列を返します。

color#tolist():[alpha]

色データを赤・緑・青の順に並べたリストに変換します。アトリビュート:alpha をつけるとアルファ要素もいれ、赤・緑・青・アルファの順に並べたリストにします。

5.6.7. キャスト

以下のデータから color クラスのインスタンスにキャストできます。

- 色名を表す文字列またはシンボル
- 赤・緑・青または赤・緑・青・アルファ値を要素に持つリスト

5.7. datetime クラス

5.7.1. 概要

時刻を表すクラスです。

5.7.2. インスタンスの生成

5.7.3. クラスプロパティ

```
datetime(year:number => 0, month:number => 1, day:number => 1, hour:number => 0, min:number => 0, sec:number => 0, usec:number => 0, minsoff?:number):map 年月日および時刻を指定した datetime インスタンスを生成します。
```

プロパティ	型	R/W	内容
Sunday	number	R/W	日曜日を表すインデクス番号 0 が代入されています
Monday	number	R/W	月曜日を表すインデクス番号 1 が代入されています
Tuesday	number	R/W	火曜日を表すインデクス番号 2 が代入されています
Wednesday	number	R/W	水曜日を表すインデクス番号 3 が代入されています
Thursday	number	R/W	木曜日を表すインデクス番号 4 が代入されています
Friday	number	R/W	金曜日を表すインデクス番号 5 が代入されています
Saturday	number	R/W	土曜日を表すインデクス番号 6 が代入されています

5.7.4. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	内容
year	number	R/W	西曆
month	number	R/W	1 から 12 までの数値で 1 月から 12 月を表します。
day	number	R/W	1から31までの数値で1日から31日を表します。
hour	number	R/W	0 から 23 までの数値で 0 時から 23 時を表します。
min	number	R/W	0 から 59 までの数値で 0 分から 59 分を表します。
sec	number	R/W	0 から 59 までの数値で 0 秒から 59 秒を表します。
usec	number	R/W	0 から 999 までの数値で 0 ミリ秒から 59 ミリ秒を表します。
wday	number	R	0から6までの数値で日曜日から土曜日を表します。
week	symbol	R	週の名前を以下のシンボルで表します。
			`sunday, `monday, `tuesday, `wednesday,
			`thursday, `friday, `saturday
yday	number	R	1 から 366 までの数値で年の初めからの日数を表します。
unixtime	number	R	UTC の 1970 年 1 月 1 日 00:00:00 からの経過時間を秒で表わし
			ます

5.7.5. クラスメソッド

datetime.now():[utc]

現在の年月日および時刻が入った datetime インスタンスを生成します。

datetime.time(hour:number => 0, minute:number => 0,

sec:number => 0, usec:number => 0):map

時刻を設定した datetime インスタンスを生成します。年月日は0年1月1日に設定されます。

datetime.today():[utc]

今日の日付が入った datetime インスタンスを生成します。 時刻は 00:00:00 が設定されます。

datetime.isleap(year:number):map

指定した年がうるう年のとき true を返します。それ以外は false を返します。

datetime.monthdays(year:number, month:number):map

西暦と月を受け取り、その月の最終日を返します。

datetime.parse(str:string):map

datetime.weekday(year:number, month:number, day:number):map 指定した日の曜日をインデクス値で返します。日曜日が0で土曜日が6になります。

5.7.6. インスタンスメソッド

datetime#format(format => `w3c)

指定のフォーマットで日時データを文字列に変換します。引数 format にはシンボルまたは文字列を指定します。引数 format にシンボルを指定した場合、以下のように変換します。

シンボル	説明
`w3c	W3C の仕様で使われる日時フォーマットに変換します。
	例: 2010-11-06T08:49:37Z
`http	RFC で定義される HTTP の仕様で使われる日時フォーマットに変換します。
	例: Sat, 06 Nov 2010 08:49:37 GMT
`asctime	C 言語の asctime 関数のフォーマットで変換します。
	例: Sat Nov 6 08:49:37 +0000 2010

引数 format に文字列を指定した場合、以下の指定子で日時データの要素を文字列変換します。指定子以外の文字はそのまま文字列に挿入されます。

指定子	説明
%d	日
%H	時間 (24 時間制)
%I	時間 (12 時間制)
%m	月
%M	分
%S	秒
% W	日曜日を0とした曜日のインデクス番号

% У	年の下2桁
%Y	年

datetime#settzoff(mins:number):reduce

UTC からの時差を分単位で指定します。

datetime#clrtzoff():reduce

UTC からの時差情報を取り除きます。

datetime#utc()

日時を UTC に変換した結果を返します。

5.8. declaration クラス

5.8.1. 概要

function インスタンスの引数宣言を表すクラスです。

5.8.2. インスタンスの参照

function インスタンスの decls プロパティで参照することができます。

5.8.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
symbol	symbol	R	引数のシンボルを返します
name	string	R	引数の名前を文字列で返します
default	expr	R	デフォルト値の式を返します

5.9. dict クラス

5.9.1. 概要

辞書型のデータを扱うクラスです。

5.9.2. インスタンスの生成

```
dict(elem[]?):[icase] {block?}
```

dict 型インスタンスを生成します。引数 elem にリスト形式で辞書データを指定します。 リストの内容はキーと値を以下のように並べたものになります。

```
dict([key, value, key, value, ..])
dict([[key, value], [key, value], ..])
dict([key => value, key => vakue, ..])
```

blockを指定すると、その内容を辞書データに追加します。ブロックの内容はキーと値を以下のように並べたものになります。

```
dict {key, value, key, value, ..}
dict {[key, value], [key, value], ..}
dict {key => value, key => vakue, ..}
```

デフォルトでは、キーに文字列を指定した場合大文字と小文字を区別します。アトリビュート icase を指定すると、大文字・小文字を区別しない辞書を生成します。

%{block}

block の内容を辞書データに追加した dict 型インスタンスを生成します。ブロックの内容はキーと値を以下のように並べたものになります。

```
%{key, value, key, value, ..}
%{[key, value], [key, value], ..}
%{key => value, key => vakue, ..}
```

5.9.3. インスタンスメソッド

dict#clear()

辞書の内容を消去します。

dict#erase(key):map

引数 key で指定したキーに対応するエントリを削除します。

dict#get(key, default?:nomap):map:[raise]

引数 key で指定したキーに対応するエントリの値を返します。

対応するエントリが存在しない場合は default で指定した値を返します。default を省略したとき、この値は nil になります。

引数 default にはアトリビュート: nomap がついており、暗黙的マッピングの展開がされません。これにより、デフォルト値としてリストやイテレータを指定することができます。

アトリビュート:raise をつけると、対応するエントリが存在しない場合はエラーになります。default の値は無視されます。

dict#gets(key, default?):map:[raise]

引数 kev で指定したキーに対応するエントリの値を返します。

対応するエントリが存在しない場合は default で指定した値を返します。 default を省略したとき、この値は nil になります。

引数 default は暗黙的マッピングの対象になります。つまり、例えば keyとdefault にリストが指定された場合、key[0]とdefault[0]、key[1]とdefault[1] ... が対応するペアになります。

dict#haskey(key):map

引数 key で指定したキーに対応するエントリが存在するとき true、存在しない場合 false を返します。

dict#items() {block?}

キーと値を組にしたリストを順に返すイテレータを生成します。

block をつけると、データを抽出するごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は

|item[], idx:number| で、item にキーと値を組にしたリスト、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

dict#keys() {block?}

キーを順に返すイテレータを生成します。

block をつけると、データを抽出するごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |key, idx:number| で、key にキー値、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

dict#values() {block?}

値を順に返すイテレータを生成します。

block をつけると、データを抽出するごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |value, idx:number| で、valueに値、idx:number|で、valueに値、idx:numberのから始まるインデクス番号が入ります。

dict#len()

辞書のサイズを返します。

dict#set(key, value:nomap):map:reduce

指定のキーと値を持ったエントリを追加します。dict インスタンス自身を戻り値として返します。

dict#setdefault(key, value:nomap):map

キーが存在しない場合、指定のキーと値を持ったエントリを追加してvalueの値を返しま。キーがすでに存在した場合は新たなエントリを追加せず、既存のエントリの値を返します。

dict#sets(key, value):map:void

t.b.d.

dict#store(elems?):reduce:[default] {block?}

引数 elems に指定したリストまたは dict 型の内容を追加します。

変数 d が dict のインスタンスとすると、リストの内容はキーと値を以下のように並べたものになります。

```
d.store([key, value, key, value, ..])
d.store([[key, value], [key, value], ..])
d.store([key => value, key => vakue, ..])
```

blockを指定すると、その内容を辞書データに追加します。ブロックの内容はキーと値を以下のように並べたものになります。

```
d.store {key, value, key, value, ..}
d.store {[key, value], [key, value], ..}
d.store {key => value, key => vakue, ..}
```

アトリビュート:default をつけると、キーがすでに辞書に存在した場合何もしません。

5.10. directory クラス

5.10.1. 概要

列挙が可能なパス内を走査するためのクラスです。通常 path.dir() や path.walk() などの関数とともに用いられます。

5.10.2. インスタンスの生成

directory(pathname:string):map {block?} directory型インスタンスを生成します。

5.11. environment クラス

5.11.1. 概要

変数などを格納している environment の内容を操作するクラスです。

5.11.2. インスタンスの生成

- 関数 locals でインスタンスを生成します。
- 関数 outers でインスタンスを生成します。

5.11.3. インスタンスメソッド

environment#eval(expr:expr):map
environmentのスコープ内で exprの内容を評価します。

environment#lookup(symbol:symbol, escalate:boolean => true):map environment 内で symbol に対応する定義値を返します。引数 escalate に true を指定すると、 environment で定義値が見つからないとき外部スコープも探索します。

5.12. error クラス

5.12.1. 概要

エラー内容を扱うクラスです。

5.12.2. インスタンスの生成

● 関数 catch のブロックパラメータとして渡されます。

5.12.3. クラスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
ArgumentError	error	R	error インスタンス
ArithmeticError	error	R	error インスタンス
AttributeError	error	R	error インスタンス

CodecError	error	R	error インスタンス
CommandError	error	R	error インスタンス
DeclarationError	error	R	error インスタンス
FormatError	error	R	error インスタンス
IOError	error	R	error インスタンス
ImportError	error	R	error インスタンス
IndexError	error	R	error インスタンス
IteratorError	error	R	error インスタンス
KeyError	error	R	error インスタンス
MemberAccessError	error	R	error インスタンス
MemoryError	error	R	error インスタンス
NameError	error	R	error インスタンス
NotImplementedError	error	R	error インスタンス
OutOfRange	error	R	error インスタンス
ResourceError	error	R	error インスタンス
RuntimeError	error	R	error インスタンス
SyntaxError	error	R	error インスタンス
SystemError	error	R	error インスタンス
TypeError	error	R	error インスタンス
ValueError	error	R	error インスタンス
ZeroDivisionError	error	R	error インスタンス

5.12.4. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
lineno	number	R	ソース中、エラーを発生した式が記述されている行番号を返しま
			す。
linenobtm	number	R	ソース中、エラーを発生した式が記述されている最後の行番号を返
			します。
postext	string	R	エラーを発生した式が記述されている位置を文字列で返します。
source	string	R	エラーを発生したコードの情報源がストリームの場合はそのパス名
			を返します。それ以外の場合以下の文字列を返します。
			<interactive> 対話形式で入力された式</interactive>
			<cmdline> コマンドラインで指定された式</cmdline>
			 OLE 内で記述された式
text	string	R	エラー文字列を返します。
trace	iterator	R	エラーを発生した式からルートまでのトレース情報です。expr を要
			素に持つイテレータを返します。

5.13. expr クラス

5.13.1. 概要

Gura スクリプトの構文木を扱うクラスです。

5.13.2. インスタンスの生成

● Gura の任意の式の先頭にオペレータ "`" をつけると、expr クラスのインスタンスになります。

5.13.3. Expr 要素と判定メソッド

expr クラスは Gura 文法の構成要素である Expr 要素を表現します。Expr の要素と、それらのうちのどれを expr インスタンスが表現しているか判定するメソッド、およびシンボルの一覧を以下に示します。

Expr 要素	判定メソッド	シンボル
Assign	expr#isassign()	assign
Binary	expr#isbinary()	(抽象要素)
BinaryOp	expr#isbinaryop()	binaryop
Block	expr#isblock()	block
Caller	expr#iscaller()	caller
Compound	expr#iscompound()	(抽象要素)
Container	expr#iscontainer()	(抽象要素)
Member	expr#ismember()	member
Indexer	expr#isindexer()	indexer
Lister	expr#islister()	lister
Quote	expr#isquote()	quote
String	expr#isstring()	string
Symbol	expr#issymbol()	symbol
Unary	expr#isunary()	(抽象要素)
UnaryOp	expr#isunaryop()	unaryop
Value	expr#isvalue()	value

5.13.4. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
block	expr	R	Caller 要素が持つブロックの内容を返します。
			ブロックが存在しない場合 nil を返します。
blockparam	iterator	R	Caller 要素が持つブロックパラメータの内容を expr 型で返すイテ
			レータを生成します。
			ブロックパラメータが存在しない場合 nil を返します。
car	expr	R	Compound 要素が持つ car の内容を返します。
cdr	iterator	R	Compound 要素が持つ cdr の内容を expr 型で返すイテレータを

			生成します。	
child	expr	R	Unary 要素が持つ child の内容を返します。	
children	iterator	R	Container 要素が持つ子要素の内容を expr 型で返すイテレータ	
			を生成します。	
left	expr	R	Binary 要素の左側要素の内容を返します。	
lineno	number	R	ソース中、式が記述されている行番号を返します。	
linenobtm	number	R	ソース中、式が記述されている最後の行番号を返します。	
operator	operator	R	UnaryOp、BInaryOp および Assign が持つオペレータインスタンス	
			を返します。	
			UnaryOp と BinaryOp に対しては常に有効な値を返しますが、	
			Assign については、オペレータが存在しない場合 nil を返します。	
postext	string	R	式が記述されている位置を文字列で返します。	
right	expr	R	Binary 要素の右側要素の内容を返します。	
source	string	R	ソースがストリームの場合はそのパス名を返します。それ以外の場	
			合以下の文字列を返します。	
			<interactive> 対話形式で入力された式</interactive>	
			<cmdline> コマンドラインで指定された式</cmdline>	
			 OLE 内で記述された式 	
string	string	R	String 要素の文字列データを返します。	
symbol	symbol	R	Symbol 要素のシンボル値を返します。	
trailer	expr	R	Caller 要素が持つトレーラーの内容を返します。	
typename	string	R	タイプ名を返します。これはtypesymの内容を文字列にしたもので	
			す。	
typesym	symbol	R	タイプシンボルを返します。	
value	any	R	Value 要素の値を返します。	

5.13.5. インスタンスメソッド

expr#eval()

expr の内容を現在の環境で評価します。

expr#genscript(dst?:stream:w, style?:symbol)

引数 dst で指定したストリームに expr の内容をスクリプトに変換したものを出力します。dst を省略した場合は結果を文字列として返します。

style は以下のうちのひとつを指定します。style を省略した場合は`fancy が選択されます。 `brief 以外で出力したスクリプトは通常の Gura スクリプトとして扱うことができます。

style	説明
`crammed	空白などをつめた形式
`oneline	改行を含まない、一行で表現した形式

`brief	ブロックの内容を省略した形式
`fancy	改行やインデントを用いて可読性を高めた形式

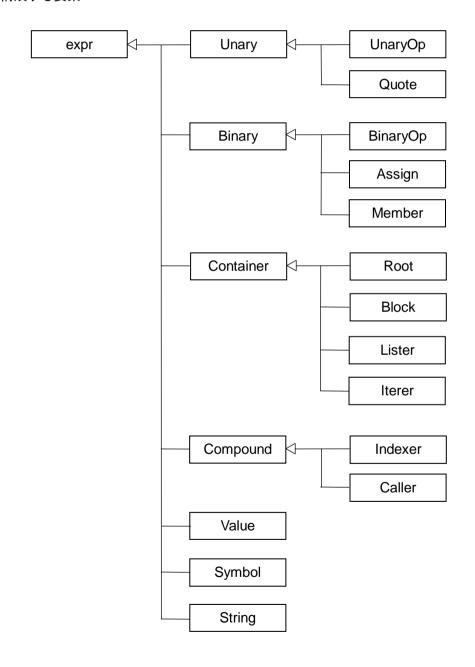
expr#tofunction(`args*)

指定した引数列を持つ関数に変換します。

expr#unquote()

expr の内容が quote されているとき、それを取り除きます。

5.13.6. 式を構成する要素



5.14. function **クラス**

5.14.1. 概要

関数を扱うクラスです。

5.14.2. インスタンスの生成

function(`args*) {block}

block に記述した手続きを持つ function 型インスタンスを生成して返します。 引数リストを args で指定します。 args が省略され、block にブロックパラメータがある場合、ブロックパラメータを引数リストとして扱います。

args もブロックパラメータも無い場合、block 中にドル記号 "\$" を先頭に持つシンボルがあると、それらのシンボルを引数リストに追加します。引数のならびは出現した順になります。

&{block}

block に記述した手続きを持つ function 型インスタンスを生成して返します。 block にブロックパラメータがある場合、ブロックパラメータを引数リストとして扱います。

ブロックパラメータが無い場合、block中にドル記号 "\$" を先頭に持つシンボルがあると、それらのシンボルを引数リストに追加します。引数のならびは出現した順になります。

5.14.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
decls	iterator	R	引数宣言の情報を持った declaraion インスタンスを要素にするイ
			テレータを返します。
expr	expr	R/W	関数がスクリプトで定義されている場合、その本体を返します。関数が
			C++で記述されている場合は nil を返します。
fullname	string	R	関数のフルネームを文字列で返します。
			● インスタンスメソッドの場合: メソッドが属しているクラス名と関数名
			をシャープ記号 "#" でつなげた文字列を返します。
			● クラスメソッドの場合: メソッドが属しているクラス名と関数名をドット
			記号 "." でつなげた文字列を返します。
			● モジュール内の関数の場合: モジュール名と関数名をドット記号
			"." でつなげた文字列を返します。
help	string	R/W	関数に登録された help インスタンスを返します。
symbol	symbol	R/W	関数のシンボルを返します
name	string	R	関数の名前を文字列で返します

5.14.4. インスタンスメソッド

function#addhelp(lang:symbol, format:string, help:string):map

function#diff(var?:symbol)

関数の内容を数学の微分公式に沿って微分し、その結果の式を function インスタンスで返します。引数 var で変数名のシンボルを指定すると、その変数に対する微分を行います。省略した場合、関数の最初の引数に対して微分を行います。

関数の内容は以下の条件を満たしている必要があります。

- 複数の式を含まないこと
- math モジュールの関数と四則演算およびべき乗からなる式であること

function#gethelp(lang?:symbol):map

function#help(lang?:symbol):map:void

5.15. help クラス

5.15.1. 概要

ヘルプを扱うクラスです。

5.15.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
format	string	R	
lang	symbol	R	
text	string	R	

5.16. image クラス

5.16.1. 概要

イメージデータを扱うクラスです。

5.16.2. インスタンスの生成

image(stream:stream:r, format?:symbol, imgtype?:string):map {block?}

引数 streamで指定したストリームを読み込んでイメージデータを構築します。引数 format は内部データ表現を表し、`rgb または`rgba を指定します。読み込むデータのフォーマットは自動で識別されますが、引数 imgtype で明示的に指定することができます。指定可能なフォーマットは、モジュールをインポートすることで追加できます。

image(format:symbol):map {block?}

バッファを持たないイメージデータを作ります。引数 format は内部データ表現を表し、`rgb または `rgba を指定します。

image(format:symbol, width:number, height:number, color?:color):map {block?} 指定のサイズを持ったブランクイメージデータを作ります。引数 format は内部データ表現を表し、`rgb

または`rgbaを指定します。widthおよびheightにそれぞれ幅と高さを指定します。デフォルトではイメージの内容は黒で塗りつぶされますが、引数 color で塗りつぶす色を指定できます。

5.16.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
format	symbol	R	イメージの内部フォーマットを`rgb または `rgba で返します。
height	number	R	イメージの高さをピクセル単位で返します。
palette	palette	R/W	イメージに登録されている palette インスタンスを返します。 パレット
			がない場合は nil を返します。
width	number	R	イメージの幅をピクセル単位で返します。

5.16.4. インスタンスメソッド

image#allocbuff(width:number, height:number, color?:color):void バッファを持たないイメージインスタンスに、指定の大きさのバッファを確保します。引数 color に、バッファを途りつぶす色を指定します。省略した場合、黒で塗りつぶします。

image#blur(radius:number, sigma:number)

image#clear():void

image#crop(x:number, y:number, width?:number, height?:number):map イメージの一部分をとりだして、新しい image インスタンスを生成します。引数 x, y に抽出する領域の左上 座標を指定します。引数 width, height には、抽出する大きさを指定します。これらを省略した場合、イメージの右端および下端までを抽出します。

image#delpalette():reduce

イメージに関連付けられたパレットを削除します。

image#each(x?:number, y?:number, width?:number, height?:number, scandir?:symbol) {block?}

イメージのピクセル色データを順に走査して color 型のデータを返すイテレータを生成します。x、y、width、height に走査範囲、scandir に走査方向を指定します。scandir で指定できるシンボル値は以下のとおりです。

(scandir の指定はまだ未実装)。

block をつけると、ピクセルごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |color:color, idx:number| で、color にピクセルの色データ、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

image#extract(x:number, y:number, width:number, height:number, element:symbol, dst):void
t.b.d.

image#fill(color:color):void

イメージ全体を指定した色で塗りつぶします。

image#fillrect(x:number, y:number,

width:number, height:number, color:color):map:void

指定の範囲を指定した色で塗りつぶします。

image#flip(orient:symbol):map

イメージを左右または上下反転させた新しい image インスタンスを生成します。引数 orient に指定できるシンボル値は以下のとおりです。

`horz 左右反転

`vert 上下反転

`both 左右および上下反転。これはイメージを 180 度回転させたことと同じです。

image#getpixel(x:number, y:number):map

指定の位置の色データを color 型で返します。

image#grayscale()

image#paste(x:number, y:number, src:image, width?:number, height?:number, xoffset:number => 0, yoffset:number => 0, alpha:number => 255):map:reduce 引数 x、y で指定した位置にイメージ src の画像内容をコピーします。引数 width、height はコピーする幅および高さを表し、これらを省略すると画像全体をコピーします。xoffset、yoffset はコピー元のオフセット座標です。引数 alpha を指定すると、コピーの際のブレンディング比率を指定できます。alphaが 0 で 0%、255 で 100%です。

image#putpixel(x:number, y:number, color:color):map:void 引数 x、y で指定した位置のピクセル色データを color に変更します。

image#read(stream:stream, imgtype?:string):map:reduce

引数 stream からイメージデータを読み込みます。このメソッドを実行するイメージインスタンスは、バッファ が未確保である必要があります。 すでにバッファを持っていた場合はエラーになります。

引数 imgtype には、"jpeg" や"png" というようにイメージタイプ名を文字列で指定します。この引数が 省略されると、イメージファイルのヘッダ情報やファイル名のサフィックスからイメージタイプを識別します。

image#reducecolor(palette?:palette)

イメージデータ中の色データを、指定したパレット中の一番近いエントリの色で置き換えたイメージインスタンスを生成して返します。引数 palette を省略すると、イメージが持っているパレットを使って置き換えを行います。このとき、イメージにパレットがない場合はエラーになります。

image#replacecolor(colorOrg:color, color:color, tolerance?:number)

イメージ中 colorOrg と同じ色データを持つピクセルを color に置き換えます。引数 tolerance を指定すると、ピクセルごとに色データの値の差を算出し、それが tolerance 以下である場合に色データを置

き換えます。

image#resize(width?:number, height?:number):map:[box]

イメージを指定の大きさにリサイズしたイメージインスタンスを生成して返します。

width および height にリサイズ結果の大きさを指定します。どちらかを省略した場合、オリジナルの縦横 比率を保つようにリサイズされます。アトリビュート:boxを指定して、widthのみを指定すると、縦横がいず れも width の正方形が指定されます。

image#rotate(rotate:number, background?:color):map

イメージを引数 rotate で指定した角度だけ回転させたイメージインスタンスを生成して返します。 rotate の数値は degree で表わし、正の数が時計回り、負で反時計回りになります。

引数backgroundは、回転させたときにできる余白を塗りつぶす色を指定します。省略すると、黒で塗りつぶします。

image#setalpha(alpha:number, color?:color, tolerance?:number):reduce

引数 color で指定した色データを持つピクセルのアルファ値を引数 alpha の値に置き換えます。引数 colorを省略すると、イメージ全体のアルファ値を alpha の値にします。引数 tolerance を指定すると、ピクセルごとに色データの値の差を算出し、それが tolerance 以下である場合にアルファ値を置き換えます。

image#size()

イメージの幅と高さをリストにして返します。

image#store(x:number, y:number, width:number, height:number, element:symbol, src):void
t.b.d.

image#thumbnail(width?:number, height?:number):map:[box]

イメージデータを、縦横比を保存しながら幅 width、高さ height の範囲内に収まるようリサイズしたイメージインスタンスを生成して返します。指定した範囲よりもイメージが小さい場合、元のイメージへの参照をそのまま返します。引数 width のみを指定してアトリビュート: box をつけると、幅・高さとも width ピクセルの範囲に収まるイメージを生成します。

image#write(stream:stream, imgtype?:string):map:reduce

引数 stream にイメージデータを書き込みます。このメソッドを実行するイメージインスタンスは、バッファを持っている必要があります。バッファを持っていない場合はエラーになります。

引数 imgtype には、"jpeg" や"png" というようにイメージタイプ名を文字列で指定します。この引数が 省略されると、ストリームについているファイル名のサフィックスからイメージタイプを識別します。

5.17. iterator **クラス**

5.17.1. 概要

イテレータを扱うクラスです。

5.17.2. インスタンスの生成

iterator(value+) {block?}

汎用イテレータ関数です。指定された要素を順次返すイテレータを生成します。

要素がイテレータやリストの場合、それらの要素を返していきます。

consts(value, num?:number) {block?}

指定の値を指定の数だけ出力するイテレータを生成します。

引数 value に値、num に生成する個数を指定します。value には任意の型のデータを指定できます。num を省略すると、無限に値を返すイテレータになります。

range(num:number, num end?:number, step?:number):map {block?}

開始値と終了値、および間隔を指定して連続する数列を出力するイテレータを生成します。

引数 num のみを指定すると、0 から num - 1 までの整数を出力します。

引数 num と num end を指定すると、num から num end - 1 までの整数を出力します。

引数 num, num_end および step を指定すると、num を開始値にして、step ごとに数値をインクリメントして num end を超えない範囲までの数値を出力します。

連続した数値を出力するのに、オペレータ ".." を使うこともできます。"n..m" という形式では、n から m までの整数を出力するイテレータになります。また、"n.." と指定すると、n を始点にして、無限にインクリメントするイテレータになります。

interval(a:number, b:number, samples:number):map:[open,open l,open r] {block?}

範囲とサンプル数を指定して数列を出力するイテレータを生成します。一般式は以下のとおりです。 引数 a に最小値、b に最大値を指定すると、サンプル数 samples 個だけ、[a, b] の範囲内で等間隔な数列を出力します。

アトリビュート: open, :open_1, :open_r を指定すると、範囲のオープン条件を指定できます。:openを指定すると、範囲指定が(a, b)に、:open_1 では(a, b]、:open_r では[a, b)になります。

5.17.3. インスタンスメソッド

イテレータが実装するメソッドは、リストのメソッドと大部分が共通しています。共通しているメソッドは list クラスの項に掲載していますので、そちらを参照ください。この項は、イテレータ特有のメソッドを示します。

iterator#delay(delay:number) {block?}

イテレータの要素を返すたびに引数 delay で指定した秒数だけ遅延します。

blockをつけると、イテレータの要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は | value, idx: number | で、value に要素データ、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

iterator#isinfinite()

イテレータが無限イテレータのとき true、有限イテレータのとき false を返します。

iterator#next()

イテレータの次の要素の値を返します。

iterator#repeater()

イテレータをリピータとして設定します。

5.18. list クラス

5.18.1. 概要

リストを扱うクラスです。

5.18.2. インスタンスの生成

list(iter+:iterator), xlist(iter+:iterator)

ひとつ以上のイテレータを結合した結果を、ひとつのリストインスタンスとして返します。xlist は、要素から nil 値を取り除きます。

@(func?:function) {block?}

ブロックの要素をもとにリストを生成します。詳細は「Gura 言語マニュアル」を参照ください。

dim(n+:number) {block?}

指定の要素数を持った多重リストを生成して返します。例えば、dim(2, 3) は [[nil, nil, nil], nil, nil, nil, nil] というリストを生成します。要素の値はデフォルトで nil ですが、blockを指定するとブロックの評価値を要素の値とします。ブロックの評価の際 | i0:number, i1:number, ... という形式のブロック引数を渡します。i0, i1 … はループインデクスです。

set(iter+:iterator):[and,or,xor], xset(iter+:iterator):[and,or,xor]

ひとつ以上のイテレータを結合し、重複した要素をとりのぞいた結果をひとつのリストインスタンスとして返します。xset は、要素から nil 値を取り除きます。デフォルトでは、イテレータ同士 or 論理で結合します。アトリビュート and を指定すると、イテレータ間で同じ値を持つ要素のみを抽出します。アトリビュート xor を指定すると、イテレータ間で重複しない要素のみを抽出します。

5.18.3. インスタンスメソッド

list#add(elem+):reduce

リストに、引数 elem で表わされる要素を追加します。これは破壊的メソッドです。

list#align(n:number, value?):map {block?} / iterator#align(n:number, value?) {block?} リストやイテレータの要素中、n 個までの要素を返すイテレータを生成します。リストの要素数が引数 n よりも小さい場合、実際の要素数を超えた分は value の値を返します。value が省略されたとき、その部分はnil になります。

block をつけると、イテレータの要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は | value, idx: number | で、value に要素データ、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

list#and() / iterator#and()

要素間をオペレータ "&" で演算した結果を返します。

list#append(elem+):reduce

リストに、引数 elem で表わされる要素を追加します。これは破壊的メソッドです。elem がリストまたはイテレータのとき、それらの要素が追加対象になります。

list#average() / iterator#average()

要素から平均値を算出し、結果を返します。

list#clear():reduce

要素をすべてとりのぞき、空のリストにします。これは破壊的メソッドです。

list#combination(n:number) {block?}

リストから、重複しないn個のデータの組み合わせをリストにして返すイテレータを生成します。イテレータの要素数は、リストのデータ数をm個としたときmCnになります。

block をつけると、組み合わせのリストごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |elements:list, idx:number| で、elements:list, idx:number| では、elements:list, idx:number| で、elements:list, idx:number| で、element

list#count(criteria?) / iterator#count(criteria?)

リストまたはイテレータ中、条件に合致する要素の数を返します。条件 criteria には値または関数を指定します。

criteriaを省略すると、要素中で真値と判断できるものの数を返します。

criteria に値を指定した場合、その値と要素を比較し、等しいと判断したものの数を数えます。

criteria に渡す関数は、引数を一つとり boolean 値を返すものを指定します。list#count メソッド は要素をひとつずつ関数に渡し、帰ってきた true の数を数えます。

list#each() {block?} / iterator#each() {block?}

リストまたはイテレータの要素を順に走査するイテレータを返します。

block をつけると、要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |value, idx:number| で、value に要素値、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

list#erase(idx*:number):reduce

引数 idx で指定される位置の要素をリストから削除します。これは破壊的メソッドです。

list#filter(criteria) {block?} / iterator#filter(criteria) {block?}

リストまたはイテレータ中、引数 criteria で指定した条件に合致する要素を返すイテレータを生成します。 criteria に関数を指定すると、各要素を引数にしてその関数を呼び出し、関数が true を返したときの要素を抽出します。

criteria にリストまたはイテレータを指定すると、criteria 中で true となる位置のデータを抽出します。

block をつけると、要素ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |value, idx:number| で、valueに要素値、idxに0から始まるインデクス番号が入ります。

list#find(criteria?):[index] / iterator#find(criteria?):[index]
リストまたはイテレータ中、引数 criteria で指定した条件に合致する要素の値を返します。criteria

を省略すると、true と判定される要素の値を返します。アトリビュートに:index を指定すると、要素の値ではなくインデクス値を返します。

criteria に指定した値の型によって、以下の判定処理を行います。

- 関数を指定すると、criteria(x) という形式で要素をその関数の引数として渡し、戻り値が true か否かをチェックします。
- リストまたはイテレータを指定すると、その要素が true か否かをチェックします。
- その他の値を指定すると、要素がその値と等しいかチェックします。

list#first()

リストの最初の要素値を返します。

list#flat()

入れ子になったリストをすべて一次元に展開したリストを返します。

list#fold(n:number, nstep?:number):[iteritem] {block?} / iterator#fold(n:number):[iteritem] {block?} リストまたはイテレータの要素から n 個ずつ組にしたリストを返すイテレータを生成します。引数 nstep を指定すると、次に抽出する要素の間隔を指定できます。nstep を省略すると、次の抽出位置は n 個先になります。アトリビュート:iteritem をつけると、組にした結果をリストではなくイテレータで返します。

block をつけると、抽出したリストごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |elements:list, idx:number| で、elementsに抽出リスト、idxに 0 から始まるインデクス番号が入ります。

list#format(format:string):map / iterator#format(format:string) {block?} printf 関数のフォーマットで、リストまたはイテレータの要素を文字列に変換します。

list#get(index:number):map:flat

リスト中、引数 index で指定した位置にあるデータを取得します。

list#head(n:number):map {block?} / iterator#head(n:number):map {block?} リストまたはイテレータの最初のn個のデータを返すイテレータを生成します。

block をつけると、データごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |value, idx:number| で、valueにデータ値、idxに0から始まるインデクス番号が入ります。

list#contains(value) / iterator#contains(value)

リストまたはイテレータの要素中に、valueと同じ値のデータがある場合 true を、ない場合は false を返します。

list#isempty()

リストの要素が空のとき true を返します。ひとつでも要素があれば false を返します。

list#join(sep:string => "") / iterator#join(sep?:string)

リストまたはイテレータの要素を文字列に変換し、それらを指定の文字列 sep で連結します。

iterator#joinb()

イテレータで返される binary 型の要素を連結した結果を返します。要素が binary 型でない場合、エラーになります。

list#last()

リストの最後の要素を返します。

list#len() / iterator#len()

リストまたはイテレータの要素の数を返します。

list#map(func:function) {block?} / iterator#map(func:function) {block?} リストまたはイテレータから要素の値を関数オブジェクト func に引数として渡した結果を返すイテレータを生成します。関数の呼び出しは、要素の値をvalueとするとfunc(value) という形式になります。ブロックを指定すると、生成したイテレータを即座に評価します。このとき、ブロックパラメータの形式は |valueMapped, idx:number| となり、valueMapped に関数 func の戻り値、idx に 0 から始まるインデクス番号が入ります。

list#max():[index,last_index,indices] / iterator#max():[index,last_index,indices] アトリビュートを何もつけずに実行したとき、リストまたはイテレータの要素のうち、大小比較をした結果が最も大きかった値を返します。

アトリビュート: index をつけると、最も大きな値が最初に見つかったインデクスを返します。アトリビュート: last index では、最も大きな値が最後に見つかったインデクスを返します。

アトリビュート: indices をつけると、最も大きな値が複数あった場合、それらすべてのインデクス値をリストにして返します。

list#min():[index,last_index,indices] / iterator#min():[index,last_index,indices] アトリビュートを何もつけずに実行したとき、リストまたはイテレータの要素のうち、大小比較をした結果が最も小さかった値を返します。

アトリビュート: index をつけると、最も小さな値が最初に見つかったインデクスを返します。アトリビュート: last index では、最も小さな値が最後に見つかったインデクスを返します。

アトリビュート: indices をつけると、最も小さな値が複数あった場合、それらすべてのインデクス値をリストにして返します。

list#nilto(replace) / iterator#nilto(replace)
リストまたはイテレータの要素が nil のとき、指定した値に変換します。

list#offset(n:number):map {block?} / iterator#offset(n:number) {block?} リストまたはイテレータの先頭から指定の数だけ除外した後の要素を返すイテレータを生成します。

list#or() / iterator#or()

要素間をオペレータ "|" で演算した結果を返します。

list#pack(format:string) / iterator#pack(format:string) {block?}
引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、リストまたはイテレータの要素を埋め込んだバイナリデー

タを binary 型として返します。フォーマットの詳細は pack 関数の説明を参照してください。

list#permutation(n?:number) {block?}

リストから、重複しない n 個のデータの順列組み合わせをリストにして返すイテレータを生成します。イテレータの要素数は、リストのデータ数を m 個としたとき mPn になります。

block をつけると、順列組み合わせのリストごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |elements:list, idx:number| で、elements:list, idx:number| で、elemen

list#pingpong(n?:number):[sticky,sticky_l,sticky_r] {block?} /

iterator#pingpong(n?:number):[sticky,sticky_l,sticky_r] {block?}

リストまたはイテレータの要素を順に走査し、最後に到達したら逆向きに走査、再び最初に戻ったら順に走査を繰り返すイテレータを生成します。

引数 n に走査結果で得られる要素の数を指定します。この引数を省略すると、無限に走査をくりかえす無限イテレータになります。アトリビュート: $sticky_1$, $sticky_1$ は先頭または終端で折り返しをするときに要素を 2 度繰り返すか否かを指定します。: $sticky_1$ が先頭要素、: $sticky_1$ が先頭要素、: $sticky_1$ が先頭要素、: $sticky_1$ が先頭要素、: $sticky_1$ が発端要素、: $sticky_1$ が一端の要素に対する繰り返し指定になります。

iterator#print(stream?:stream:w)

要素の値を文字列にして stream に出力します。 stream を省略した場合、標準出力に出力します。

list#printf(format:string, stream?:stream:w):void /

iterator#printf(format:string, stream?:stream:w)

要素の値をprintfのフォーマットに従って文字列にし、streamに出力します。streamを省略した場合、標準出力に出力します。

iterator#println(stream?:stream:w)

要素の値と改行を stream に出力します。

list#rank(directive?):[stable] / iterator#rank(directive?) {block?}

要素の順番を並べ替えたとき、各要素が位置するインデクス番号を返すイテレータを生成します。

並べ替えの順序はデフォルトで昇順ですが、引数 directive にシンボルまたは関数を指定することで順序を指示することができます。directive に、シンボル `ascend を指定すると昇順、シンボル `descend を指定すると降順になります。

directive に関数を渡す場合、この関数は二つの引数をとり、-1, 0, +1 のいずれかの整数値を返すものである必要があります。今、関数の一般式が f(a, b) であるとすると、以下のような値を返すようにします。

昇順: a < b のとき -1、a == b のとき 0、a > b のとき +1

降順: a > b のとき +1、a == b のとき 0、a < b のとき +1

アトリビュート: stable をつけると、ステーブルソートになります。大小比較が等しい要素が複数あったとき、 それらの順序がソート前と同じである保障が得られます。

list#reduce(accum) {block} / iterator#reduce(accum) {block}

要素に対し畳み込み操作を行います。関数を実行すると、リストまたはイテレータから要素をひとつ受取り、 この値 value と累積結果 accum の値を | value, accum | というブロックパラメータの形式でブロックに 渡します。ブロックの評価結果を新たな accum とし、以下同じ操作を要素ごとに繰り返します。

- list#replace(value, replace) / iterator#replace(value, replace) 要素が value に等しいとき、replace に置き換えるイテレータを生成します。
- list#reverse() {block?} / iterator#reverse() {block?} 要素列を逆から走査するイテレータを生成します。
- list#round(n?:number) {block?} / iterator#round(n?:number) {block?} リストまたはイテレータの要素を順に走査し、最後に到達したら再び最初に戻るイテレータを生成します。 引数 n に走査結果で得られる要素の数を指定します。この引数を省略すると、無限に走査をくりかえす無限イテレータになります。
- list#runlength() {block?} / iterator#runlength() {block?} リストまたはイテレータの要素を順に走査し、連続した数とその値をペアにしたものを要素に返すイテレータを生成します。
- list#shift():[raise]

リストから最初の要素をとりのぞき、その値を返します。

リストが空の時、デフォルトでは何もせず nil を返します。アトリビュート: raise をつけると空のリストにたいしてこのメソッドを実行するとエラーを発生させます。

list#shuffle():reduce

リスト要素の順番を乱数で入れ替えた結果をリストにして返します。

list#since(criteria) {block?} / iterator#since(criteria) {block?} リストまたはイテレータから、条件に合致した時点からの要素を抽出するイテレータを生成します。 criteria には関数またはイテレータを指定できます。

関数は、一つの引数をとり boolean 値を返すものを指定します。since 関数はリストまたはイテレータの要素をひとつずつ関数に渡し、その戻り値が true になった時点で抽出を開始します。

criteria にイテレータを指定すると、since 関数は抽出対象のリストまたはイテレータと同時に criteria のイテレータを走査し、これが true 値になった時点で抽出を開始します。

- list#skip(n:number):map {block?} / iterator#skip(n:number) {block?} 指定数だけ要素を除外しながら要素列を走査するイテレータを返します。引数 n に除外する要素数を指定します。
- list#skipnil() {block?} / iterator#skipnil() {block?} nil 要素をとりのぞくイテレータを生成します。
- list#sort(directive?, keys[]?):[stable] {block?} /
 iterator#sort(directive?, keys[]?):[stable] {block?}

要素の順番を並べ替えた結果をイテレータで返します。リストで結果を得る場合はアトリビュート:listを指定します。

並べ替えの順序はデフォルトで昇順ですが、引数 directive にシンボルまたは関数を指定することで順序を指示することができます。directive に、シンボル `ascend を指定すると昇順、シンボル `descend を指定すると降順になります。

directive に関数を渡す場合、この関数は二つの引数をとり、-1, 0, +1 のいずれかの整数値を返すものである必要があります。今、関数の一般式が f(a, b) であるとすると、以下のような値を返すようにします。

昇順: a < b のとき -1、a == b のとき 0、a > b のとき +1

降順: a > b のとき +1、a == b のとき 0、a < b のとき +1

sort メソッドは、デフォルトではリストの要素そのものの大小で並び替えを行いますが、引数 keys にリストを渡すと、これをキーとしてソート処理をします。 keys の要素数はリストの要素数と同じでなければいけません。

アトリビュート: stable をつけると、ステーブルソートになります。大小比較が等しい要素が複数あったとき、 それらの順序がソート前と同じである保障が得られます。

list#stddev() / iterator#stddev()

要素から標準偏差を算出し、結果を返します。

list#sum() / iterator#sum()

すべての要素を加算した結果を返します。

list#tail(n:number):map {block?} / iterator#tail(n:number) {block?} リストまたはイテレータの最後から指定の数の要素だけ返すイテレータを生成します。

list#variance() / iterator#variance()

要素から分散値を算出し、結果を返します。

list#while (criteria) {block?}

リストまたはイテレータから、条件に合致している間の要素を抽出するイテレータを生成します。 criteria には関数またはイテレータを指定できます。

関数は、一つの引数をとり boolean 値を返すものを指定します。while 関数はリストまたはイテレータの要素をひとつずつ関数に渡し、その戻り値が true の間だけ要素を抽出します。false になったら処理を終了します。

criteria にイテレータを指定すると、while 関数は抽出対象のリストまたはイテレータと同時に criteria のイテレータを走査し、これが true 値の間だけ要素を抽出します。false になったら処理を 終了します。

5.19. matrix クラス

5.19.1. 概要

行列を扱うクラスです。

5.19.2. インスタンスの生成

matrix(nrows:number, ncols:number, value?)

指定のサイズをもつ matirx 型インスタンスを生成します。引数 nrows に行数、ncols に桁数を指定します。引数 value に要素の値を指定します。value を省略すると、要素の値は nil になります。

@@{block}

block の内容を要素にした matrix インスタンスを生成します。ブロックの内容は値を以下のように並べたものになります。

スクリプト一般式	生成されるマトリクス
@@{{a11, a12, a13,}, {a21, a22, a23,},}	all al2 al3 a21 a22 a23 :
@@{a11, a21, a31,}	a11 a21 :
@@{{a11, a12, a13,}}	[a11 a12 a13]

5.19.3. インデクスによる要素操作

数学表記では行と列のインデクスは 1 から始まりますが、matrix インスタンスにおけるインデクスの開始は 0 になります。

matrix インスタンスを m としたとき、row 行 col 列の要素は m[row][col]と表すことができます。

5.19.4. **クラスメソッド**

matrix.identity(n:number):static:map {block?}

指定の大きさの単位行列を生成します。

matrix.rotation(angle:number, tx?:number, ty?:number)

:static:map:[deq] {block?}

平面に対する回転行列を返します。回転の方向は反時計まわりです。引数 angle の単位はラジアンですが、アトリビュート: deg をつけると degree 値で指定することができます。引数 tx, ty を指定すると、平行移動の成分を含めた行列を返します。

matrix.rotation_x(angle:number, tx?:number, ty?:number, tz?:number)

:static:map:[deq] {block?}

三次元空間で、x 軸を中心にした回転行列を返します。回転の方向は y 軸を z 軸に向ける方向です。引数 angle の単位はラジアンですが、アトリビュート: deg をつけると degree 値で指定することができます。引数 tx, ty, tz を指定すると、平行移動の成分を含めた行列を返します。

matrix.rotation y(angle:number, tx?:number, ty?:number, tz?:number)

:static:map:[deg] {block?}

三次元空間で、y軸を中心にした回転行列を返します。回転の方向はz軸をx軸に向ける方向です。引数 angle の単位はラジアンですが、アトリビュート: degをつけると degree 値で指定することができます。引数 tx, ty, tz を指定すると、平行移動の成分を含めた行列を返します。

matrix.rotation z(angle:number, tx?:number, ty?:number, tz?:number)

:static:map:[deg] {block?}

三次元空間で、z 軸を中心にした回転行列を返します。回転の方向はx 軸をy 軸に向ける方向です。引数 angle の単位はラジアンですが、アトリビュート: degをつけると degree 値で指定することができます。引数 tx, ty, tz を指定すると、平行移動の成分を含めた行列を返します。

5.19.5. インスタンスメソッド

matrix#col(col:number):map

指定の列の要素をリストにして返します。

matrix#colsize()

マトリクスの列の数を返します。

matrix#each():[transpose]

マトリクスの要素をひとつずつとりだすイテレータを生成します。

デフォルトでは、先頭の行から順に左から右へ横方向に要素をとりだします。 つまり、2 行 3 列のマトリクス m があったとき、each メソッドが返す要素は m_{11} , m_{12} , m_{13} , m_{21} , m_{22} , m_{23} となります。

アトリビュート: transpose をつけると、左端の列から順に上から下へ縦方向に要素を取り出します。同じく2行3列のマトリクスmを考えると、each メソッドが返す要素は m_{11} , m_{21} , m_{12} , m_{22} , m_{13} , m_{23} となります。

matrix#eachcol()

列要素をリストにして返すイテレータを生成します。

matrix#eachrow()

行要素をリストにして返すイテレータを生成します。

matrix#invert()

逆行列を計算し、結果を返します。

matrix#issquare()

正方行列のとき true、それ以外は false を返します。

matrix#roundoff(threshold:number => 1e-10)

指定した値ですべての要素を丸めます。

matrix#row(row:number):map

指定の行の要素をリストにして返します。

matrix#rowsize()

マトリクスの行の数を返します。

matrix#set(value)

すべての要素を value で置き換えます。

matrix#setcol(col:number, value)

指定の列の要素を value で置き換えます。

matrix#setrow(row:number, value)

指定の行の要素を value で置き換えます。

matrix#submat(row:number, col:number, nrows:number, ncols:number):map 部分行列を返します。

matrix#tolist():[transpose]

マトリクスを二次元のリストにして返します。アトリビュート: transpose をつけると、転置した結果を二次元リストに変換します。

matrix#transpose()

転置行列を返します。

5.20. operator **クラス**

5.20.1. 概要

演算子を扱うクラスです。

5.20.2. インスタンスの生成

operator(op:symbol):map {block?}

オペレータシンボルに対応する operator インスタンスを返します。

5.20.3. インスタンスメソッド

operator#assign(type_l:expr, type_r?:expr):map:void {block}

オペレータに処理を登録します。

左辺の型を type_1、右辺の型を type_r に指定すると、二項演算子の処理として block の内容を登録します。ブロックパラメータの形式は |value_1, value_r|で、value_1 に左辺の値、value_r に右辺の値が渡されます。

変数 type_1 のみ指定した場合は単項演算子の処理として block の内容を登録します。このときのブロックパラメータの形式は |value| です。

以下の例は、二項演算子 "-" の左辺および右辺に string 型の値が指定されたときの処理を登録します。

```
スクリプト
operator(`-).assign(`string, `string) {|str, strSub|
str.replace(strSub, '')
}
```

operator#entries(type?:symbol)

オペレータで処理できる型の一覧を取得します。

引数を省略するか、引数 type に`binary を指定すると、operator インスタンスに二項演算子としてアサインされている型シンボルのペアのリストを返します。引数 type に`unary を指定すると、単項演算子としてアサインされている型シンボルのリストを返します。

5.21. palette **クラス**

5.21.1. 概要

色のパレットを扱うクラスです。

5.21.2. インスタンスの生成

palette(type)

palette 型インスタンスを生成します。

引数 type に数値を指定すると、その数だけのエントリを持ったパレットを生成します。

引数 type に以下のいずれかのシンボルを指定し、既存のエントリを持ったパレットを生成することもできます。

`basic 16個の基本色エントリを持つパレット

`win256 Windows の 256 色パレット

 $\dot{}$ websafe Web-safe な 216 色を持つパレット。 インデクス 216 から 255 までは黒になります。

5.21.3. インスタンスメソッド

palette#each() {block?}

パレット中の色データを color 型で返すイテレータを生成します。

block をつけると、色データごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |color:color,idx:number| で、color:color,idx:number| で、color:color:color,idx:number| で、color:col

palette#nearest(color:color):map:[index]

パレットのエントリ中、引数で指定した色に最も近い色データを返します。アトリビュート: index をつけると、エントリ中のインデクス番号を返します。

palette#shrink():reduce:[align]

パレットの未使用エントリを削除して、エントリの格納に必要なサイズに変更します。アトリビュート:alignを指定すると、エントリの格納に必要な最小の2のべき乗のサイズにします。

palette#updateby(image_or_palette):reduce:[shrink,align]

イメージまたは他のパレットでから取得した色データで、パレットのエントリを更新します。パレットのエントリ

サイズを超える数の色データがあった場合、超えた分は無視されます。アトリビュート:shrink をつけると、更新後に未使用エントリを削除して、エントリの格納に必要なサイズに変更します。このとき、アトリビュート:align も指定すると、エントリの格納に必要な最小の2のべき乗のサイズにします。

5.22. pointer **クラス**

5.22.1. 概要

pointer クラスは、binary インスタンス内の指定位置にあるデータにアクセスするためのクラスです。

5.22.2. インスタンスの生成

binary#pointer メソッドで生成します。

5.22.3. インスタンスメソッド

pointer#forward(distance:number):reduce

オフセットを指定数だけ進めます。

pointer#reset()

オフセットを0にします。

pointer#pack(format:string, values+):reduce:[stay]

引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、value の内容をpointer が現在指している binary 内に埋め込みます。format 内に記述する指定子は binary.pack を参照ください。

pointer のオフセットは抽出したデータ数だけ進みます。アトリビュート: stay を指定すると、現在の位置にとどまります。

pointer#unpack(format:string, values*:number):[nil,stay]

引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、pointer が現在指している binary 内のバイナリデータから数値や文字列を抽出し、その結果をリストで返します。指定した位置がバイナリデータの範囲外になるとエラーになりますが、アトリビュート:nil をつけると範囲外では nil を返すようになります。

format 中に記述する指定子についてはbinary#unpack()を参照ください。

pointer のオフセットは抽出したデータ数だけ進みます。アトリビュート: stay を指定すると、現在の位置にとどまります。

pointer#unpacks(format:string, values*:number)

引数 fomat で指定したフォーマットに基づいて、バイナリデータから数値や文字列を抽出するイテレータを返します。引数 format の内容は pointer#unpack と同じです。

block をつけると、データを抽出するごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |elems[], idx:number| で、elemsに抽出結果、idxに0から始まるインデクス番号が入ります。

5.23. semaphore クラス

5.23.1. 概要

セマフォを扱うクラスです。

5.23.2. インスタンスの生成

semaphore()

semaphore型インスタンスを生成します。

5.23.3. インスタンスメソッド

semaphore#release()

セマフォの所有権を解放します。semaphore#wait と対にして使用します。

semaphore#session() {block}

セマフォの所有権を取得してblockを評価し、評価後に所有権を解放します。これは semaphore #wait と semaphore #release をブロックの入り口と出口で実行したのと同じです。

semaphore#wait()

セマフォが解放されるのを待ち、解放されたら所有権を取得します。semaphore#release と対にして使用します。

5.24. stream クラス

5.24.1. 概要

ストリームデータを扱うクラスです。

5.24.2. インスタンスの生成

stream(name:string, mode?:string, codec?:codec):map {block?}
open(name:string, mode?:string, codec?:codec):map {block?}

引数 name で指定したパス名のストリームをオープンします。 引数 mode にはストリームのアクセス方法を以下の文字で指定します。

r	読み込みモード
W	書き込みモード
а	追加書き込みモード

引数 mode を省略し、パス名の先頭に ">" をつけると、書き込みモードでストリームをオープンします。 引数 codec は、ストリームを文字列として読み書きするときのコーデックを指定します。この指定は、ストリ ームをバイナリデータとして扱うメソッドや関数には影響しません。

5.24.3. インスタンスメソッド

stream#close()

ストリームをクローズします。

ストリームインスタンスは消滅するときに自動的にクローズ処理を行いますが、close メソッドをそれを明示的に行います。

stream#compare(stream:stream:r):map

ストリームの内容をバイトごとに比較します。要素の数もデータ内容も同じ場合 true を返します。それ以外は false を返します。

stream#copyfrom(src:stream:r, bytesunit:number => 65536):map:reduce {block?}

入力用ストリーム srcからストリームインスタンスにデータをコピーします。コピー処理はデフォルトで 65536 バイト単位で行われますが、引数 bytesunit でこれを変更することができます。

block を指定すると、コピー単位ごとにブロックパラメータを|buff:binary| という形式でブロックに渡して評価します。buff は入力用ストリームから入力したデータが入り、評価結果が binary 型の値であればそれを出力用ストリームに出力します。それ以外の型の場合はもとのデータを出力します。

stream#copyto(dst:stream:w, bytesunit:number => 65536):map:reduce {block?}

ストリームインスタンスから出力用ストリームdstにデータをコピーします。コピー処理はデフォルトで 65536 バイト単位で行われますが、引数 bytesunit でこれを変更することができます。

block を指定すると、コピー単位ごとにブロックパラメータを|buff:binary| という形式でブロックに渡して評価します。buff は入力用ストリームから入力したデータが入り、評価結果が binary 型の値であればそれを出力用ストリームに出力します。それ以外の型の場合はもとのデータを出力します。

stream#delcr(flag?:boolean):reduce

引数なしで実行するか、flagにtrueを指定すると、テキストデータを読み込む際に改行コードをCR-LFからLFに変換します。

stream#addcr(flag?:boolean):reduce

引数なしで実行するか、flagにtrueを指定すると、テキストデータを出力する際に改行コードをLF から CR-LF に変換します。

stream#flush():void

ストリームへの出力内容をフラッシュします。

stream#peek(len?:number)

ストリームからデータを 1en バイトだけ先読みします。シーク位置は変化しません。

stream#print(values*):map:void

引数に指定した値の内容を文字列にしてストリームに出力します。

stream#printf(format:string, values*):map:void printfのフォーマットに基づいてストリームに出力します。

stream#println(values*):map:void

引数に指定した値の内容を文字列にしてストリームに出力します。最後に改行コードをストリームに出力します。

stream#read(len?:number)

ストリームからデータを 1en バイトだけ読み込みます。シーク位置も 1en だけ先に進みます。

stream#readline():[chop]

入力用ストリーム streamからテキストを一行分読み込み、文字列にして返します。デフォルトでは、改行記号まで含めた文字列を返しますが、アトリビュート: chop をつけると、改行記号を削除します。ファイルの末尾に到達した場合は nil を返します。

stream#readlines(nlines?:number):[chop] {block?}

入力用ストリーム stream からテキストを読み込み、行ごとに分割した文字列を返すイテレータを生成します。デフォルトでは、改行記号まで含めた文字列を返しますが、アトリビュート: chop をつけると、改行記号を削除します。

block をつけると、行ごとにその内容を評価します。ブロックパラメータの形式は |line:string, idx:number| で、lineに行ごとの文字列、idxに 0 から始まるインデクス番号が入ります。

stream#readtext()

ストリームからテキストをすべて読み取り、文字列にして返します。

stream#readchar()

ストリームから一文字分のデータを読み取り、文字列にして返します。ファイルの末尾に到達した場合は nil を返します。

stream#seek(offset:number, origin?:symbol):reduce

ストリームのシーク位置を先頭から offset の位置に動かします。origin に`cur を設定すると、現在のシーク位置に offset だけ足した位置に移動します。このとき、offset にはマイナスの値を設定することができます。

stream#setencoding(encoding:string, dos flag?:boolean)

ストリームのエンコーディングを指定します。引数 encoding は、ストリームを文字列として読み書きするときの文字エンコーディング名です。dos flagを true に設定すると、改行コードを以下のように変換します。

入力時: CR-LF を LF に変換

出力時: LF をCR-LF に変換

stream#tell()

ストリームのシーク位置を返します。

stream#write(buff:binary):reduce

ストリームにバイナリデータを書き込みます。

5.24.4. インスタンスプロパティ

すべての stream インスタンスは以下のプロパティを持ちます。

プロパティ	型	R/W	内容
stat	any	R	ストリームの属性を返すインスタンスです。ストリームの種類によって
			内容が異なります。
name	string	R	ストリームの名前を返します

identifier	string	R	ストリームが属する集合の中で、このストリームを一意に識別できる文
			字列を返します。例えば、ファイルシステムのストリームならば絶対パ
			ス名に、zipファイル中ならばアーカイブに記録した名前になります。
readable	boolean	R	読みこみ可能なストリームならば true を返します
writable	boolean	R	書きこみ可能なストリームならば true を返します
codec	codec	R	ストリームに登録されているコーデックオブジェクトを返します。

5.25. template クラス

5.25.1. 概要

テンプレートを扱うクラスです。

5.25.2. インスタンスの生成

template(src?:stream:r):map:[lasteol,noindent] {block?}

入力用ストリーム src からテンプレート文字列を読み込み、template インスタンスを生成します。引数 src を省略すると、空の template インスタンスを生成します。

スクリプトの評価結果で、最後に現れた改行コードはとりのぞかれます。アトリビュート: lasteol をつけると、この改行コードをとりのぞかずに出力に含めます。

スクリプトの出力結果が複数行にわたるとき、スクリプトの開始を表す "\${" の行の先頭にある空白文字が各行に追加されます。アトリビュート:noindent をつけると、このインデンテーション機能を無効にします。

5.25.3. インスタンスメソッド

template#render(dst?:stream:w)

テンプレートの評価結果を出力用ストリーム dst に出力します。引数 dst を省略すると、結果は string型のデータで戻り値として返されます。

5.26. timedelta クラス

5.26.1. 概要

時刻間の差を表すクラスです。以下の状況で使用します。

- datetime インスタンス間の差を計算したときの結果
- datetime インスタンスの時刻を増減させるときの差分

5.26.2. インスタンスの生成

timedelta(days:number => 0, secs:number => 0, usecs:number => 0) 指定した値を持つ timedelta インスタンスを生成します。

5.26.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	内容
days	number	R/W	0からの数値で日数を表します。
secs	number	R/W	0 から 86399 (60×60×24 - 1) までの数値で秒を表します。
usecs	number	R/W	0 から 999999 までの数値でマイクロ秒を表します。

5.27. uri クラス

5.27.1. 概要

URI 文字列を扱うクラスです。

5.27.2. インスタンスの生成

uri(str?:string):map {block?}

文字列をURI として解釈した結果を持つuri インスタンスを返します。

6. argopt モジュール

6.1. 概要

引数オプションを扱うモジュールです。使用するには import 関数を使って argopt モジュールをインポートします。

6.2. argopt.Parser クラス

6.2.1. インスタンスの生成

argopt.Parser() {block?}

6.2.2. インスタンスメソッド

argopt.Parser#parse(argv[]:string)

argopt.Parser#addFlag(longName:string, shortName?:string, help?:string)

7. bmp モジュール

7.1. 概要

イメージデータを Microsoft BMP イメージフォーマットで読み書きするモジュールです。使用するには import 関数を使って bmp モジュールをインポートします。

7.2. ストリーム処理

image 関数で指定したストリームが以下のいずれかの条件に合致すると、それを BMP イメージデータと認識して読み込み、image インスタンスを生成します。

- ストリームの識別子にサフィックス .bmp がついている (大小文字の区別はなし)
- ストリームの先頭が "BM" で始まっている

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、BMP イメージデータを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .bmp がついている (大小文字の区別はなし)

7.3. image **クラスの拡張**

7.3.1. インスタンスメソッド

image#bmpread(stream:stream:r):reduce

指定のストリームから BMP フォーマットのデータを読み込んで image インスタンスにデータを展開します。

image#bmpwrite(stream:stream:w):reduce

image インスタンスのデータを BMP フォーマットにして指定のストリームに書き込みます。

8. bzip2 モジュール

8.1. 概要

bzip2形式によるストリームデータの圧縮および展開を行います。使用するには import 関数を使って bzip2 モジュールをインポートします。

以下のURLで公開されているlibbz2ライブラリを内部で使用しています。

http://www.bzip.org/

8.2. モジュール関数

bzip2.reader(stream:stream:r) {block?}

ストリーム stream から bzip2 形式で圧縮されたデータ列を読み込み、展開した結果を返すストリームを返します。

bzip2.writer(stream:stream:w) {block?}

ストリーム stream に bzip2 形式で圧縮したデータ列を書きこむストリームを返します。

8.3. stream クラスの拡張

8.3.1. インスタンスメソッド

stream#bzip2reader() {block?}

ストリーム stream から bzip2 形式で圧縮されたデータ列を読み込み、展開した結果を返すストリームを返します。

stream#bzip2writer() {block?}

ストリーム stream に bzip2 形式で圧縮したデータ列を書きこむストリームを返します。

9. cairo **モジュール**

「Gura モジュールリファレンス – cairo」を参照ください。

10. conio モジュール

10.1. 概要

コンソール操作をまとめたモジュールです。組み込みモジュールなので、インポートをしないで使用することができます。

10.2. モジュール関数

conio.clear(region?:symbol):void

コンソール画面の内容を消去します。

conio.getwinsize()

コンソールサイズを [width, height] というリスト形式で返します。

conio.moveto(x:number, y:number):map:void {block?}

カーソルを指定の位置に移動します。ブロックを指定すると、カーソル移動後にそのブロックの内容を評価し、その後に元のカーソル位置を復元します。

conio.setcolor(fg:symbol:nil, bg?:symbol):map:void {block?}

テキストの前景色と背景色をシンボルで指定します。ブロックを指定すると、色を変えた後にそのブロック の内容を評価し、その後に元のテキスト色を復元します。指定できるシンボルは以下のとおりです。

`black	
`blue	
`green	
`aqua /	`cyan
`red	
`purple	/ `magenta
`yellow	
`white	

`gray
`bright_blue
`bright_green
`bright_aqua / `bright_cyan
`bright_red
`bright_purple / `bright_magenta
`bright_yellow
`bright_white

conio.waitkey():[raise]

コンソールでキーが押されるのを待ち、入力された文字コードを返します。アトリビュート raise を指定すると、Ctrl+C が入力されたときに Terminate シグナルを発行し、インタープリターの動作を中断します。 特殊キーの文字コードとして、以下の値が定義されています。

K_BACKSPACE, K_DELETE, K_DOWN, K_END, K_ESCAPE
K_HOME, K_INSERT, K_LEFT, K_PAGEDOWN, K_PAGEUP
K RETURN, K RIGHT, K SPACE, K TAB, K UP

11. csv モジュール

11.1. 概要

CSV ファイルの読み書きを行います。使用するには import 関数を使って csv モジュールをインポートします。

実装は RFC4180 で記述される仕様に基づきます。

11.2. モジュール関数

csv.parse(str:string):map

CSV 形式のテキストを含んだ文字列を受け取り、カンマで区切られたフィールドの値を要素に持つリストを一行ずつ返すイテレータを生成します。

csv.read(stream:stream:r) {block?}

ストリームから CSV 形式のテキストデータを読み込み、カンマで区切られたフィールドの値を要素に持つリストを一行ずつ返すイテレータを生成します。

csv.writer(stream:stream:w, format?:string) {block?}

ストリームに CSV 形式のテキストデータ出力する csv.writer インスタンスを生成します。

引数 format には数値データのフォーマット文字列を指定します。省略すると '%g' が使用されます。

11.3. csv.writer **75**

11.3.1. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
format	string	R/W	フォーマット文字列。書きかえることで数値データの出力フォー
			マットを途中で変えることができます。

11.3.2. インスタンスメソッド

csv.writer#write(fields+) {block?}

引数 fields に与えた値をカンマでつなげ、CSV 形式のテキストにして出力します。

11.4. stream **クラスの**拡張

11.4.1. インスタンスメソッド

stream#csvread() {block?}

ストリームから CSV 形式のテキストデータを読み込み、カンマで区切られたフィールドの値を要素に持つリストを一行ずつ返すイテレータを生成します。

stream#csvwriter(format?:string) {block?}

ストリームに CSV 形式のテキストデータ出力する csv.writer インスタンスを生成します。

引数 format には数値データのフォーマット文字列を指定します。省略すると '%g' が使用されます。

12. curl モジュール

12.1. 概要

さまざまなプロトコルを用いてデータ転送を行う cURL ライブラリを操作するモジュールです。使用するには import 関数を使って curl モジュールをインポートします。

以下のURLで公開されているライブラリを内部で使用しています。

http://curl.haxx.se/ libcurl

12.2. パス名の拡張

パス名が "http:"、"https:"、"ftp:"、"ftps:"、"sftp:" のいずれかで始まっていると、curl モジュールによってパスやストリームを処理します。

この拡張により、以下の操作が可能になります。

- open 関数で HTTP プロトコルや FTP プロトコルを通じたファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、HTTPやFTPのファイルパス名を指定できるようになります。

12.3. モジュール関数

curl.version() cURLのバージョン文字列を返します。

12.4. curl.easy handle クラス

12.4.1. インスタンスの生成

curl.easy_init() {block?}
cURLのハンドルを内包した curl.easy handle インスタンスを生成します。

12.4.2. インスタンスメソッド

curl.easy_handle#escape(string:string):void

curl.easy handle#getinfo(info:number)

curl.easy handle#pause(bitmask:number):void

curl.easy_handle#perform(stream?:stream:w):void

curl.easy handle#recv(buflen:number)

```
curl.easy_handle#reset():void

curl.easy_handle#send(buffer:binary)

curl.easy_handle#setopt(option:number, arg):void

curl.easy_handle#unescape(string:string):void
```

13. freetype モジュール

13.1. 概要

image インスタンスにテキストの描画を行います。使用するには import 関数を使って freetype モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている FreeType ライブラリを内部で使用しています。

http://www.freetype.org/

13.2. 関数

freetype.sysfontpath(name?:string):map

システムフォントが格納されているディレクトリパスを返します。引数 name を指定すると、ディレクトリとその名前を結合した結果を返します。

13.3. freetype.font クラス

13.3.1. 概要

freetype.font クラスは、回転や斜体表示などの修飾に必要な属性値を管理し、フォントの描画処理を行います。

13.3.2. インスタンスの生成

freetype.font(face:freetype.Face):map freetype.Face クラスのインスタンスを持った feetype.font インスタンスを生成します。

13.3.3. インスタンスメソッド

freetype.font#calcbbox(x:number, y:number, str:string):map
 t.b.d

freetype.font#calcsize(str:string):map

文字列 str を描画したときのサイズを[width, height]という形式で返します。

freetype.font#cleardeco():reduce

修飾要素をすべてとりのぞきます。

freetype.font#drawtext(image:image, x:number, y:number, str:string):map:reduce image インスタンスの指定の位置に文字列を描画します。

13.3.4. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
mode	symbol	R/W	`blend を指定すると、フォントをイメージ上に描画する

			際、諧調情報をもとにイメージの元の色とブレンド処理を
			行います。`alpha を指定すると、諧調情報はアルファ
			値としてイメージに書き込まれます。
color	color	R/W	描画時の色を指定します。
width	number	R/W	フォントの幅をピクセル値で指定します。
height	number	R/W	フォントの高さをピクセル値で指定します。
slant	number	R/W	フォントの傾きを設定します。0 のとき傾きなし、1 で文字
			を 45 度傾けます。
strength	number	R/W	フォントの太さを設定します。0 でノーマル、1 で約二倍、
			2で約三倍の太さになります。
rotate	number	R/W	文字列の左下を原点にして文字列を、degree 度だけ
			回転します。degree が正の値のとき反時計まわりに回
			転します。
face	freetype.Face	R/W	freetype.Face クラスのインスタンスを返します。

13.4. freetype.Face クラス

13.4.1. インスタンスの生成

freetype.Face(stream:stream, index:number => 0):map

指定のストリームからフォントデータを読み込み、index 番目のフォントをもとに feetype.Face インスタンスを生成します。

13.4.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
num_faces	number	R	
face_index	number	R	
family_name	string	R	
style_name	string	R	
bbox	list	R	
ascender	number	R	
descender	number	R	
height	number	R	
max_advance_width	number	R	
max_advance_height	number	R	
underline_position	number		
underline_thickness	number		
glyph	freetype.GlyphSlot		
size			
charmap			

13.4.3. インスタンスメソッド

```
freetype.Face#CheckTrueTypePatents()
   freetype.Face インスタンスに対して FT Face CheckTrueTypePatents 関数を実行します。
freetype.Face#Get Advance(glyph index:number, load flags:number)
   freetype.Face インスタンスに対して FT Get Advance 関数を実行します。
freetype.Face#Get Advances(glyph index start:number,
                                 count:number, load flags:number)
   freetype.Face インスタンスに対して FT Get Advances 関数を実行します。
freetype.Face#Get Glyph Name(glyph index:number)
   freetype.Face インスタンスに対して FT Get Glyph Name 関数を実行します。
freetype.Face#Get Postscript Name()
   freetype.Face インスタンスに対して FT Get Postscript Name 関数を実行します。
freetype.Face#Get Kerning()
   freetype.Face インスタンスに対して FT Get Kerning 関数を実行します。
freetype.Face#Load Char(char code:number, load flags:number)
   freetype.Face インスタンスに対して FT Load Char 関数を実行します。
freetype.Face#Load Glyph(glyph index:number, load flags:number)
   freetype.Face インスタンスに対して FT Load Glyph 関数を実行します。
freetype.Face#Set Charmap(charmap:freetype.CharMap):reduce
   freetype.Face インスタンスに対して FT Set Charmap 関数を実行します。
freetype. Face #Set Pixel Sizes (pixel width: number, pixel height: number): reduce
```

13.5. freetype.GlyphSlot クラス

13.5.1. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
advance	freetype.Vector	\mathbf{R}	
format	number	R	
bitmap	freetype.Bitmap		
bitmap_left	number		
bitmap_top	number		
outline	freetype.Outline		

freetype.Face インスタンスに対して FT Set Pixel Sizes 関数を実行します。

13.5.2. インスタンスメソッド

freetype.GlyphSlot#Get_Glyph()
freetype.Glyphインスタンスを返します。

freetype.GlyphSlot#Render(render_mode:number)
GlyphSlot 内のビットマップに対して描画処理を行います。

13.6. freetype.Outline クラス

freetype.Outline#Translate(xOffset:number, yOffset:number):reduce freetype.Outline インスタンスに対して FT_Outline_Translate 関数を実行します。

freetype.Outline#Transform(matrix:freetype.Matrix):reduce freetype.Outline インスタンスに対して FT Outline Transform 関数を実行します。

freetype.Outline#Embolden(strength:number):reduce freetype.Outline インスタンスに対してFT Outline Embolden 関数を実行します。

freetype.Outline#EmboldenXY():reduce freetype.Outline インスタンスに対して FT Outline EmboldenXY 関数を実行します。

freetype.Outline#Reverse():reduce freetype.Outline インスタンスに対して FT Outline Reverse 関数を実行します。

13.7. freetype.Glyph クラス

13.8. freetype.Matrix クラス

13.8.1. インスタンスの生成

freetype.Matrix(matrix:matrix):map {block?}

Gura の組み込みクラス matrix のインスタンスから freetype.Matrix インスタンスを生成します。もとのマトリクスは2行2列の正方行列でなければいけません。

13.8.2. インスタンスメソッド

freetype.Matrix#Multiply(matrix:freetype.Matrix):reduce freetype.Matrix インスタンスに別の行列をかけあわせます。

freetype.Matrix#Invert():reduce freetype.Matrix インスタンスを逆行列にします。

13.9. freetype.Vector クラス

13.9.1. インスタンスの生成

freetype.Vector(x:number, y:number):map {block?} feetype.Vectorインスタンスを生成します。

13.10. image **クラスの拡張**

13.10.1. インスタンスメソッド

image#drawtext(font:freetype.font, x:number, y:number, str:string):map:reduce イメージの指定の位置に文字列を描画します。

14. fs モジュール

14.1. 概要

ファイルシステムの操作をするモジュールです。組み込みモジュールなので、インポートをしないで使用することができます。

14.2. ストリームのオープン

open 関数でファイルシステム上のファイルをオープンできるようになります。 ストリームを受け取る引数に、ファイルシステム上のファイルパス名を指定できるようになります。

14.3. パスのサーチ

path.dir,path.walk,path.glob 関数で、ファイルシステム上のディレクトリパスをサーチできるようになります。

14.4. モジュール関数

fs.chdir(pathname:string) {block?}

カレントディレクトリを設定します。ブロックを指定した場合、カレントディレクトリを設定した後にブロックの 内容を評価し、元のディレクトリに戻ります。

fs.getcwd()

カレントディレクトリを取得します。

fs.mkdir(pathname:string):map:void:[tree]

ディレクトリを作成します。

デフォルトでは、引数 pathname のパス名が複数の階層にまたがっていて、途中のディレクトリが存在しないとエラーになります。

アトリビュート:tree をつけると、途中のディレクトリが存在しないときそれらのディレクトリも作成します。

fs.rmdir(pathname:string):map:void:[tree]

ディレクトリを削除します。

デフォルトでは、削除対象のディレクトリ内にファイルや子ディレクトリが存在しているとエラーになります。 アトリビュート:tree をつけると、削除対象のディレクトリに含まれるファイルや子ディレクトリもすべて削除します。

fs.remove(pathname:string):map:void

ファイルを削除します。

fs.rename(src:string, dst:string):map:void ファイルまたはディレクトリの名前を変更します。

fs.chmod(mode:number, pathname:string):void

ファイルの属性を数値で設定します。属性は数値のビット位置に対応しており、ビットを 1 に設定するとその属性が有効になります。ビット位置と属性の関係を以下に示します。

b8 b7 b6 所有者のリード、ライト、実行属性

b5 b4 b3 グループのリード、ライト、実行属性

b2 b1 b0 その他のユーザのリード、ライト、実行属性

fs.chmod(mode:string, pathname:string):void

ファイルの属性を文字列で設定します。受け付ける文字列のフォーマットを正規表現であらわすと以下のようになります。

[ugoa]*([-+=][rwx]+)+

最初に、属性を設定する対象を指定し、続けて設定方法と属性を指定します。

設定する対象				
u	所有者			
g	グループ			
0	その他のユーザ			
a	全てのユーザ			

設定方法				
_	属性をとりのぞく			
+	属性を加える			
=	属性を設定する			

	属性
r	リード属性
W	ライト属性
Х	実行属性

14.5. fs.stat クラス

14.5.1. インスタンスプロパティ

関数 open が返すストリームが fs モジュールのものであるとき、このストリームインスタンスは stat という名前 のプロパティを持っており、これは fs.stat 型のインスタンスです。このインスタンスは以下のプロパティを持ちます。

プロパティ	データ型	R/W	内容
pathname	string	R	dirname と filename をあわせたフルパス名
dirname	string	R	ディレクトリ名
filename	string	R	ファイル名
size	number	R	ファイルサイズのバイト数
uid	number	R	ユーザ ID
gid	number	R	グループ ID
atime	datetime	R	アクセス時刻
mtime	datetime	R	修正時刻
ctime	datetime	R	作成時刻
isdir	boolean	R	ディレクトリのとき true
ischr	boolean	R	キャラクタデバイスのとき true
isblk	boolean	R	キャラクタデバイスのとき true
isreg	boolean	R	通常ファイルのとき true
isfifo	boolean	R	FIFO のとき true

islnk	boolean	R	リンクファイルのとき true
issock	boolean	\mathbf{R}	ソケットのとき true

15. gif モジュール

15.1. 概要

イメージデータを GIF (Graphics Interchange Format) イメージフォーマットで読み書きするモジュールです。使用するには import 関数を使って gif モジュールをインポートします。

GIF89a の規格をサポートしており、アニメーション GIF を扱うことができます。 実装は、以下の URL の記述に基づきます。

http://www.w3.org/Graphics/GIF/spec-gif89a.txt

15.2. ストリームの読み書き

image 関数で指定したストリームが以下のいずれかの条件に合致すると、それを GIF イメージデータと認識して読み込み、image インスタンスを生成します。

- ストリームの識別子にサフィックス .gif がついている (大小文字の区別はなし)
- ストリームの先頭が "GIF87a" もしくは "GIF89a" で始まっている

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、GIF イメージデータを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .gif がついている (大小文字の区別はなし)

15.3. gif.content クラス

15.3.1. 概要

GIF ファイルは複数のイメージデータを格納できるフォーマットなので、単一の image インスタンスではファイル全体のデータ構造を処理することができません。gif.content クラスを使うと、複数のイメージデータを格納・参照したり、GIFフォーマットの詳細なパラメータの取得や設定ができるようになります。

15.3.2. GIF Data Stream の構造

gif.content クラスは以下の図に示す GIF Data Stream の構造を表します。オプショナルなブロックには 色がつけられています。

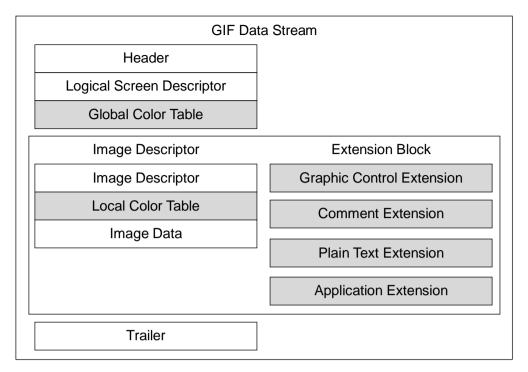


Image Descriptor と Extension Block は任意の数だけ GIF Data Stream に表れます。ただし、Graphic Control Extension は各 Image Descriptor の前に一つだけ置くことができます。

Image Data の内容は、image インスタンスのリストの形式で、gif.content 中に images という名前のプロパティとして格納されます。各 image インスタンスは Image Descriptor、Local Color Table および Graphic Control Extension の内容をプロパティとして持ちます。

Header、Logical Screen Descriptor、Comment Extension、Plain Text Extension および Application Extension の内容はそれぞれ gif.content 中に Header、LogicalScreenDescriptor、CommentExtension、PlainTextExtensionおよび ApplicationExtension という名前のプロパティとして格納されます。

15.3.3. 制限事項

GIF の仕様では、Comment Extension、Plain Text Extension および Application Extension を複数格納することができますが、gif.content インスタンスで扱えるのはそれぞれ一個ずつです。複数存在する場合、最後に表れたデータを gif.content インスタンスに格納します。

15.3.4. インスタンスの生成

gif.content(stream?:stream:r, format:symbol => `rgba) {block?} gif.content インスタンスを生成します。引数 stream を指定すると、そのストリームから GIF ファイル 形式のデータを読み込みます。引数 format は、内部に保持する image インスタンスのフォーマットを 指定します。

15.3.5. インスタンスメソッド

gif.content インスタンスにイメージデータを追加します。

gif.content#write(stream:stream:w):reduce

gif.content インスタンスの内容を GIF ファイル形式でストリームに書き込みます。

15.3.6. インスタンスプロパティ

gif.content インスタンスは、images というプロパティを持ち、これは image インスタンスのリストになっています。

また、gif.content インスタンスは GIF フォーマットの内部データを表す以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	定義
Header	gif.Header	R	required
LogicalScreenDescriptor	gif.LogicalScreenDescriptor	R	required
CommentExtension	gif.CommentExtension	R	optional
PlainTextExtension	gif.PlainTextExtension	R	optional
ApplicationExtension	gif.ApplicationExtension	R	optional

CommentExtension、PlainTextExtension および ApplicationExtension はオプショナルな情報で、GIFフォーマット中に存在しない場合、これらのプロパティは nil になります。

15.3.7. インスタンスプロパティの詳細

プロパティgif.content#Header はgif.Header クラスのインスタンスで、GIF フォーマット中の Header の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
Signature	binary	R	GIF データの先頭を表す "GIF" というデー
			タが入ります。
Version	binary	R	GIF のバージョンが入ります。"87a" か"89a"
			になります。

プロパティ gif.content#LogicalScreenDescriptor は gif.LogicalScreenDescriptor クラスのインスタンスで、GIF フォーマット中の Logical Screen Descriptor の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
LogicalScreenWidth	number	R	論理スクリーンにおけるイメージの幅をピクセル
			単位で表わします。
LogicalScreenHeight	number	R	論理スクリーンにおけるイメージの高さをピクセ
			ル単位で表わします。
GlobalColorTableFlag	boolean	R	Global Color Table を持っているとき true に
			なります。

ColorResolution	number	R	元のイメージが持っている色のビット数から 1を
			引いた数値が入ります。
SortFlag	boolean	R	Global Color Table のエントリが重要な色から
			順にソートされているとき true になります。
SizeOfGlobalColorTable	number	R	GlobalColorTableFlag が true のとき
			Global Color Table のバイト数を表します。
BackgroundColorIndex	number	R	Global Color Table 中の背景色のインデクス
			番号です。GlobalColorTableFlag が
			false のときは意味を持ちません。
BackgroundColor	color	R	Global Color Table 中の背景色をcolorイ
			ンスタンスで取得します。
			GlobalColorTableFlag が false のとき
			は nil が返ります。
PixelAspectRatio	number	R	元の画像の縦横比を表します。
			PixelAspectRatio が 0 のときは縦横比に
			関する情報はありません。それ以外のとき、縦
			横比は以下の式で表わされます。
			(PixelAspectRatio + 15) / 64

プロパティ gif.content#CommentExtension は gif.CommentExtension クラスのインスタンスで、GIF フォーマット中の Comment Extension の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
CommentData	binary	R	コメントデータ

プロパティgif.content#PlainTextExtension はgif.PlainTextExtension クラスのインスタンスで、GIF フォーマット中の Plain Text Extension の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
TextGridLeftPosition	number	R	テキストグリッドの左端の位置をピクセルで表
			わします
TextGridTopPosition	number	R	テキストグリッドの上端の位置をピクセルで表
			わします
TextGridWidth	number	R	テキストグリッドの幅をピクセルで表わします
TextGridHeight	number	R	テキストグリッドの高さをピクセルで表わしま
			す
CharacterCellWidth	number	R	グリッド内の各セルの幅をピクセルで表わし
			ます
CharacterCellHeight	number	R	グリッド内の各セルの高さをピクセルで表わし
			ます

TextForegroundColorIndex	number	R	テキスト前景色のGlobal Color Tableのイン
			デクス番号です。
TextBackgroundColorIndex	number	R	テキスト背景色の Global Color Table のイン
			デクス番号です。
PlainTextData	binary	R	テキストデータ

プロパティgif.content#ApplicationExtension は gif.ApplicationExtension クラスのインスタンスで、GIFフォーマット中の Application Extension の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
ApplicationIdentifier	binary	R	アプリケーションデータの識別子
AuthenticationCode	binary	R	ApplicationIdentifier を認証する 3
			バイトデータです
ApplicationData	binary	R	アプリケーションデータ

15.4. image クラスの拡張

15.4.1. インスタンスメソッド

gif モジュールをインポートすることで以下のメソッドが image クラスに追加されます。

image#gifread(stream:stream):reduce

指定のストリームからGIFフォーマットのデータを読み込んでimageインスタンスにデータを展開します。 複数のイメージがある場合は、最初のイメージを読み込みます。

image#gifwrite(stream:stream):reduce

image インスタンスのデータを GIF フォーマットにして指定のストリームに書き込みます。このメソッドでは、 複数のイメージを含む GIF ファイルは作成できません。

15.4.2. インスタンスプロパティ

GIFファイルから、関数 image を使って image インスタンスを生成したり、image #gifread を使って内容を更新すると、image インスタンス内に gif という名前のプロパティが追加されます。プロパティ gif は gif.imgprop クラスのインスタンスで、以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
GraphicControl	gif.GraphicControl	R	Graphic Control Extension
ImageDescriptor	gif.ImageDescriptor	R	Image Descriptor

15.4.3. インスタンスプロパティの詳細

image#gif.GraphicControl は gif.GraphicControl クラスのインスタンスで、GIF ファイル中、Image Descriptor に先行して表れた Graphic Control Extension の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
DisposalMethod	symbol	R	イメージを表示した後の処理を表します
			`none なにもしません
			`keep イメージを破棄しません
			`background 背景色に戻します
			`previous 前のイメージに戻します
UserInputFlag	boolean	\mathbf{R}	イメージ処理を続ける前にユーザ入力が期待されて
			いるか否かを表します
			false ユーザ入力なし
			true ユーザ入力あり
TransparentColorFlag	boolean	R	背景色を有効にするか否かを表します
			false 背景色なし
			true 背景色あり
DelayTime	number	R	0 でない場合、次のイメージを処理するまでの 1/100
			秒の遅延を表します。
TransparentColorIndex	number	R	背景色のインデクス値です。
			TransparentColorFlag が true のとき有効で
			す。

image#gif.ImageDescriptor は gif.ImageDescriptor クラスのインスタンスで、GIF フォーマット中の Image Descriptor の内容を表します。以下のプロパティを持っています。

プロパティ	データ型	R/W	内容
ImageLeftPosition	number	R	イメージの左端の位置をピクセルで表わします
ImageTopPosition	number	R	イメージの上端の位置をピクセルで表わします
ImageWidth	number	R	イメージの幅をピクセルで表わします
ImageHeight	number	R	イメージの高さをピクセルで表わします
LocalColorTableFlag	boolean	R	この値が true のときイメージは Local Color Table
			を持ちます
InterlaceFlag	boolean	R	true のとき、イメージがインターレースされているこ
			とを表します。
SortFlag	boolean	${ m R}$	Local Color Table のエントリが重要な色から順にソ
			ートされているとき true になります。
SizeOfLocalColorTable	number	R	LocalColorTableFlag が true のとき Local
			Color Table のバイト数を表します。

15.4.4. パレットの扱い

GIF データの読み込み時、Image Descriptor が Local Color Table を持っている場合、その内容をエントリ に持った palette インスタンスをイメージに登録します。Local Color Table が無い場合は Global Color Table の内容を入れた palette インスタンスを登録します。

GIF データを書き込む際、イメージが palette インスタンスを持っている場合はそのパレットを Global Color Table に書き込みます。 palette インスタンスがない場合は Web-safe な色を持つパレットを作成して使用します。

16. glu モジュール

「Gura モジュールリファレンス – opengl」を参照ください。

17. gurcbuild モジュール

17.1. 概要

コンポジットファイルを作成するモジュールです。使用するには import 関数を使って gurdbuild モジュールをインポートします。

以下はコンポジットファイル hoge.gurc を作成するスクリプトの例です。

```
import(gurcbuild)
gurcbuild.build(['hoge.gura', 'image1.png', 'image2.png'])
```

17.2. モジュール関数

qurcbuild.build(pathNames[]:string, dirName?:string)

コンポジットファイルに格納するファイルを pathNames に指定します。pathNames の最初のファイルはスクリプトファイルでなくてはいけません。最初のファイル名のサフィックスを、.gurc にリネームしたものが出力するコンポジットファイルの名前になります。

コンポジットファイルはカレントディレクトリに生成されます。出力ディレクトリを変えたいときは引数 dirName を設定します。

18. gzip モジュール

18.1. 概要

gzip 形式によるストリームデータの圧縮および展開を行います。使用するには import 関数を使って gzip モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている zlib ライブラリを内部で使用しています。

http://zlib.net/

18.2. モジュール変数

圧縮レベルを表す以下の数値が変数に定義されています。

変数	型	内容
NO_COMPRESSION	number	圧縮なし (0)
BEST_SPEED	number	最も速度効率が高い (1)
BEST_COMPRESSION	number	最も高い圧縮率 (9)
DEFAULT_COMPRESSION	number	デフォルト (-1)

18.3. モジュール関数

gzip.reader(stream:stream:r) {block?}

ストリーム stream から gzip 形式で圧縮されたデータ列を読み込み、展開した結果を返すストリームを返します。

gzip.writer(stream:stream:w, level?:number) {block?}

ストリーム streamに gzip 形式で圧縮したデータ列を書きこむストリームを返します。

引数 level に 0 から 9 まで数値で圧縮レベルを指定します。0 が圧縮なし、9 が最も圧縮率が高い設定になります。

18.4. stream **クラスの拡張**

18.4.1. インスタンスメソッド

stream#gzipreader()

ストリーム stream から gzip 形式で圧縮されたデータ列を読み込み、展開した結果を返すストリームを返します。

stream#gzipwriter(level?:number)

ストリーム streamに gzip 形式で圧縮したデータ列を書きこむストリームを返します。

引数 level に 0 から 9 まで数値で圧縮レベルを指定します。0 が圧縮なし、9 が最も圧縮率が高い設定になります。

19. hash モジュール

19.1. 概要

ハッシュ値を計算するモジュールです。使用するには import 関数を使って hash モジュールをインポートします。

ハッシュ値を計算するには、hash ストリームオブジェクトを生成した後 hash#write()または hash#update()でデータ列を入力し、最後にhash#digestプロパティまたはhash#hexdigestプロパティを参照して結果を得ます。

19.2. モジュール関数

hash.crc32(stream?:stream:r) {block?}

CRC32値を算出するストリームを作成して返します。引数 streamを指定すると、そのデータ内容を生成したストリームに書き込みます。

hash.md5(stream?:stream:r) {block?}

MD5 値を算出するストリームを作成して返します。引数 stream を指定すると、そのデータ内容を生成したストリームに書き込みます。

hash.sha1(stream?:stream:r) {block?}

SHA1 値を算出するストリームを作成して返します。引数 stream を指定すると、そのデータ内容を生成したストリームに書き込みます。

20. http モジュール

20.1. 概要

HTTPプロトコルのサーバとクライアント処理を提供するモジュールです。 実装は RFC2616 で定められる仕様に基づきます。 使用するには import 関数を使って http モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている zlib ライブラリを内部で使用しています。

http://zlib.net/

20.2. パス名の拡張

パス名が "http:" で始まっていると、http モジュールによってパスやストリームを処理します。

この拡張により、以下の操作が可能になります。

- open 関数で HTTP プロトコルを通じたファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、HTTPのファイルパス名を指定できるようになります。

20.3. モジュール変数

変数	型	内容
proxies	http.proxy[]	http.addproxy で追加した http.proxy インスタンスの リストです

20.4. モジュール関数

http.addproxy(addr:string, port:number,

userid?:string, password?:string) {criteria?}

引数 addr と port に HTTP プロキシサーバのアドレスおよびポート番号を指定して HTTP プロキシ http.proxy インスタンスを生成し、モジュール変数 net.proxies に追加します。

プロキシサーバの接続で認証が必要な場合、useridとpasswordを指定します。

ブロック criteria を省略すると、HTTP にクライアントとしてアクセスしたとき、常にこのメソッドで指定したプロキシをデフォルトとして使用します。

criteria をつけると、ブロックの評価結果が true のときのみこのプロキシを使います。criteria にはブロックパラメータが |addr:string| という形式で渡されます。addr はアクセス先のアドレスです。criteria は addr の内容をもとに、このプロキシを通するべきか判断します。

http.parsequery(query:string)

クエリー文字列をパースし、得られたキーと値を格納した dict インスタンスを返します。

http.splituri(uri:string)

URIを以下のようなフィールドに分けたリストを返します。

[scheme, authority, path, query, fragment]

該当するフィールドが URI 中に無い場合は空の文字列がその位置に入ります。

http.uri(scheme:string, authority:string,

path:string, query?:string, fragment?:string)

フィールドをもとにして URI を構成します。必要のないフィールドには空の文字列を入れます。

20.5. http.server クラス

20.5.1. インスタンスの生成

http.server(addr?:string, port:number => 80) {block?}

指定したアドレスおよびポート番号で HTTP リクエストを待ちうける http.server インスタンスを生成します。

20.5.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
sessions	http.sess ion[]	R	この server インスタンスが保持している session インスタンスのリスト

20.5.3. インスタンスメソッド

http.server#wait() {block?}

HTTP リクエストを待ち受けます。 リクエストが来たらその内容を格納した http.request インスタンスを 生成します。

ブロックを指定した場合、ブロックパラメータを |req:http.request| という形式で渡します。ブロックの評価が終わると、再び HTTP リクエストの待ち受けに戻ります。

20.5.4. サンプルプログラム

サーバプログラムの例を以下に示します。

20.6. http.client クラス

20.6.1. インスタンスの生成

指定したアドレスおよびポート番号に HTTP プロトコルで接続処理を行い、http.client インスタンスを生成します。

引数 addrProxy および portProxy にプロキシサーバのアドレスおよびポート番号を指定すると、そのプロキシを通した HTTP アクセスを行います。 認証が必要な場合は useridProxy とpasswordProxy にユーザ名とパスワードを指定します。

プロキシの指定を省略すると、http.addproxy で登録したプロキシのうち条件に合致するものを探し、なければダイレクトで接続をします。

20.6.2. インスタンスメソッド

http.client#request(method:string, uri:string, body?:stream:r,

version:string => 'HTTP/1.1', header%) {block?}

接続したサーバに対してリクエストを発行し、受信したレスポンスをもとに http.response インスタンスを生成して返します。引数 method にリクエストのメソッド、uri にリクエスト URI を指定します。uri 文字列中にホスト名は含みません。

引数bodyには、メッセージへッダに続いて送信するメッセージボディのストリームを指定します。省略した場合、メッセージボディは送信しません。

名前付き引数として、'field-name'=>'field-value'の形式で引数リストに入れると、メッセージへッダ中にそれらのフィールド定義を追加します。

block が定義されていると、生成された http.response インスタンスをブロックパラメータの引数にしてブロックを評価します。

以下にメソッドの使用例を示します。

http.client#cleanup()

レスポンスのメッセージボディをキャンセルするときに実行します。

20.6.3. リクエスト発行インスタンスメソッド

リクエストを発行するにはhttp.client#requestメソッドを使いますが、よく使われるリクエストについては、 リクエストの名前を持ったインスタンスメソッドが用意されています。以下にメソッド名と http.client#requestのmethod引数に渡す文字列の一覧を示します。

メソッド名	method 引数に渡す文字列
http.client#options	'options'
http.client#get	'get'
http.client#head	'head'
http.client#post	'post'
http.client#put	'put'
http.client#delete	'delete'
http.client#trace	'trace'
http.client#connect	'connect'

20.6.4. サンプルプログラム

クライアントプログラムの例を以下に示します。

20.7. http.stat クラス

20.7.1. 概要

open 関数などで http モジュールを通したストリームを取得すると、ストリームインスタンス中に stat という名前の http.stat インスタンスが作成されます。

20.7.2. メッセージヘッダのフィールド定義

http.stat クラスのインスタンスが stat という名前の変数に割り当てられているとき、インデクスアクセス stat['field-name'] でメッセージヘッダのフィールドに定義されている値を得ることができます。

フィールドが存在しない場合、この値はnilになります。存在する場合、そのフィールド名に対して最後に定義された値を文字列で返します。

20.7.3. インスタンスプロパティ

フィールド定義の中で時刻に関するものについては適切なデータ型に変換したプロパティが用意されています。

プロパティ	データ型	R/W	対応するフィールド	RFC2616
date	datetime	R	Date	14.18
expires	datetime	R	Expires	14.21
last_modified	datetime	R	Last-Modified	14.29

20.7.4. インスタンスメソッド

http.stat#field(name:string):map:[raise]

フィールド定義の値を文字列のリストで返します。指定のフィールド定義が無い場合空のリストを返します。 アトリビュート: raise をつけると、指定のフィールド定義が無い場合エラーになります。

20.8. http.request クラス

20.8.1. 概要

http.server インスタンスで wait メソッドを実行したときの戻り値として生成されます。サーバプログラムは、

http.requestのプロパティの値やメッセージボディの内容を確認し、response または respond メソッドで適切なレスポンスを返します。

20.8.2. メッセージヘッダのフィールド定義

http.request クラスのインスタンスが req という名前の変数に割り当てられているとき、インデクスアクセスreg['field-name'] でメッセージへッダのフィールドに定義されている値を得ることができます。

フィールドが存在しない場合、この値は nil になります。存在する場合、そのフィールド名に対して最後に定義された値を文字列で返します。

20.8.3. インスタンスプロパティ

http.request インスタンスが持っているプロパティは以下の通りです。

プロパティ	データ型	R/W	説明
method	string	R	リクエストメソッド
uri	string	R	リクエスト URI
scheme	string	R	リクエスト URI 中の scheme 要素
authority	string	R	リクエスト URI 中の authority 要素
path	string	R	リクエスト URI 中の path 要素
query	string	R	リクエスト URI 中の query 要素
fragment	string	R	リクエスト URI 中の fragment 要素
version	string	R	HTTP バージョン
body	stream	R	リクエストのメッセージボディを受信するストリーム
session	http. session	R	セッション情報

プロパティ scheme、authority、path、query および fragment は、プロパティ uri の文字列から抽出したものです。同じ結果はプロパティ uri の内容を http.splituri 関数で分割して得ることができます。 session プロパティは、http.server インスタンスが保持している session インスタンスへの参照です。セッションが保持されているかぎり、このプロパティは常に同じインスタンスを指します。

フィールド定義の中で時刻に関するものについては適切なデータ型に変換したプロパティが用意されています。

プロパティ	データ型	R/W	対応するフィールド	RFC2616
date	datetime	\mathbf{R}	Date	14.18
expires	datetime	R	Expires	14.21
last_modified	datetime	R	Last-Modified	14.29

20.8.4. インスタンスメソッド

http.request#field(name:string):map:[raise]

フィールド定義の値を文字列のリストで返します。指定のフィールド定義が無い場合空のリストを返します。

アトリビュート: raise をつけると、指定のフィールド定義が無い場合エラーになります。

http.request#response(code:string, reason?:string, body?:stream:r,

version:string => 'HTTP/1.1', header%):reduce

リクエストに対するレスポンスを送信します。このメソッドは、メッセージボディが必要ないか、レスポンスとして返すメッセージボディの長さがあらかじめ分かっているときに使用します。

引数 code に 3 桁の数字からなるステータスコード、reason にレスポンスの説明をするテキスト文字列を指定します。

引数bodyには、メッセージへッダに続いて送信するメッセージボディのストリームを指定します。省略した場合、メッセージボディは送信しません。

名前付き引数として、'field-name'=>'field-value'の形式で引数リストに入れると、メッセージへッダ中にそれらのフィールド定義を追加します。

http.request#respchunk(code:string, reason?:string,

version:string => 'HTTP/1.1', header%)

リクエストに対するレスポンスを送信し、出力用の stream インスタンスを生成します。このメソッドは、レスポンスとして返すメッセージボディの長さがあらかじめ分からない場合に使用します。

引数 code に 3 桁の数字からなるステータスコード、reason にレスポンスの説明をするテキスト文字列を指定します。

名前付き引数として、'field-name'=>'field-value'の形式で引数リストに入れると、メッセージへッダ中にそれらのフィールド定義を追加します。

生成された stream インスタンスに対してメッセージボディのデータを書き込みます。 stream#write メソッドを呼び出すごとに chunked-body を作成します。

http.request#ismethod(method:string)

リクエストのメソッド名を調べます。メソッドが引数 method と等しければ true、それ以外は false を返します。

20.9. http.session クラス

20.9.1. 概要

クライアントとのセッション情報を保持するクラスです。メソッド http.server#wait で生成される http.request インスタンスのプロパティとして存在します。

http.session インスタンスは、セッションが持続している間は常に同じ実体を参照します。そのため、セッションで保持すべき変数やオブジェクトを http.session インスタンスのプロパティにして利用することができます。

20.9.2. インスタンスプロパティ

セッションに関する以下のインスタンスプロパティを取得できます。

プロパティ データ型	R/W	説明
------------	-----	----

server	http. server	R	このセッションを保持している server インスタンス
remote_ip	string	R	リクエスト元の IP アドレス
remote_host	string	R	リクエスト元のホスト名
remote_logname	string	R	t.b.d
local_ip	string	R	t.b.d
local_host	string	R	t.b.d
date	datetime	R	セッションを開始した日時

20.10. http.response クラス

20.10.1. 概要

http.client インスタンスで request メソッドを実行したときの戻り値として生成されます。クライアントプログラムは、http.response の情報を見てレスポンスの状態を確認し、メッセージボディを受信します。

20.10.2. メッセージヘッダのフィールド定義

http.response クラスのインスタンスが resp という名前の変数に割り当てられているとき、インデクスアクセス resp['field-name'] でメッセージへッダのフィールドに定義されている値を得ることができます。フィールドが存在しない場合、この値はnilになります。存在する場合、そのフィールド名に対して最後に定義された値を文字列で返します。

20.10.3. インスタンスプロパティ

レスポンスのステータスを以下のプロパティで取得できます。

プロパティ	データ型	R/W	説明
version	string	R	HTTP バージョン
code	string	R	3桁の数字からなるステータスコード
reason	string	R	レスポンスの説明を表すテキスト文字列
field_names	list	R	格納されているフィールド定義名のリスト
body	stream	R	レスポンスのメッセージボディを受信するストリーム

フィールド定義の中で時刻に関するものについては適切なデータ型に変換したプロパティが用意されています。

プロパティ	データ型	R/W	対応するフィールド	RFC2616
date	datetime	R	Date	14.18
expires	datetime	R	Expires	14.21
last_modified	datetime	R	Last-Modified	14.29

20.10.4. インスタンスメソッド

http.response#field(name:string):map:[raise]

フィールド定義の値を文字列のリストで返します。指定のフィールド定義が無い場合空のリストを返します。 アトリビュート: raise をつけると、指定のフィールド定義が無い場合エラーになります。

21. jpeg モジュール

21.1. 概要

イメージデータを JPEG (Joint Photographic Experts Group) イメージフォーマットで読み書きするモジュールです。使用するには import 関数を使って jpeg モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている libjpeg ライブラリを内部で使用しています。

http://www.ijg.org/

21.2. ストリームの読み書き

image 関数で指定したストリームが以下のいずれかの条件に合致すると、それを JPEG イメージデータと認識して読み込み、image インスタンスを生成します。

- ストリームの識別子にサフィックス .jpeg、.jpg または .jpe がついている (大小文字の区別はなし)
- ストリームの先頭が 0xff, 0xd8 で始まっている (JPEG ストリームにおける Start of Image のシーケンス)

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、JPEG データを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .jpeg、.jpg または .jpe がついている (大小文字の区別はなし)

21.3. jpeg.exif クラス

21.3.1. 概要

JPEG ストリーム内の Exif フォーマットデータを扱うクラスです。

21.3.2. インスタンスの生成

jpeg.exif(stream?:stream:r):map:[raise] {block?}

jpeg.exifインスタンスを生成します。引数 streamを指定すると、そのストリームから Exif形式のデータを読み込みます。ストリームが JPEGフォーマットとして認識できない場合はエラーになります。 JPEGフォーマットになっているが、Exif のマーカーがない場合は nil を返します。アトリビュート: raise を指定すると、Exif マーカーがない場合エラーを通知します。

21.3.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	内容
endian	symbol	R	Exif 内のエンディアンタイプがビッグエンディアンの
			場合`big、リトルエンディアンの場合`littleを返
			します。
ifd0	jpeg.ifd	R	IFD0 の内容を返します。
ifd1	jpeg.ifd	R	IFD1 の内容を返します。

thumbnail	image	R	サムネールイメージデータを返します。サムネールイ
			メージがない場合、nil を返します。
thumbnail_jpeg	binary	R	サムネールイメージのJPEGデータを返します。サム
			ネールイメージが存在していないか、サムネールが
			JPEG 形式以外の場合は nil を返します。

21.3.4. インスタンスメソッド

jpeg.exif#each() {block?}

IFD0 内に定義されているタグデータを要素に持つイテレータを返します。ifd0 プロパティに対して each()メソッドを実行した場合と同じです。

21.4. jpeg.ifd クラス

21.4.1. 概要

21.4.2. インスタンスの生成

21.4.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	内容
name	string	R	
symbol	symbol	R	

インスタンスプロパティで以下のタグデータを取得することができます。

TIFF Rev.6.0 Attribute Information - Tags relating to image data structure

プロパティ	データ型	R/W	内容
ImageWidth	number		
ImageLength	number		
BitsPerSample	number		
Compression	number		
PhotometricInterpretation	number		
Orientation	number		
SamplesPerPixel	number		
PlanarConfiguration	number		
YCbCrSubSampling	number		
YCbCrPositioning	number		
XResolution	fraction		
YResolution	fraction		

ResolutionUnit	number	
----------------	--------	--

TIFF Rev.6.0 Attribute Information - Tags relating to recording offset

プロパティ	データ型	R/W	内容
StripOffsets	number		
RowsPerStrip	number		
StripByteCounts	number		
JPEGInterchangeFormat	number		
JPEGInterchangeFormatLength	number		

TIFF Rev.6.0 Attribute Information - Tags relating to image data characteristics

プロパティ	データ型	R/W	内容
TransferFunction	number		
WhitePoint	fraction		
PrimaryChromaticties	fraction		
YCbCrCoefficients	fraction		
ReferenceBlackWhite	fraction		

TIFF Rev.6.0 Attribute Information - Other tags

プロパティ	データ型	R/W	内容
DateTime	string		
ImageDescription	string		
Make	string		
Model	string		
Software	string		
Artist	string		
Copyright	string		

Exif IFD Attribute Information – Tags relating to Version

プロパティ	データ型	R/W	内容
ExifVersion	binary		
FlashPixVersion	binary		

Exif IFD Attribute Information – Tag relating to Image Data Characteristics

プロパティ	データ型	R/W	内容
ColorSpace	number		

Exif IFD Attribute Information – Tags relating to image configuration

プロパティ	データ型	R/W	内容
ComponentsConfiguration	binary		
CompressedBitsPerPixel	fraction		
PixelXDimension	number		
PixelYDimension	number		

Exif IFD Attribute Information – Tags relating to user information

プロパティ	データ型	R/W	内容
MakerNote	binary		
UserComment	binary		

Exif IFD Attribute Information – Tags relating to related file information

プロパティ	データ型	R/W	内容
RelatedSoundFile	string		

Exif IFD Attribute Information – Tags relating to date and time

プロパティ	データ型	R/W	内容
DateTimeOriginal	string		
DateTimeDigitized	string		
SubSecTime	string		
SubSecTimeOriginal	string		
SubSecTimeDigitized	string		

Exif IFD Attribute Information – Tags relating to picture-taking conditions

プロパティ	データ型	R/W	内容
ExposureTime	fraction		
FNumber	fraction		
ExposureProgram	number		
SpectralSensitivity	string		
ISOSpeedRatings	number		
OECF	binary		
ShutterSpeedValue	fraction		
ApertureValue	fraction		
BrightnessValue	fraction		
ExposureBiasValue	fraction		
MaxApertureValue	fraction		
SubjectDistance	fraction		
MeteringMode	number		
LightSource	number		
Flash	number		
FocalLength	fraction		
SubjectArea	number		
FlashEnergy	fraction		
SpatialFrequencyResponse	binary		
FocalPlaneXResolution	fraction		
FocalPlaneYResolution	fraction		
FocalPlaneResolutionUnit	number		
SubjectLocation	number		

ExposureIndex	fraction	
SensingMethod	number	
FileSource	binary	
SceneType	binary	
CFAPattern	binary	
CustomRendered	number	
ExposureMode	number	
WhiteBalance	number	
DigitalZoomRatio	fraction	
FocalLengthIn35mmFilm	number	
SceneCaptureType	number	
GainControl	fraction	
Contrast	number	
Saturation	number	
Sharpness	number	
DeviceSettingDescription	binary	
SubjectDistanceRange	number	

Exif IFD Attribute Information – Other Tags

プロパティ	データ型	R/W	内容
ImageUniqueID	string		

GPS Attribute Information

プロパティ	データ型	R/W	内容
GPSVersionID	binary		
GPSLatitudeRef	string		
GPSLatitude	fraction		
GPSLongitudeRef	string		
GPSLongitude	fraction		
GPSAltitudeRef	binary		
GPSAltitude	fraction		
GPSTimeStamp	fraction		
GPSSatellites	string		
GPSStatus	string		
GPSMeasureMode	string		
GPSDOP	fraction		
GPSSpeedRef	string		
GPSSpeed	fraction		
GPSTrackRef	string		
GPSTrack	fraction		

GPSImgDirectionRef	string	
GPSImgDirection	fraction	
GPSMapDatum	string	
GPSDestLatitudeRef	string	
GPSDestLatitude	fraction	
GPSDestLongitudeRef	string	
GPSDestLongitude	fraction	
GPSBearingRef	string	
GPSBearing	fraction	
GPSDestDistanceRef	string	
GPSDestDistance	fraction	
GPSProcessingMethod	binary	
GPSAreaInformation	binary	
GPSDateStamp	string	
GPSDifferential	number	

Interoperability IFD Attribute Information

プロパティ	データ型	R/W	内容
InteroperabilityIndex	string		
InteroperabilityVersion	binary		
RelatedImageWidth	number		
RelatedImageHeight	number		

21.4.4. インデクスアクセス

インデクサで要素名にタグシンボルあるいは文字列を指定することで、タグデータを取得することができます。

21.4.5. インスタンスメソッド

jpeg.ifd#each() {block?}

この IFD 内に定義されているタグデータを要素に持つイテレータを返します。

21.5. jpeg.tag **クラス**

21.5.1. 概要

21.5.2. インスタンスの生成

21.5.3. インスタンスプロパティ

プロパティ データ型 R/W 内容

id	number	R	
name	string	R	
symbol	symbol	R	
type	number	R	
value	any	R	
ifd	jpeg.ifd	R	

21.6. image クラスの拡張

21.6.1. インスタンスメソッド

image#jpegread(stream:stream:r):reduce

指定のストリームから JPEG フォーマットのデータを読み込んで image インスタンスにデータを展開します。

image#jpegwrite(stream:stream:w):reduce

image インスタンスのデータを JPEG フォーマットにして指定のストリームに書き込みます。

22. markdown モジュール

22.1. 概要

markdown 文法 (http://daringfireball.net/projects/markdown/) で記述されたドキュメントを解析するモジュールです。使用するには import 関数を使って markdown モジュールをインポートします。

22.2. モジュール関数

markdown.setpresenter():void {block}

help() 関数などを呼んだときに実行する表示処理をblockで登録します。

ブロックパラメータの形式は | title:string:nil, doc:markdown.document:nil | で、title にタイトル文字列、doc にヘルプ登録した markdown 形式のドキュメントを解析した結果を含んだ markdown.document インスタンスが入ります。タイトルがない場合、title には nil が入ります。ヘルプがない場合、doc には nil が入ります。

22.3. markdown.document クラス

22.3.1. インスタンスの生成

markdown.document(stream?:stream:r) {block?}

引数 stream で示されるストリームから markdown 文法のテキストを読み取り、解析した結果を含んだ markdown.document インスタンスを返します。引数 stream を省略した場合、内容が空の markdown.document インスタンスを返します。

22.3.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
root	markdown.item	R	
refs	iterator	R	

22.3.3. インスタンスメソッド

markdown.document#read(stream:stream:w):void

引数 stream で示されるストリームから markdown 文法のテキストを読み取り、現在のmarkdown.document インスタンスの内容に解析した結果を追加します。

markdown.document#print():void

インスタンスの内容を表示します。

22.4. markdown.item クラス

22.4.1. アイテムタイプ

タイプ	説明
root	

h1	
h2	
h3	
h4	
h5	
h6	
р	
blockquote	
em	
strong	
codeblock	
ol	
ul	
li	
line	
а	
img	
text	
code	
entity	
tag	
hr	
br	
referee	

22.4.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
type	symbol	R	タイプシンボル
text	string	R	
children	iterator	R	子要素をmarkdown.item型で返すイテレータ
url	string	R	
title	string	R	
attrs	string	R	

22.4.3. インスタンスメソッド

markdown.item#print():void インスタンスの内容を表示します。

23. math モジュール

23.1. 概要

数学演算処理をまとめたモジュールです。組み込みモジュールなので、インポートをしないで使用することができます。

23.2. モジュール関数

math.abs(num):map

絶対値を計算します。

math.acos(num):map:[deg]

アークコサインを計算し、角度をラジアン値で返します。アトリビュート: deg をつけると、degree 値で結果を返します。

math.arg(num):map:[deg]

num が複素数のとき、極座標における偏角をラジアン値で返します。アトリビュート:deg をつけると、degree 値で結果を返します。

math.asin(num):map:[deg]

アークサインを計算し、角度をラジアン値で返します。アトリビュート: deg をつけると、degree 値で結果を返します。

math.atan(num):map:[deq]

アークタンジェントを計算し、角度をラジアン値で返します。アトリビュート: deg をつけると、degree 値で結果を返します。

math.atan2(num1, num2):map:[deg]

num1 / num2 の値に対するアークタンジェントを計算し、角度をラジアン値で返します。 num2 が 0 のときの値は、 num1 が正のとき $\pi/2$ 、負のとき $-\pi/2$ になります。 アトリビュート: deg をつけると、 degree 値で結果を返します。

math.bezier(nums[]+:number)

与えられた制御点に基づいたベジエ曲線の関数を返します。

math.ceil(num):map

小数点以下一位を切り上げた数値を返します。

math.conj(num):map

共役複素数を返します。

math.cos(num):map:[deg]

コサインを計算します。指定する角度の単位はラジアンです。アトリビュート: deg をつけると、角度を degree 値で指定できます。

math.cosh(num):map ハイパボリックコサインを計算します。指定する角度の単位はラジアンです。 math.covariance(a:iterator, b:iterator) 二つのイテレータ要素間の共分散値を計算します。 math.cross product(a[], b[]) 外積を計算します。 math.diff(expr:expr, var:symbol):map expr が数学の式からなるとき、var を変数とした微分演算処理を行い、結果を expr インスタンスで返し ます。 math.dot product(a[], b[]) 内積を計算します。 math.exp(num):map 底が e のべき乗値を計算します。 math.fft(seq[]) t.b.d math.floor(num):map 小数点以下一位を切り捨てた数値を返します。 math.imag(num):map num が複素数のとき、虚数成分を返します。それ以外の場合 0 を返します。 math.integral() t.b.d math.least square(x:iterator, y:iterator, dim:number => 1, var:symbol => `x) 与えられた x, y 列に対し、最小二乗法による近似式を計算し、その演算式を持った function インス タンスを生成します。インスタンスの名前をfとしたとき、呼び出し形式は以下のようになります。 f(x:number):map 引数 dim で近似式の次数を指定します。デフォルトでは一次式による近似を行います。 引数 var は、生成する function インスタンスの引数のシンボルを指定します。デフォルトは`xです。 math.log(num):map 底が e の log 値を計算します。 math.log10(num):map 底が 10 の log 値を計算します。

math.norm(num):map

ノルムを計算します。

math.optimize(expr:expr):map

expr が数学の式からなるとき、フォーマットを最適化した結果を expr インスタンスで返します。

math.real(num):map

num が複素数のとき、実数成分を返します。それ以外の場合 num そのものを返します。

math.sin(num):map:[deq]

サインを計算します。指定する角度の単位はラジアンです。アトリビュート: deg をつけると、角度を degree 値で指定できます。

math.sinh(num):map

ハイパボリックサインを計算します。指定する角度の単位はラジアンです。

math.sqrt(num):map

平方根を計算します。

math.tan(num):map:[deg]

タンジェントを計算します。指定する角度の単位はラジアンです。アトリビュート: deg をつけると、角度を degree 値で指定できます。

math.tanh(num):map

ハイパボリックタンジェントを計算します。指定する角度の単位はラジアンです。

24. midi モジュール

24.1. 概要

MIDI 音源を制御してサウンドを出力したり、MIDI ファイルの読み書きを行うモジュールです。楽譜を MML で記述することができます。使用するには import 関数を使って midi モジュールをインポートします。

24.2. サンプル

24.2.1. MIDI ファイルを読み込んで演奏

	スクリプト
import(midi)	
midi.port().play('Caccini_	_avemaria.mid')

24.2.2. MML を演奏

	スクリプト
<pre>import(midi)</pre>	
midi.port().mml('CDEFGAB~C')	

24.2.3. MML から MIDI ファイルを生成

スクリプト	
import(midi)	
seq = midi.sequence()	
seq.mml('CDEFGAB~C')	
<pre>seq.write('simple.mid')</pre>	

24.3. モジュールプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
programs	midi.program[]	R/W	

24.4. mml.event クラス

24.4.1. インスタンスの生成

24.4.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
type	symbol	R	
timestamp	number	R	
status	number	R	
name	string	R	
symbol	symbol	R	
args	string	R	

24.5. mml.track クラス

24.5.1. インスタンスの生成

24.5.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
events	iterator	R トラック内に追加された midi.event インスタンスを要素に	
			イテレータを返します

24.5.3. インスタンスメソッド

midi.track#seek(offset:number, origin?:symbol):reduce トラック内のイベントの挿入位置を移動します。

midi.track#tell()

トラック内のイベントの挿入位置を返します。

midi.track#erase(n?:number):reduce トラック内の指定の位置にあるイベントを削除します。

midi.track#mml(str:string, max_velocity?:number):map:reduce MML 文字列をパースして track に追加します。

midi.track#note off(channel:number, note:number,

velocity:number, deltaTime?:number):map:reduce

MIDI チャネルイベント "Note Off" をトラックに追加します。

midi.track#note_on(channel:number, note:number,

velocity:number, deltaTime?:number):map:reduce

MIDI チャネルイベント "Note On" をトラックに追加します。

midi.track#poly pressure(channel:number, note:number,

value:number, deltaTime?:number):map:reduce

MIDI チャネルイベント "Poly Pressure" をトラックに追加します。

midi.track#control change(channel:number, controller,

value:number, deltaTime?:number):map:reduce

MIDI チャネルイベント "Control Change" をトラックに追加します。

midi.track#program change(channel:number,

program, deltaTime?:number):map:reduce

MIDI チャネルイベント "Program Change" をトラックに追加します。

midi.track#channel pressure(channel:number,

pressure:number, deltaTime?:number):map:reduce

- MIDI チャネルイベント "Channel Pressure" をトラックに追加します。
- midi.track#pitch bend(channel:number,
 - value:number, deltaTime?:number):map:reduce
 - MIDI チャネルイベント "Pitch Bend" をトラックに追加します。
- midi.track#sequence_number(number:number, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Sequence Number" をトラックに追加します。
- midi.track#text_event(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Text Event" をトラックに追加します。
- midi.track#copyright_notice(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDI メタイベント "Copyright Notice" をトラックに追加します。
- midi.track#sequence_or_track_name(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Sequence/Track Name" をトラックに追加します。
- midi.track#instrument_name(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Instrument Name" をトラックに追加します。
- midi.track#lyric_text(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDI メタイベント "Lyric Text" をトラックに追加します。
- midi.track#marker_text(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Marker Text" をトラックに追加します。
- midi.track#cue_point(text:string, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Cue Point" をトラックに追加します。
- - MIDI メタイベント "Channel Prefix Assignment" をトラックに追加します。
- midi.track#end_of_track(deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント ""をトラックに追加します。
- midi.track#tempo_setting(mpqn:number, deltaTime?:number):map:reduce MIDIメタイベント "Tempo Setting" をトラックに追加します。
- midi.track#smpte_offset(hour:number, minute:number, second:number, frame:number, subFrame:number, deltaTime?:number):map:reduce MIDI メタイベント "SMPTE Offset" をトラックに追加します。

MIDI メタイベント "Time Signature" をトラックに追加します。

midi.track#key signature(key:number,

scale:number, deltaTime?:number):map:reduce

MIDI メタイベント "Key Signature" をトラックに追加します。

midi.track#sequencer specific event(binary:binary,

deltaTime?:number):map:reduce

MIDI メタイベント "Sequencer Specific Event" をトラックに追加します。

24.6. mml.sequence クラス

24.6.1. インスタンスの生成

24.6.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
format	number	R/W	
tracks	iterator	R	シーケンス内の midi.track インスタンスを要素に持つイテレータを返します
events	iterator	R	
division	number	R/W	

24.6.3. インスタンスメソッド

midi.sequence#read(stream:stream:r):map:reduce ストリームからスタンダード MIDI ファイルを読み込みます。

midi.sequence#write(stream:stream:w):map:reduce シーケンスの内容を標準ストリームにスタンダード MIDI ファイル形式で書き出します。

midi.sequence#play(port:midi.port,

speed?:number, repeat:number:nil => 1):[background,player] 指定の MIDI ポートでシーケンスの内容を演奏します。

midi.sequence#track(index:number):map {block?}

インデクスで指定された track インスタンスが sequence にある場合はそれを返します。存在しない場合は、新しくインスタンスを生成して返します。その際、すでにあるトラックのインデクス値と新たなインデクス値の間があいている場合、中間の track インスタンスも生成します。

midi.sequence#mml(str:string, max_velocity?:number):reduce MML 文字列をパースして sequence に追加します。

midi.sequence#readmml(stream:stream, max_velocity?:number):reduce ストリームから MML 文字列を読み込んでパースし、sequence に追加します。

- 24.7. mml.portinfo クラス
- 24.7.1. インスタンスの生成
- 24.7.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
		R/W	

- 24.7.3. インスタンスメソッド
- 24.8. mml.port クラス
- 24.8.1. インスタンスの生成
- 24.8.2. インスタンスメソッド
- midi.port#send(msg+:number):map:reduce MIDI イベントメッセージをポートに送信します。
- midi.port#mml(str:string, max_velocity?:number):[background,player]

 MML 文字列をパースして得た MIDI チャネルイベントをポートに送信します。
- midi.port#readmml(stream:stream, max_velocity?:number):[background,player] ストリームから MML 文字列を読み込んでパースして得た MIDI チャネルイベントをポートに送信します。
- midi.port#note_off(channel:number, note:number, velocity:number):map:reduce MIDI チャネルイベント "Note Off" をポートに送信します。
- midi.port#note_on(channel:number, note:number, velocity:number):map:reduce MIDI チャネルイベント "Note On" をポートに送信します。
- midi.port#poly_pressure(channel:number, note:number, value:number):map:reduce MIDI チャネルイベント "Poly Pressure" をポートに送信します。
- midi.port#control_change(channel:number,
 - controller:number, value:number):map:reduce
 - MIDI チャネルイベント "Control Change" をポートに送信します。
- midi.port#program_change(channel:number, program:number):map:reduce MIDI チャネルイベント "Program Change" をポートに送信します。

midi.port#channel_pressure(channel:number, pressure:number):map:reduce MIDI チャネルイベント "Channel Pressure" をポートに送信します。

midi.port#pitch_bend(channel:number, value:number):map:reduce MIDI チャネルイベント "Pitch Bend" をポートに送信します。

24.9. mml.player クラス

24.9.1. インスタンスの生成

24.9.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
speed	number	R/W	
count	number	R	
repeat	number	R	
progress	number	R	

24.9.3. インスタンスメソッド

24.10. mml.controller クラス

24.10.1. インスタンスの生成

24.10.2. クラスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
	midi.controller	R/W	

24.10.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
		R/W	

24.10.4. インスタンスメソッド

24.11. mml.program クラス

24.11.1. インスタンスの生成

24.11.2. クラスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
	midi.program	R/W	

24.11.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
		R/W	

24.11.4. インスタンスメソッド

24.12. mml.soundfont クラス

24.12.1. インスタンスの生成

24.12.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
		R/W	

24.12.3. インスタンスメソッド

midi.soundfont#synthesizer(preset:number, bank:number, key:number,
 velocity:number):map {block?}

24.13. mml.synthesizer クラス

24.13.1. インスタンスの生成

24.13.2. インスタンスメソッド

24.14. MML 文法

音程は A, B, C, D, E, F, G の文字で表します。音程文字の後に # または + をつけると半音あがります。音程文字の後に - をつけると半音下がります。

音程の後に数値をつけると長さを指定することができます。たとえば、"C4" はドの四分音符を意味します。 長さ数値の後にドット記号をつけると、付点音符になります。たとえば、"C4." はドの付点四分音符を意味しま

す。 音符の長さを指定しないと、デフォルトの長さになります。この長さは、初期化時は四分音符になりますが、Lオ

ペレータでデフォルト長を変更することができます。"L8" はデフォルト長を四分音符にします。

音符の長さ指定の後に、カンマに続いて0から8までの数値を記述すると、実際に音を発声するゲート時間を指定できます。たとえば、"C4,1" は四分音符ですが発声時間はその長さの1/8になります。これはスタッカートを表現するときに使われます。ゲート時間を指定しないときは8になりますが、Qnでこのデフォルト値を変更することができます。

休符はオペレータ R で記述します。長さ指定の方法は音符と同じです。長さを指定しない場合はオペレータ L

で指定したデフォルト長になります。

音程文字の前に記号 ~ をつけるとオクターブが一つあがり、記号 _ をつけると一つ下がります。オクターブを複数段階上げ下げする場合は、これらの記号をその回数だけ繰り返します。このオクターブ指定は直後の音符に対してのみ有効です。

以降のオクターブをすべて変更したい場合はオペレータ < および > を使います。オペレータ < でオクターブを上げ、> で下げます。オペレータ O に続いてオクターブのレベルを数値で指定することもできます。オクターブレベルは 1 から 9 までの数値で、初期化時は 4 になります。

和音を記述するときは、音符どうしをコロン記号でつなげます。四分音符でドミソの和音を鳴らす場合は "C4:E4:G4" とします。

複数の音符を括弧でくくって長さ数値を指定すると、括弧内の音符の発声時間がその時間に調整されます。たとえば、"(CDE) 4"と記述すると、これは全体の長さが四分音符の連譜になります。括弧の中身を和音にすると、長さ指定を一括して行うことができます。四分音符でドミソの和音を鳴らす場合は "(C:E:G) 4"と記述できます。

音符列を "[part]n" のようにブラケットでくくると繰り返しになります。part は繰り返す音符列、n は繰り返す 回数です。n を省略すると 2 回繰り返します。ブラケットの内容を "[part|last]n" のように記述すると、| の後に続く部分は最後の繰り返しでは演奏されません。たとえば "[CDE|FG]3" は CDEFGCDEFGCDE を演奏します。音符列の中に繰り返しを記述することもできます。

音符同士をつなげる場合は & を使います。同じ音程の音符をこれで結合すると、つなげた長さぶんだけ切れ 目なしに演奏します。音程が異なる場合は、スラーの表現になりますが、現在はサポートされていません。

ベロシティを指定するには ∇n と記述します。nは0から127までの数値です。

音色を指定するには @nと記述します。nは GM 規格で定められた音色番号から 1を引いたもので、0から 127までの数値になります。たとえば、グランドピアノの場合 0、トランペットは 56 を指定します。

音色を名前で指定することもでき、その場合は @{name} のように記述します。音色の名前として指定できるものを以下にまとめます。

n	音色名	n	音色名
0	acoustic_piano	32	acoustic_bass
1	bright_piano	33	electric_bass_finger
2	electric_grand_piano	34	electric_bass_pick
3	honky_tonk_piano	35	fretless_bass
4	electric_piano	36	slap_bass_1
5	electric_piano_2	37	slap_bass_2
6	harpsichord	38	synth_bass_1
7	clavi	39	synth_bass_2
8	celesta	40	violin
9	glockenspiel	41	viola
10	musical_box	42	cello
11	vibraphone	43	double_bass
12	marimba	44	tremolo_strings

13	xylophone	45	pizzicato_strings
14	tubular_bell	46	orchestral_harp
15	dulcimer	47	timpani
16	drawbar_organ	48	string_ensemble_1
17	percussive_organ	49	string_ensemble_2
18	rock_organ	50	synth_strings_1
19	church_organ	51	synth_strings_2
20	reed_organ	52	voice_aahs
21	accordion	5 3	voice_oohs
22	harmonica	54	synth_voice
23	tango_accordion	55	orchestra_hit
24	acoustic_guitar_nylon	56	trumpet
25	acoustic_guitar_steel	57	trombone
26	electric_guitar_jazz	58	tuba
27	electric_guitar_clean	59	muted_trumpet
28	electric_guitar_muted	60	french_horn
29	overdriven_guitar	61	brass_section
30	distortion_guitar	62	synth_brass_1
31	guitar_harmonics	63	synth_brass_2

n	音色名	n	音色名
64	soprano_sax	96	fx_1_rain
65	alto_sax	97	fx_2_soundtrack
66	tenor_sax	98	fx_3_crystal
67	baritone_sax	99	fx_4_atmosphere
68	oboe	100	fx_5_brightness
69	english_horn	101	fx_6_goblins
70	bassoon	102	fx_7_echoes
71	clarinet	103	fx_8_sci_fi
72	piccolo	104	sitar
73	flute	105	banjo
74	recorder	106	shamisen
75	pan_flute	107	koto
76	blown_bottle	108	kalimba
77	shakuhachi	109	bagpipe
78	whistle	110	fiddle
79	ocarina	111	shanai
80	lead_1_square	112	tinkle_bell

81	lead_2_sawtooth	113	agogo
82	lead_3_calliope	114	steel_drums
83	lead_4_chiff	115	woodblock
84	lead_5_charang	116	taiko_drum
85	lead_6_voice	117	melodic_tom
86	lead_7_fifths	118	synth_drum
87	lead_8_bass_lead	119	reverse_cymbal
88	pad_1_fantasia	120	<pre>guitar_fret_noise</pre>
89	pad_2_warm	121	breath_noise
90	pad_3_polysynth	122	seashore
91	pad_4_choir	123	bird_tweet
92	pad_5_bowed	124	telephone_ring
93	pad_6_metallic	125	helicopter
94	pad_7_halo	126	applause
95	pad_8_sweep	127	gunshot

テンポ指定はオペレータ Tn で行います。n は 1 分間に演奏する四分音符の数です。 ラインコメントは // で始まります。ブロックコメントは /* から */ までの間になります。

25. modbuild モジュール

25.1. 概要

バイナリモジュールをビルドするためのモジュールです。使用するには import 関数を使って modbuile モジュールをインポートします。

以下は module-hoge.cpp から hoge.gurd をビルドするスクリプトの例です。

```
import(modbuild)
builder = modbuild.Builder()
builder.build('hoge', ['module-hoge.cpp'])
```

25.2. modbuild.Builder クラス

25.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
cflags	string	R/W	コンパイラオプション
incDirs	list	R/W	インクルードファイルのディレクトリ
ldflags	list	R/W	リンカオプション
precompile	string	R/W	Precompile するソースファイル名
progressFlag	Boolean	R/W	true のとき、コンパイル中のファイル名を表示します
hint	string	R/W	ビルドに失敗したときに表示するヒント文字列

25.4. インスタンスメソッド

modbuild.Builder#build(target:string, srcs[]:string)

バイナリモジュールをビルドします。

target にサフィックスを取り除いたモジュールファイル名を指定します。階層構造中のモジュールである場合、ディレクトリ名を含めたパス名を指定します。

srcs はコンパイルするソースファイルをリストで指定します。リスト中の最初のファイルをモジュールのメインファイルとして扱います。

26. modgen モジュール

26.1. 概要

バイナリモジュールの C++ソースコードとビルド用スクリプトのひな型を作成します。

26.2. 使い方

このモジュールはコマンドラインから実行されます。たとえばバイナリモジュール hoge のひな型を作る場合は 以下のように gura インタープリターを実行します。

\$ gura -i modgen hoge

27. msico モジュール

27.1. 概要

イメージデータを Microsoft アイコンファイルのフォーマットで読み書きするモジュールです。使用するには import 関数を使って msico モジュールをインポートします。

アイコンファイルは通常サイズの異なる複数のイメージを格納していますが、msico モジュールの content クラスを使うと、格納されたイメージを取得したり、新たなイメージを追加したりすることができます。

モジュールの実装は以下の URL の記述に基づきます。

http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms997538.aspx

27.2. ストリームの読み書き

image 関数で指定したストリームが以下のいずれかの条件に合致すると、それを ICO イメージデータと認識して読み込み、image インスタンスを生成します。

● ストリームの識別子にサフィックス .ico がついている (大小文字の区別はなし)

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、ICO イメージデータを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .ico がついている (大小文字の区別はなし)

27.3. msico.content クラス

27.3.1. 概要

ICO ファイルは複数のイメージデータを格納できるフォーマットなので、単一の image インスタンスではファイル全体のデータ構造を処理することができません。msico.content クラスを使うと、複数のイメージデータを格納・参照することができるようになります。

27.3.2. インスタンスの生成

msico.content(stream?:stream:r, format:symbol => `rgba) {block?}

msicoインスタンスを生成します。引数 streamを指定すると、そのストリームから ICO ファイル形式のデータを読み込みます。引数 format は、内部に保持する image インスタンスのフォーマットを指定します。

27.3.3. インスタンスメソッド

msico.content#addimage(image:image):map:reduce msicoインスタンスにイメージデータを追加します。

msico.content#write(stream:stream:w):reduce
msicoインスタンスの内容をICOファイル形式でストリームに書き込みます。

27.4. image クラスの拡張

27.4.1. インスタンスメソッド

image#msicoread(stream:stream:r):reduce

ICOファイル形式でストリームを読み込み、image インスタンスに展開します。複数のイメージが存在する場合は、最初のイメージを読み込みます。

image#msicowrite(stream:stream:w):reduce

image インスタンスの内容をICO ファイル形式でストリームに書き込みます。このメソッドでは、複数のイメージを含むICO ファイルは作成できません。

28. mswin モジュール

28.1. 概要

Microsoft Windows で提供される機能を扱うモジュールです。使用するには import 関数を使って mswin モジュールをインポートします。

Windows COM インターフェースへのアクセスや、レジストリ操作が可能になります。

28.2. mswin.ole クラス

28.2.1. インスタンスの生成

mswin.ole(progid:string):map:[connect,no const]

指定の ProgID に対応する COM サーバを生成し、その COM サーバへのインターフェースをインスタンスメソッドとして備えた mswin.ole インスタンスを返します。 アトリビュート: connect を指定すると、すでに存在する COM サーバへの接続を行います。

デフォルトでは、TypeInfo 中に定数値があるとき、これらを mswin.ole インスタンス中にプロパティとしてとりこみますが、アトリビュート:no const をつけるとこの処理を省きます。

28.3. mswin.regkey クラス

28.3.1. 概要

Windowsのレジストリを扱うクラスです。

28.3.2. 定義済みインスタンス

モジュール mswin には、レジストリのルートキーを参照する regkey 型のインスタンスが以下のようにあらかじめ定義されています。

```
mswin.HKEY_CLASSES_ROOT
mswin.HKEY_CURRENT_CONFIG
mswin.HKEY_CURRENT_USER
mswin.HKEY_LOCAL_MACHINE
mswin.HKEY_USERS
mswin.HKEY_PERFORMANCE_DATA
mswin.HKEY_DYN_DATA
```

28.3.3. インスタンスメソッド

mswin.regkey#createkey(subkey:string,

option?:number, samDesired?:number):map {block?}

サブキーを作成します。subkey にキーの名前を指定します。

option には以下のいずれかの値を指定します。

mswin.REG OPTION NON VOLATILE

- mswin.REG OPTION VOLATILE
- mswin.REG OPTION BACKUP RESTORE

samDesired には以下のセキュリティアクセスマスク値を組み合わせた値を指定します。

- mswin.KEY CREATE LINK
- mswin.KEY CREATE SUB KEY
- mswin.KEY ENUMERATE SUB KEYS
- mswin.KEY EXECUTE
- mswin.KEY NOTIFY
- mswin.KEY QUERY VALUE
- mswin.KEY SET VALUE
- mswin.KEY ALL ACCESS
- mswin.KEY READ
- mswin.KEY WRITE

mswin.regkey#deletekey(subkey:string):map:void 指定のキー subkey を削除します。

mswin.regkey#deletevalue(valueName:string):map:void 指定の値 valueName を削除します。

mswin.regkey#enumkey(samDesired?:number):[openkey] {block?}

デフォルトの動作では、サブキー名の一覧を得るイテレータを生成します。このとき、samDesired の値は 意味を持ちません。

アトリビュート: openkey をつけると、サブキーをオープンし、そのキーに対応する mswin.regkey インスタンスを得るイテレータになります。このとき、samDesired はオープンするキーに対するセキュリティアクセスマスク値になります。

mswin.regkey#enumvalue()

レジストリエントリの名前の一覧を得るイテレータを生成します。

mswin.regkey#openkey(subkey:string, samDesired?:number):map {block?}

サブキーsubkey をオープンします。samDesired はオープンするキーに対するセキュリティアクセスマスク値です。

mswin.regkey#queryvalue(valueName?:string):map

レジストリエントリのデータを取得します。valueName にレジストリエントリの名前を指定して実行すると、データ内容が返ります。指定の名前のレジストリエントリが無い場合はエラーになります。

mswin.regkey#setvalue(valueName:string, data:nomap):map

レジストリエントリのデータを設定します。valueName はレジストリエントリの名前、data は設定するデータです。

28.4. COM について

28.4.1. COM サーバへの接続

COM は Microsoft が開発したアプリケーションインターフェースの仕様です。Microsoft Word や Excel、Internet Explorer が COM をサポートしており、これらのアプリケーションの動作をすべて外部からコントロール することができます。このような COM を外部に提供しているアプリケーションや DLL を COM サーバと呼びます。

mswin.ole で mswin.ole インスタンスを生成すると、指定した COM サーバへの接続を確立し、COM サーバが提供するメソッドやプロパティを動的に作成します。

以下は Microsoft Excel を起動し、既存のファイルをオープンする例です。

```
import(mswin)
mswin.ole('Excel.Application') {|app|
   app.Visible = 1
   app.Workbooks.Open(path.absname('hoge.xls'))
}
```

以下は Microsoft Word を起動し、既存のファイルをオープンする例です。

```
import(mswin)
mswin.ole('Word.Application') {|app|
    app.Visible = 1
    app.Documents.Open(path.absname('hoge.doc'))
}
```

28.4.2. プロパティの取得

mswin.ole インスタンスでプロパティ名をメンバとして参照すると、OLE プロパティの取得を行います。このとき、値の型を以下のように変換します。 (注: 2012/06 現在、リストには対応していません)

OLE 型	スクリプトの型	説明
VT_UI1	number	1 バイト符号なし整数
VT_I2	number	2 バイト符号付き整数
VT_I4	number	4 バイト符号付き整数
VT_R4	number	4 バイト浮動小数点数値
VT_R8	number	8 バイト浮動小数点数値
VT_BOOL	boolean	ブーリアン値。0のとき false、それ以外を true にします。
VT_DATE	datetime	時刻。タイムゾーンとしてローカルタイムを設定します
VT_BSTR	string	文字列
VT_DISPATCH	mswin.ole	OLE ディスパッチャ
VT_DECIMAL		(未対応)
VT_ERROR		(未対応)
VT_CY		(未対応)
VT_UNKNOWN		(未対応)

VT_VARIANT		(未対応)
------------	--	-------

COM へのアクセスは、プロパティ名に対応する DispID を指定して、DISPATCH_PROPERTYGET を実行しています。

28.4.3. プロパティの設定

mswin.ole インスタンスでプロパティ名をメンバにしたものに対して代入をすると、OLE プロパティの設定を行います。このとき、値の型を以下のように変換します。

スクリプトの型	OLE 型	説明
number(整数値)	VT_I4	4 バイト符号付き整数
number(実数値)	VT_R8	8 バイト浮動小数点数値
string	VT_BSTR	文字列
boolean	VT_BOOL	ブーリアン値。true のとき -1、false のとき 0 を設定します
list	VT_ARRAY	リスト
mswin.ole	VT_DISPATCH	OLE ディスパッチャ
datetime	VT_DATE	時刻。タイムゾーンを無視し設定日時をそのまま反映させます

COM へのアクセスは、プロパティ名に対応する DispID を指定して、DISPATCH_PROPERTYPUT を実行しています。

28.4.4. メソッドの実行

mswin.ole インスタンスのメンバを引数リストつきで評価すると、引数リスト内の値を OLE タイプに変換してから OLE メソッドを実行します。実行した結果得られた値をスクリプトの型に変換し、評価値として返します。

COM へのアクセスは、メソッド名に対応する DispID を指定して(DISPATCH_METHOD | DISPATCH_PROPERTYGET) を実行しています。

28.4.5. イテレータの生成

イテレータを期待している文中にmswin.oleインスタンスを指定したとき、内包しているOLEオブジェクトがイテレータに対応していれば、適切なイテレータを生成します。以下は、Excel ワークブック中の全てのワークシート名を表示する例です。

```
コクリプト

import(mswin)
mswin.ole('Excel.Application') {|app|
app.Visible = 1
wb = app.Workbooks.Open(path.absname('hoge.xlsx'))
for (ws in wb.WorkSheets) {
   println(ws.Name)
}
}
```

COM へのアクセスは、DispID に DISPID_NEWENUM を指定して DISPATCH_METHOD を実行していま



29. opengl モジュール

「Gura モジュールリファレンス – opengl」を参照ください。

30. os モジュール

30.1. 概要

OSの操作をまとめたモジュールです。組み込みモジュールなので、インポートをしないで使用することができます。

30.2. モジュール変数

os モジュール内には以下の変数があらかじめ設定されています。

変数	型	内容
stdin	stream	標準入力。デフォルトで sys.stdin が割り当てられています。
stdout	stream	標準出力。デフォルトで sys.stdout が割り当てられています。
stderr	stream	標準エラー出力。デフォルトで sys.stderr が割り当てられています。

30.3. モジュール関数

os.clock()

1/100 秒ごとに数値が増えるシステムクロック値を返します。

os.exec(pathname:string, args*:string):map:[fork]

外部実行可能ファイルを実行します。引数pathnameに実行可能ファイルのファイル名、argsに引数を 指定します。

デフォルトでは、この関数は実行可能ファイルが終了するのを待ち、実行結果のエラーレベル (C 言語のプログラムならば main 関数の戻り値または exit 関数の引数値) を戻り値として返します。このとき、標準出力および標準エラー出力の内容をそれぞれ os.stdout と os.stderr に指定したストリームに対して出力します。

アトリビュート: forkをつけると、実行可能ファイルを起動した後、すぐに関数から処理が戻ります。この場合、戻り値は常に0です。

os.fromnative(buff:binary):map

OS 依存の文字列をスクリプトで処理できる文字列に変換します。

os.getenv(name:string):map

引数 name に対応する環境変数の値を文字列で返します。環境変数が設定されていない場合は空の文字列を返します。

os.putenv(name:string, value:string):void

引数 name に対応する環境変数の値を value に設定します。

os.redirect(stdin:stream:nil:r, stdout:stream:nil:w,

stderr?:stream:w) {block?}

標準入力 os.stdin、標準出力 os.stdout および標準エラー出力 os.stderr を指定の stream

インスタンスに設定します。引数 stderr は省略可能で、省略すると stdout に指定したのと同じ stream インスタンスに設定します。

stdinにnilを設定すると、標準入力に何も接続しません。stdoutやstderrにnilを設定すると、これらの出力を抑止することができます。

ブロックを指定して実行すると、ストリームを設定してからブロックを評価し、評価後に設定をもとにもどします。

os.redirect の戻り値はブロックが指定されている場合はその評価値、指定されていなければ常に nil です。

os.sleep(secs:number)

指定した秒数だけスリープします。

os.tonative(str:string):map

スクリプトで処理できる文字列から OS 依存の文字列に変換します。

31. path モジュール

31.1. 概要

パス操作をまとめたモジュールです。組み込みモジュールなので、インポートをしないで使用することができます。

31.2. モジュール関数

path.absname(name:string):map:[http]

絶対パス名を返します。パス名は整形された形式で生成されます。整形の方法については path.regulate を参照ください。

path.bottom(pathname:string):map

パス名をパスセパレータで区切った時の最後の要素名を返します。

path.cutbottom(pathname:string):map

パス名をパスセパレータで区切った時の最後の要素名を取り除いた結果を返します。

path.dir(pathname?:string, pattern*:string):map:flat:[stat,icase,file,dir] {block?} ディレクトリを表すパス名を指定し、含まれるファイルまたはディレクトリをサーチします。

引数 pathname はパス名です。引数 pattern には、ファイルまたはディレクトリのベース名に対するパターンを 0 個以上指定します。この引数を省略すると、すべてのファイルまたはディレクトリをサーチします。アトリビュート: stat をつけるとパス名ではなく詳細情報を含んだ stat 型オブジェクトを返します。:icase は、パターンマッチングの際に大文字と小文字の区別をなくすアトリビュートです。: file や: dir をつけると、サーチ対象をそれぞれファイルまたはディレクトリに限定できます。

ブロック式をつけると、各サーチ結果ごとにブロックが繰り返し評価されます。このとき、ブロックには | pathname:string, idx:number | という形式で引数が渡されます。pathname はサーチ結果のパス名、idx はループのインデクス番号です。

path.dirname(pathname:string):map パス名からディレクトリ名要素を抽出します。

path.exists(pathname:string):map

指定したパスが存在するとき true を返します。それ以外のときは false を返します。

path.filename(pathname:string):map パス名からファイル名要素を抽出します。

path.glob(pattern:string):map:flat:[stat,icase,file,dir] {block?}

パターンに適合するファイルやディレクトリをサーチします。

引数 pattern にパターンを指定します。このパターンはディレクトリ名を含むことができ、パス名の途中のディレクトリ名にもワイルドカードを使えます。

アトリビュート:stat をつけるとパス名ではなく詳細情報を含んだ stat 型オブジェクトを返しま

す。:icase は、パターンマッチングの際に大文字と小文字の区別をなくすアトリビュートです。:file や:dir をつけると、サーチ対象をそれぞれファイルまたはディレクトリに限定できます。

ブロック式をつけると、サーチ結果ごとにブロックが繰り返し評価されます。このとき、ブロックには | pathname: string, idx: number | という形式で引数が渡されます。 pathname はサーチ結果のパス名、idx はループのインデクス番号です。

path.join(paths+:string):map:[uri]

パス名をつなぎあわせた結果を返します。

つなぎあわせるときのパスセパレータは、現在動作している **OS** が **Windows** 系の場合はバックスラッシュ "¥"、それ以外の場合はスラッシュ "/" を使用します。ただし、アトリビュート:uri を指定するとパスセパレータとして常にスラッシュ "/" を使用します。

path.match(pattern:string, name:string):map:[icase]

文字列 name がファイル名マッチングパターン pattern に合致しているとき true を返します。それ以外は false を返します。デフォルトでは比較文字列の大文字と小文字を区別しますが、アトリビュート:icase をつけると区別しません。

マッチングパターンには以下のワイルドカードを使用することができます。

ワイルドカード	説明
*	任意の長さの文字列
?	任意の一文字
[]	ブラケット内で指定した文字のいずれか
[!]	ブラケット内で指定した文字以外のいずれか

path.regulate(pathname:string):map:[uri]

パス名を以下の条件に従って整形します。

- パスセパレータを統一します。現在動作している OS が Windows 系の場合はバッククォーテーション "¥"、それ以外はスラッシュ "/" を使用します。ただし、アトリビュート: uri を指定すると常にパスセパレータとしてスラッシュ "/" を使用します。
- 相対パス指定 "." をとりのぞきます。
- 相対パス指定 ".." をとりのぞき、ひとつ上のパス要素を削除します。

path.split(pathname:string):map:[bottom]

パス名をディレクトリ名とファイル名に分離し、リストにして返します。これは、path.dirname と path.filename の結果をあわせたものと同じです。

アトリビュート: bottom をつけると、パスセパレータで区切った時の前の要素と最後の要素をリストにして返します。これは、path.cutbottomとpath.bottomの結果をあわせたものと同じです。

path.splitext(pathname:string):map

パス名のサフィックスを分離し、分離した前の部分とサフィックスをリストにして返します。

path.stat(pathname:string):map

指定したパスの属性を収めた stat インスタンスを生成して返します。 stat インスタンスの内容はパス名を解釈したモジュールによって異なります。

path.walk(pathname?:string, maxdepth?:number, pattern*:string)

:map:flat:[stat,icase,file,dir] {block?}

パス名で指定したディレクトリを基点として含まれるファイルまたはディレクトリを再帰的にサーチします。

引数 pathname はパス名です。maxdepth には、サーチするディレクトリの深さを指定します。0 を指定すると基点のディレクトリのみのサーチとなり、これは path.dir の動作と同じになります。省略すると、深さの制限がなくなります。

引数 pattern には、ファイルまたはディレクトリのベース名に対するパターンを 0 個以上指定します。この引数を省略すると、すべてのファイルまたはディレクトリをサーチします。

アトリビュート: stat をつけるとパス名ではなく詳細情報を含んだ stat 型オブジェクトを返します。: icase は、パターンマッチングの際に大文字と小文字の区別をなくすアトリビュートです。: file や: dir をつけると、サーチ対象をそれぞれファイルまたはディレクトリに限定できます。

ブロック式をつけると、各サーチ結果ごとにブロックが繰り返し評価されます。このとき、ブロックには | pathname:string, idx:number | という形式で引数が渡されます。pathname はサーチ結果のパス名、idx はループのインデクス番号です。

32. png モジュール

32.1. 概要

イメージデータを PNG (Portable Network Graphics) イメージフォーマットで読み書きするモジュールです。 使用するには import 関数を使って png モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている libpng ライブラリを内部で使用しています。

http://www.libpng.org/pub/png/libpng.html

32.2. ストリームの読み書き

image 関数で指定したストリームが以下のいずれかの条件に合致すると、それをPNGイメージデータと認識して読み込み、image インスタンスを生成します。

- ストリームの識別子にサフィックス .png がついている (大小文字の区別はなし)
- ストリームの先頭が 0x89, 0x50, 0x4e, 0x47, 0x0d, 0x0a, 0x1a, 0x0a で始まっている

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、PNG イメージデータを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .png がついている (大小文字の区別はなし)

32.3. image クラスの拡張

32.3.1. インスタンスメソッド

image#pngread(stream:stream:r):reduce

指定のストリームから PNG フォーマットのデータを読み込んで image インスタンスにデータを展開します。

image#pngwrite(stream:stream:w):reduce

image インスタンスのデータを PNG フォーマットにして指定のストリームに書き込みます。

33. ppm モジュール

33.1. 概要

イメージデータを PPM (Portable Pixmap) イメージフォーマットで読み書きするモジュールです。使用するには import 関数を使って ppm モジュールをインポートします。

モジュールの実装は以下の URL に掲載されている仕様に基づきます。

http://local.wasp.uwa.edu.au/~pbourke/dataformats/ppm/

33.2. ストリームの読み書き

image 関数で指定したストリームが以下のいずれかの条件に合致すると、それをPPMイメージデータと認識して読み込み、image インスタンスを生成します。

- ストリームの識別子にサフィックス .ppm または .pbm がついている (大小文字の区別はなし)
- ストリームの先頭が "P2"、"P3" または "P6" で始まっている

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、PPM イメージデータを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .ppm または .pbm がついている (大小文字の区別はなし)

33.3. image **クラスの拡張**

33.3.1. インスタンスメソッド

image#ppmread(stream:stream:r):reduce

指定のストリームから PPM フォーマットのデータを読み込んで image インスタンスにデータを展開します。

image#ppmwrite(stream:stream:w):reduce

image インスタンスのデータを PPM フォーマットにして指定のストリームに書き込みます。

34. re モジュール

34.1. 概要

正規表現を処理するモジュールです。使用するには import 関数を使って re モジュールをインポートします。

以下のURLで公開されている鬼車ライブラリを内部で使用しています。

http://www.geocities.jp/kosako3/oniguruma/

正規表現を用いて、以下の文字列操作をすることができます。

- パターンマッチング mat.ch
- 連続パターンマッチング scan
- 文字列分割 split
- 置換 sub

34.2. 正規表現パターン記述について

re モジュールでは、re.pattern インスタンスで正規表現パターンを扱います。

正規表現の文法は <u>POSIX</u> の拡張正規表現に従います。将来的に正規表現のエンジンを変更する可能性もあるので、鬼車ライブラリで独自拡張されたパターンの使用は推奨しません。

re.pattern を引数にとる関数またはメソッドに文字列を指定すると、型キャストにより自動的にre.pattern インスタンスを生成し、引数として渡します。以下の二つの記述は等価です。

```
re.match(r'\forall w+', str)
re.match(re.pattern(r'\forall w+'), str)
```

正規表現のパターン文字列中では、文字種を指定したり正規表現記号を無効化したりするためにバッククオート記号 "¥" を多用します。そのため、正規表現パターンを記述するには、上記のように "r" プレフィックスつきで文字列を作成し、バッククオートをスクリプトのパーサに通常文字として認識させるようにしておくと便利です。

re.pattern インスタンスはパターン文字列をもとに正規表現のパーサをコンパイルして生成されます。このため、大量の文字列を扱うとき、re.pattern インスタンスの生成を伴う文字列からのキャストがパフォーマンスを低下させる原因になります。あらかじめ re.pattern インスタンスを生成しておき、これを引数として渡すことで、評価効率を上げることができます。

34.3. モジュール関数

re.match (pattern:re.pattern, str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map 正規表現 pattern に文字列 str がマッチしたとき re.match インスタンスを返します。マッチしない 場合は nil を返します。

引数 pos と endpos でパターンをマッチさせる範囲を文字単位で指定することができます。 endpos は範囲に含める文字の次の文字位置を指定します。 これらを省略した場合、文字列全体が処理対象になりま

す。

re.scan(pattern:re.pattern, str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map {block?} 正規表現 pattern に文字列 str がマッチしたとき re.match インスタンスを返すイテレータを生成します。マッチすると、マッチした文字列の次の文字からパターンマッチングを行います。このようにして、パターンがマッチしなくなるまで re.match インスタンスを返します。

引数 pos と endpos でパターンをマッチさせる範囲を文字単位で指定することができます。 endpos は範囲に含める文字の次の文字位置を指定します。 これらを省略した場合、文字列全体が処理対象になります。

re.split(pattern:re.pattern, str:string, count?:number):map {block?}
正規表現 pattern であらわされるパターンで文字列 str を分割します。引数 count を指定すると、
分割数をその数までに限定します。

re.sub(pattern:re.pattern, replace, str:string, count?:number):map

文字列 str 中、正規表現 pattern にマッチする部分を replace で置換します。 引数 count を指定すると、置換する回数をその数までに限定します。

replace には文字列または関数を指定します。

replace に文字列を指定したとき、マッチ部分をその文字列で置き換えます。このとき、replace 文字列中に "¥0" という記述があったとき、この部分をマッチした全体の文字列で置き換えます。また、"¥1"、"¥2" ... という記述はそれぞれマッチパターンのグループ 1、グループ 2...の文字列で置き換えます。 replace に関数を渡したとき、関数を以下の形式で呼び出し、マッチ部分をこの関数の戻り値で置き換え

戻り値が文字列でない場合は、文字列に変換してから置き換えます。

34.4. re.match クラス

34.4.1. インスタンスの生成

re.match インスタンスは以下の関数またはメソッドで生成されます。

- モジュール関数 re.match
- re.pattern クラスのメソッド re.pattern#match
- string クラスに追加されるメソッド string#match

34.4.2. マッチパターンの取得

m が re.match のインスタンスであるとすると、m[0]を参照するとマッチした全体の文字列が返ります。また、m[1]は1番目のグループの文字列、m[2]は2番のグループ文字列と続きます。[] を用いたグループ文字列参照は、re.match#group メソッドを使った場合と等価です。

グループに名前がついているとき、インデクスに名前文字列を指定することができます。グループ名は、以下の例のようにグループの内部に "?<" と ">" で囲んで記述します。

 $m = re.pattern(r'(?\langle first \rangle Yd+) Y.(?\langle second \rangle Yd^*)').match('3.14')$

この例の場合、最初のグループは m['first']、二番目のグループは m['second'] というように参照できます。

34.4.3. インスタンスプロパティ

プロパティ	型	R/W	説明
string	string	R	比較した文字列全体を返します

34.4.4. インスタンスメソッド

re.match#end(index):map

引数 index で指定したグループの終了位置を返します。

re.match#group(index):map

引数 index で指定したグループの文字列を返します。この処理は、[] を用いたグループ参照と同じです。

re.match#groups()

マッチしたグループの文字列をリストにして返します。

re.match#start(index):map

引数 index で指定したグループの開始位置を返します。

34.5. re.pattern クラス

34.5.1. インスタンスの生成

re.pattern(pattern:string):map:[icase, multiline]

正規表現を記述した文字列から re.pattern インスタンスを返します。

アトリビュート: icase をつけると、マッチングの際大文字と小文字の区別をつけません。

アトリビュート:multilineをつけると、改行コードが含まれている文字列を処理できるようになります。

34.5.2. インスタンスメソッド

re.pattern#match(str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map

正規表現 pattern に文字列 str がマッチしたとき re.match インスタンスを返します。マッチしない 場合は nil を返します。

引数 pos と endpos でパターンをマッチさせる範囲を文字単位で指定することができます。 endpos は範囲に含める文字の次の文字位置を指定します。 これらを省略した場合、文字列全体が処理対象になります。

re.pattern#scan(str:string, pos:number => 0, endpos?:number):map {block?}

正規表現 pattern に文字列 str がマッチしたとき re.match インスタンスを返すイテレータを生成します。マッチすると、マッチした文字列の次の文字からパターンマッチングを行います。このようにして、パタ

ーンがマッチしなくなるまで re.match インスタンスを返します。

引数 pos と endpos でパターンをマッチさせる範囲を文字単位で指定することができます。 endpos は範囲に含める文字の次の文字位置を指定します。 これらを省略した場合、文字列全体が処理対象になります。

re.pattern#split(str:string, count?:number):map {block?}

正規表現 pattern であらわされるパターンで文字列 str を分割します。引数 count を指定すると、 分割数をその数までに限定します。

re.pattern#sub(replace, str:string, count?:number):map

文字列 str 中、正規表現 pattern にマッチする部分を replace で置換します。 引数 count を指定すると、置換する回数をその数までに限定します。

replace には文字列または関数を指定します。詳細についてはモジュール関数 re.sub の説明を参照ください。

34.6. string **クラスの**拡張

34.6.1. インスタンスメソッド

re モジュールをインポートすると、string クラスに以下のメソッドが追加されます。

string#match(pattern:re.pattern, pos:number => 0, endpos?:number):map

正規表現 pattern に string インスタンスがマッチしたとき re.match インスタンスを返します。マッチしない場合は nil を返します。

引数 pos と endpos でパターンをマッチさせる範囲を文字単位で指定することができます。 endpos は範囲に含める文字の次の文字位置を指定します。 これらを省略した場合、文字列全体が処理対象になります。

string#scan(pattern:re.pattern, pos:number => 0, endpos?:number):map {block?} 正規表現 pattern にstringインスタンスがマッチしたときre.matchインスタンスを返すイテレータを 生成します。マッチすると、マッチした文字列の次の文字からパターンマッチングを行います。このようにして、パターンがマッチしなくなるまで re.match インスタンスを返します。

引数 pos と endpos でパターンをマッチさせる範囲を文字単位で指定することができます。 endpos は範囲に含める文字の次の文字位置を指定します。 これらを省略した場合、文字列全体が処理対象になります。

string#splitreg(pattern:re.pattern, count?:number):map {block?}

正規表現 pattern であらわされるパターンで string インスタンスを分割します。 引数 count を指定すると、分割数をその数までに限定します。

string#splitメソッドは string クラスに元から備わっているインスタンスメソッドで、通常の文字列パターンによる文字列区切りを行います。

string#sub(pattern:re.pattern, replace, count?:number):map

string インスタンス中、正規表現 pattern にマッチする部分を replace で置換します。引数 count を指定すると、置換する回数をその数までに限定します。

replace には文字列または関数を指定します。詳細についてはモジュール関数 re.sub の説明を参照ください。

34.7. list/iterator クラスの拡張

34.7.1. インスタンスメソッド

re モジュールをインポートすると、list および iterator クラスに以下のメソッドが追加されます。

list#grep(pattern:re.pattern) {block?}

iterator#grep(pattern:re.pattern) {block?}

リストまたはイテレータの要素を文字列にして正規表現 pattern と比較し、マッチしたときの re.match インスタンスを要素にするイテレータを返します。

このメソッドは、メンバマッピングを使ってリストやイテレータに対して match メソッドを実行した後、 skipnil で nil 要素を取り除く処理と同じです。リスト tbl があったとき、以下の二つの呼び出しは等価です。

35. sed モジュール

35.1. 概要

ファイル中の文字列を置換するモジュールです。使用するには import 関数を使って sed モジュールをインポートします。

35.2. モジュール関数

36. sdl モジュール

「Gura モジュールリファレンス – sdl」を参照ください。

37. sqlite3 モジュール

37.1. 概要

SQLite3 のデータベースにアクセスするためのモジュールです。使用するには import 関数を使って sqlite3 モジュールをインポートします。

以下のURLで公開されているSQLite3クライアントライブラリを内部で使用しています。

http://www.sqlite.org

37.2. データオブジェクトの対応

SQLite3のデータ型とスクリプトのデータ型は以下のように対応しています。

SQLite3	スクリプト
SQLITE_INTEGER	number
SQLITE_FLOAT	number
SQLITE_TEXT	string
SQLITE_BLOB	(未対応)
SQLITE_NULL	nil

37.3. sqlite3.db **クラス**

37.3.1. インスタンスの生成

sqlite3.db(filename:string) {block?}

データベースファイルを指定し、sqlite3.dbインスタンスを生成します。

37.3.2. インスタンスメソッド

sqlite3.db#close()

データベースをクローズします。

sqlite3.db#exec(sql:string):map

SQL 文を実行します。

sqlite3.db#getcolnames(sql:string):map {block?}

SQL 文を実行した結果のカラム名をリストにして返します。

sqlite3.db#query(sql:string):map {block?}

SQL 文を実行した結果を返すイテレータを生成します。

sqlite3.db#transaction() {block}

SQLite3 コマンド "BEGIN TRANSACTION" を実行して block を評価し、その後 SQLite3 コマンド"END TRANSACTION" を実行します。

38. sys モジュール

38.1. 概要

Gura 本体の動作モードを変えたり、実行状態を得たりするモジュールです。組み込みモジュールなので、インポートをしないで使用することができます。

38.2. モジュール関数

sys.echo(flag:boolean)

対話モードのとき、結果をエコーバックするか否かを設定します。flagにtrueを指定するとエコーバックが有効になります。

sys.exit(status?:number)

プログラムを終了します。status で終了コードを指定します。省略すると0になります。

38.3. モジュール変数

sysモジュール内には以下の変数があらかじめ設定されています。

変数	型	内容		
ps1	string	対話モードで、インデントがかかっていないときのプロンプト		
ps2	string	対話モードで、インデントがかかっている間のプロンプト		
stdin	stream	標準入力に使うストリーム		
stdout	stream	標準出力に使うストリーム		
stderr	stream	標準エラー出力に使うストリーム		
path	list	モジュールのサーチパスを記述したリスト		
version	string	バージョン番号		
build	symbol	Gura をビルドした環境のシンボル値		
		`gcc GNU C compiler		
		`msc Microsoft Visual C++		
platform	symbol	動作しているプラットフォームのシンボル値		
		`linux Linux		
		`mswin Microsoft Windows		
executable	string	実行ファイルのフルパス名		
datadir	string	データディレクトリのフルパス名		
libdir	string	ライブラリディレクトリのフルパス名		
argv	list	引数リスト。argv[0] にはスクリプトの名前がフルパスで格納される		

39. tar モジュール

39.1. 概要

TAR アーカイブの操作をするモジュールです。使用するには import 関数を使って tar モジュールをインポートします。

通常のTARファイルに加え、gzipで圧縮されたTARファイル (サフィックス .tgz または.tar.gz) および bzip2 で圧縮されたTARファイル (サフィックス .tar.bz2) も処理できます。

モジュールの実装は以下の URL の記述に基づきます。

http://www.gnu.org/software/tar/manual/html_node/Standard.html

以下のURLで公開されているライブラリを内部で使用しています。

http://zlib.net/ zlib http://www.bzip.org/ libbz2

なお、tar モジュールは zlib や libbz2 ライブラリを内包しているので、gzip や bzip2 モジュールをインポートする必要はありません。

39.2. パス名の拡張

パス名の途中に以下のいずれかのサフィックスがついた要素名が存在し、それがファイルであれば、その要素 以下のパスで指定されるディレクトリやファイルは tar モジュールによって処理されます。

.tar .tar.gz .tgz .tar.bz2

この拡張により、以下の操作が可能になります。

- open 関数で TAR アーカイブ中のファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、TAR アーカイブ中のファイルパス名を指定できるようになります。
- path.dir, path.walk, path.glob 関数で、TAR アーカイブ中のディレクトリパスをサーチできるようになります。

39.3. モジュール変数

ファイルタイプを表す以下の値が変数に割り当てられています。tar.stat クラスのプロパティ typeflag で参照されます。

変数	型	内容		
REGTYPE	number	regular file		
AREGTYPE	number	regular file		
LNKTYPE	number	link		
SYMTYPE	number	(reserved)		
CHRTYPE	number	character special		

BLKTYPE	number	block special	
DIRTYPE	number	directory	
FIFOTYPE	number	FIFO special	
CONTTYPE	number	(reserved)	
XHDTYPE	number	Extended header referring to the next file in the archive	
XGLTYPE	number	Global extended header	

39.4. tar.reader クラス

39.4.1. インスタンスの生成

tar.reader(stream:stream:r, compression?:symbol) {block?}

ストリームから TAR アーカイブデータを読み込む tar.reader インスタンスを生成します。

引数 compression を省略すると、ストリームの名前がサフィックス .tar.gz または .tgz を持っているとき gzip 展開して読み込みます。また、ストリームの名前がサフィックス .tar.bz2 を持っているとき bzip2 展開して読み込みます。

compression に以下の symbol を指定してストリームデータの展開方法を指定することができます。

- `none 展開処理なし
- `auto ストリームの名前のサフィックスによる自動認識 (デフォルト)
- `gzip gzip 展開
- `bzip2 bzip2 展開

39.4.2. インスタンスメソッド

tar.reader#entries() {block?}

TAR アーカイブ中のファイルを読み取るストリームを返すイテレータを生成します。

39.5. tar.writer クラス

39.5.1. インスタンスの生成

tar.writer(stream:stream:w, compression?:symbol) {block?}

ストリームに TAR アーカイブデータを書き込む tar.writer インスタンスを生成します。

引数 compression を省略すると、ストリームの名前がサフィックス.tar.gz または.tgz を持っているとき gzip 圧縮して書き込みます。また、ストリームの名前がサフィックス.tar.bz2 を持っているとき bzip2 圧縮して書き込みます。

compression に以下の symbol を指定してストリームデータの圧縮方法を指定することができます。

- `none 圧縮処理なし
- `auto ストリームの名前のサフィックスによる自動認識 (デフォルト)
- `qzip gzip 圧縮
- `bzip2 **bzip2** 圧縮

39.5.2. インスタンスメソッド

tar.writer#add(stream:stream:r, filename?:string):map:reduce

ストリームの内容をもったエントリを TAR アーカイブに追加します。引数 filename をつけるとその名前でエントリを作成します。省略した場合、ストリームの名前がエントリにつけられます。

tar.writer#close():reduce

ターミネータブロックの追加やストリームのフラッシュなど、必要な後処理を行います。

39.6. tar.stat クラス

39.6.1. インスタンスプロパティ

メソッド tar.reader#entries で返すストリームには、stat という名前の tar.stat 型のプロパティがあります。このプロパティは以下のメンバを持ちます。

プロパティ	データ型	R/W	説明	
name	string	R	ファイル名	
linkname	string	R	リンク名	
uname	string	R	ユーザ名	
gname	string	R	グループ名	
mode	number	R	アクセスモード	
uid	number	R	ユーザ ID	
gid	number	R	グループ ID	
size	number	R	ファイルサイズ	
mtime	datetime	R	更新日時	
atime	datetime	R	アクセス日時	
ctime	datetime	R	作成日時	
chksum	number	R	ヘッダブロック内のチェックサム	
typeflag	number	R	ファイルタイプ	
devmajor	number	R	デバイスメジャー番号	
devminor	number	R	デバイスマイナー番号	

40. tcl モジュール

「Gura モジュールリファレンス – tcl, tk」を参照ください。

41. tk モジュール

「Gura モジュールリファレンス – tcl, tk」を参照ください。

42. tokenizer モジュール

t.b.d

43. units **モジュール**

t.b.d

44. uuid モジュール

44.1. 概要

UUID を生成します。使用するには import 関数を使って uuid モジュールをインポートします。

44.2. モジュール関数

uuid.generate():[upper]

UUID を生成し、文字列にして返します。アトリビュート: upper をつけると、16 進数の A から F までの文字を大文字にします。

45. wx モジュール

「Gura モジュールリファレンス – wx」を参照ください。

46. xml モジュール

46.1. 概要

XML ファイルの読み書きを行います。使用するには import 関数を使って xml モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている Expat ライブラリを内部で使用しています。

http://expat.sourceforge.net/

46.2. モジュール関数

xml.read(stream:stream:r)

46.3. xml.parser クラス

46.3.1. 使用例

```
import(xml)
Parser = class(xml.parser) {
   StartElement(elem:xml.element) = {
      printf('%s\forall n', elem)
   }
   EndElement(tagname:string) = {
      println(name)
   }
   CharacterData(text:string) = {
      print(text)
   }
}
```

46.3.2. インスタンスの生成

xml.parser()

46.3.3. オーバーライドメソッド

```
xml.parser#StartElement(element:xml.element)
```

xml.parser#EndElement(name:string)

xml.parser#CharacterData(text:string)

xml.parser#ProcessingInstruction(target:string, data:string)

```
xml.parser#Comment(data:string)
xml.parser#StartCdataSection()
xml.parser#EndCdataSection()
xml.parser#Default(text:string)
xml.parser#DefaultExpand(text:string)
xml.parser#ExternalEntityRef()
xml.parser#SkippedEntity(entityName:string, isParameterEntity:boolean)
xml.parser#StartNamespaceDecl(prefix:string, uri:string)
xml.parser#EndNamespaceDecl(prefix:string)
xml.parser#XmlDecl(version:string, encoding:string, standalone?:boolean)
xml.parser#StartDoctypeDecl(doctypeName:string, systemId:string,
                                publicId:string, hasInternalSubset:boolean)
xml.parser#EndDoctypeDecl()
xml.parser#ElementDecl(name:string, type:symbol)
xml.parser#AttlistDecl(elemName:string, attName:string, attType:string,
                                default:string, isRequired:boolean)
xml.parser#EntityDecl(entityName:string, isParameterEntity:boolean,
                                value:string, base:string, systemId:string,
                                publicId:string, notationName:string)
xml.parser#NotationDecl(notationName:string, base:string,
                                systemId:string, publicId:string)
xml.parser#NotStandalone()
```

46.3.4. インスタンスメソッド

xml.parser#parse(stream:stream)

46.4. xml.attribute クラス

46.4.1. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
name	string	R	
value	string	R	

46.5. xml.element クラス

46.5.1. インスタンスの生成

xml.element(_tagname_:string, attrs%) {block?}

xml.comment(comment:string)

46.5.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明	
tagname	string	R		
text	string	R		
comment	string	R		
children	iterator	R	xml.element	
attrs	iterator	R	xml.attribute	

46.5.3. インスタンスメソッド

xml.element#gendoc(stream?:stream:w, fancy?:boolean, indentLevel?:number)

xml.element#gettext()

xml.element#addchild(value):void:map

46.5.4. オペレータ

xml.element << any</pre>

46.6. xml.document クラス

46.6.1. インスタンスの生成

xml.document(stream?:stream:r) {block?}

46.6.2. インスタンスプロパティ

プロパティ	データ型	R/W	説明
version	string	R	
encoding	string	R	
root	xml.element	R/W	

46.6.3. インスタンスメソッド

xml.document#gendoc(stream?:stream:w, fancy?:boolean)

46.7. stream **クラスの拡張**

46.7.1. インスタンスメソッド

stream#xmlread()

47. xpm モジュール

47.1. 概要

イメージデータを XPM (X Pixmap) イメージフォーマットで出力するモジュールです。使用するには import 関数を使って xpm モジュールをインポートします。

47.2. ストリームの書きこみ

image#write メソッドで指定したストリームが以下の条件に合致すると、XPM イメージデータを出力します。

● ストリームの識別子にサフィックス .xpm がついている (大小文字の区別はなし)

47.3. image **クラスの拡張**

47.3.1. インスタンスメソッド

image#xpmwrite(stream:stream:w):reduce

image インスタンスのデータを XPM フォーマットにして指定のストリームに書き込みます。

48. yaml モジュール

48.1. 概要

YAML ファイルの読み書きを行います。使用するには import 関数を使って yaml モジュールをインポートします。

以下の URL で公開されている yaml ライブラリを内部で使用しています。

http://www.yaml.org/

48.2. データオブジェクトの対応

YAMLのデータ型とスクリプトのデータ型は以下のように対応しています。

YAML	スクリプト
sequence	list
mapping	dict
scalar	string はそのまま。その他のデータは string に変換

48.3. モジュール関数

yaml.compose(obj)

obj の内容を YAML フォーマットの文字列にします。

yaml.parse(str:string)

YAML フォーマットの文字列をパースし、Gura のオブジェクトを生成します。

yaml.read(stream:stream:r)

ストリームから YAML フォーマットの文字列を読み取り、Gura のオブジェクトを生成します。

yaml.write(stream:stream:w, obj):reduce

obj の内容を YAML フォーマットの文字列にしてストリームに出力します。

48.4. stream クラスの拡張

48.4.1. インスタンスメソッド

stream#yamlread()

ストリームから YAML フォーマットの文字列を読み取り、Gura のオブジェクトを生成します。

stream#yamlwrite(obj):reduce

obj の内容を YAML フォーマットの文字列にしてストリームに出力します。

49. zip モジュール

49.1. 概要

ZIP アーカイブの操作をするモジュールです。使用するには import 関数を使って zip モジュールをインポートします。

以下のURLで公開されているライブラリを内部で使用しています。

http://zlib.net/ zlib http://www.bzip.org/ libbz2

49.2. パス名の拡張

パス名の途中にサフィックス .zip がついた要素が存在し、それがファイルであれば、その要素以下のパスで 指定されるディレクトリやファイルは zip モジュールによって処理されます。

この拡張により、以下の操作が可能になります。

- open 関数で ZIP アーカイブ中のファイルをオープンできるようになります。
- ストリームを受け取る引数に、ZIPアーカイブ中のファイルパス名を指定できるようになります。
- path.dir, path.walk, path.glob 関数で、ZIP アーカイブ中のディレクトリパスをサーチできるよう になります。

49.3. zip.reader クラス

49.3.1. インスタンスの生成

zip.reader(stream:stream:r) {block?}

ストリームから ZIP アーカイブデータを読み込む zip.reader インスタンスを生成します。

49.3.2. インスタンスメソッド

zip.reader#entries() {block?}

ZIPアーカイブ中のファイルを読み取るストリームを返すイテレータを生成します。

49.4. zip.writer **/**57

49.4.1. インスタンスの生成

zip.writer(stream:stream:w, compression?:symbol) {block?}

ストリームに ZIP アーカイブデータを書き込む zip.writer インスタンスを生成します。引数 compression には圧縮形式を以下のシンボルから指定します。

- `store 非圧縮
- `deflate gzip 形式による圧縮 (デフォルト)
- `bzip2 bzip2 形式による圧縮

49.4.2. インスタンスメソッド

zip.writer#add(stream:stream:r, filename?:string,

compression?:symbol):map:reduce

ストリームの内容をもったエントリを ZIP アーカイブに追加します。 引数 filename をつけるとその名前でエントリを作成します。 省略した場合、ストリームの名前がエントリにつけられます。

compression にはこのエントリに対する圧縮形式を zip.writer 関数と同じシンボルで指定します。省略した場合、zip.writer で指定した compression を適用します。

zip.writer#close():reduce

Central Directory Record の追加やストリームのフラッシュなど、必要な後処理を行います。

49.5. zip.stat クラス

49.5.1. インスタンスプロパティ

メソッド zip.reader#entries で返すストリームには、stat という名前のプロパティがあり zip.stat 型のインスタンスです。このインスタンスは以下のプロパティを持ちます。

プロパティ	データ型	R/W	内容
filename	string	R	ファイル名
comment	string	R	コメント
mtime	datetime	R	最終更新日時
crc32	number	R	CRC32 チェックサム
compression_method	number	R	圧縮形式
size	number	R	圧縮前のサイズ
compressed_size	number	R	圧縮後のサイズ
attributes	number	R	アトリビュート